Vol.75通巻868号　平成6年7月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会
Architecture and Society

7
1994

特集

住空間における居どころへの視点
――個からの再出発



日本建築協会

Kinden
CORPORATION

生まれて50年。



彼には理想の都市が見えていた。

レオナルド・ダ・ビンチ（1452-1519）
画家・彫刻家でありながら、1490年代後半には「理想都市」の手稿を遺し、その後は近代地図学の始原となる平面測量図を描くなど、建築・都市計画にも稀なる才能を発揮した。

人が、暮らしが息づく理想の都市を…。きんでんの変わらぬ原動力となるこの想いを、かの天才ダ・ビンチは40代後半に抱き、手稿に遺したと記録されます。きんでんもまた、これまで国内外の数多くのプロジェクトにこの熱い想いを託してきました。そして今、創業半世紀。これからの時代を動かす無限の領域「情報」への挑戦を主軸とし、エネルギー・環境分野へも、より創造的な総合設備エンジニアリングを推進してまいります。

情報通信分野で未来の都市を…。
きんでん、50年目の決意です。

総合設備エンジニアリング
情報
エネルギー
環境

おかげさまで 50th Anniversary

株式会社 きんでん

本　店/〒531 大阪市北区本庄東2丁目3番41号　TEL. 06(375)6000
東京本社/〒141 東京都品川区東五反田5丁目25番12号　TEL. 03(3447)3151

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」平成6年12月号の「第41回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに40回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

41回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1. 応募される人は満35歳までの青年技術者であって、本会会員に限る。

2. 原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。(すいせん用紙は事務局にご請求ください)

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3. 応募者は、設計（住宅・インテリアを含む）、計画（都市計画など）、構造、設備、施工、その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出する。

4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。

5. 「青年技術者選考委員会」において選考されたものは「第41回青年技術者特集号」（平成6年12月号）に記載するとともに、記念品を贈呈する。

6. 提出資料

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

A資料

A資料は、A3判用紙10枚以内にまとめる。

① 建築設計の場合

——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）

——上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合

——それぞれの分野にふさわしい資料

B資料

上記A資料の各実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、A資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、400字詰原稿用紙5枚以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者・本人の執筆に限る。

■すいせんのことば

原則として、すいせん者によるすいせんのことば(120字程度)を添付のこと。自せんの場合は不要。

※「青年技術者選考委員会」において選考し、採択されたものについては、後日、本人の写真、青年技術者としてのことば（青年技術者としての抱負、考え方、信念、建築観等々を、400字程度で執筆）の提出をお願いすることにします。

7. 提出期限 平成6年9月30日(金)

8. 提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階
電話 06-348-0635 FAX.06-348-0634

9. 青年技術者選考委員会（平成6年度）

委員長 荒井 清（東畑建築事務所常務取締役）
委 員 奥田一夫（建設省官庁営繕部営繕計画課特別整備企画室長）
中川洋一（安井建築設計事務所常務取締役大阪事務所所長）
上原正行（竹中工務店大阪本店設計部設計部長）
藤田昌美（企画設計社取締役）
橘英三郎（大阪大学助教授）
徳田裕英（東畑建築事務所構造部長）
守屋豊仁（新日本設備計画常務取締役）
村本 至（新日本空調技術本部技術企画部長）
三浦康夫（大林組本店建築工務部長）
水田 匡（大成建設大阪支店建築部部長）

平成6年度
建築工事実務講習会

主催　㈳日本建築協会

■趣旨と内容

●官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって、講習会を開催します。

●とくに取りつきにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算業務に重点をおき講義します。

●また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の修得をはかります。

●「積算業務」では建築数量積算規準にのっとり、また「仮設見積」ではS造・地下1階・地上13階建事務所ビルをとり上げ、わかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書の受講希望科目を線で囲み(両科目とも受講される場合は、両方を線で囲んで下さい)、必要事項をご記入の上、会費を添えて本会事業課までお送り下さい。(会費は銀行振込・郵便振替でも可。但し、その場合お払込みいただく前に、必ず受講申込書を郵便かFAXでお送りください。)引換えに受講券をお送りいたします。

■申込締切日

〔施工計画〕：9月1日㈭

〔積算・仮設見積〕：9月14日㈬

※但し、定員に達し次第締切ります。

■申込先

㈳日本建築協会

〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
(大阪駅前第3ビル21階)

TEL.(06)348-0633　FAX.(06)348-0634

・受付時間　毎日、午前9時半～午後5時半　但し土・日・祝日を除く。

・詳細は、事務局事業課へお問い合わせください。

施工計画

●施工計画Ⅰ　服部　勝興氏
㈱鴻池組大阪本店建築技術部部長代理

●施工計画Ⅱ　佐貫　久氏
鹿島建設㈱大阪支店建築部建築工事管理部次長

施工計画はその良否が、いかに能率よく、品質を確保し、安全で、経済的に本体工事を施工するかの鍵をにぎっています。仮設から仕上げ、設備にいたる工事全般について、適切な施工計画をいかに立案するか、その要点をわかりやすく説明します。

と　き　平成6年**9**月**8**日㈭
午前9時～午後5時

ところ　大阪府建築健保会館・多目的ホール
(大阪市中央区和泉町2-1-11
TEL.06-942-3621)

定　員　170名

会　費　10,000円(テキスト代、消費税を含む)

■会費振込口座番号

●取引銀行
住友銀行高麗橋支店
(普通No.860034)
三和銀行瓦町支店
(〃 No.210054)
大和銀行北浜支店
(〃 No.272234)

●郵便振替
大阪1-39975

積算・仮設見積

●積算業務　吉田　豊氏
㈱竹中工務店大阪本店見積部見積課長

●仮設見積　藤井　孝晏氏
㈱大林組本店建築工務部副部長

見積業務のなかで、基本となるのは数量積算です。この積算の手順、基準を主体にコスト管理等を合理的に行えるように解説します。

また、仮設工事費は、全体工事費に対して大きな比率を占めているにもかかわらず、単に床面積当たりとか請負金比率といった概算で見積されている場合も多いのが現状です。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

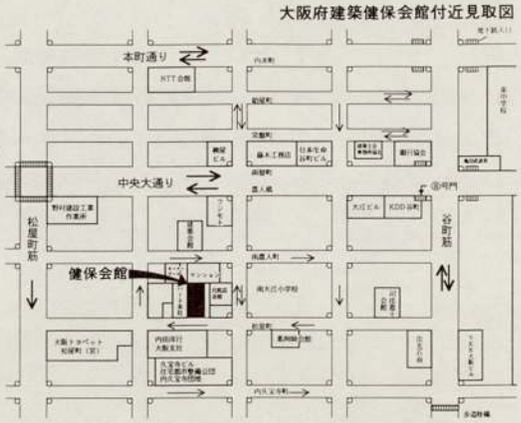
と　き　平成6年**9**月**21**日㈬
午前9時～午後5時

ところ　大阪府建築健保会館・多目的ホール
(大阪市中央区和泉町2-1-11
TEL.06-942-3621)

定　員　170名

会　費　10,000円(テキスト代、消費税を含む)

大阪府建築健保会館付近見取図



キ リ ト リ 線

平成6年度建築工事実務講習会　受講申込書

No.

社団法人　日本建築協会　御中

平成6年　　月　　日

郵便番号	受講者氏名	年齢	受講希望科目 ※両科目とも受講される場合は、両方を線で囲んで下さい。	
住所			施工計画	積算・仮設見積
事業所名(または氏名)			施工計画	積算・仮設見積
担当責任者			施工計画	積算・仮設見積
電話番号			施工計画	積算・仮設見積
会費支払方法　・事務局へ持参　・現金送金　・銀行振込　・郵便振替　いずれかに○印を付して下さい				

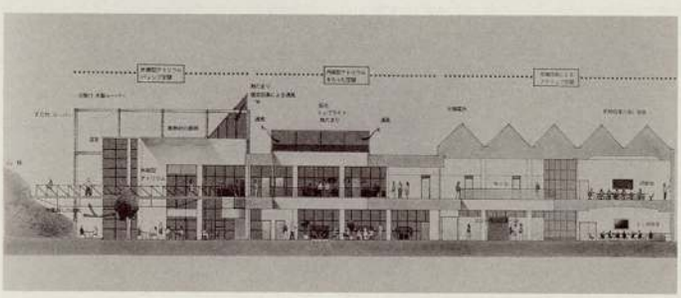
※受講申込書が足りない場合は、複写して下さい。

会告

UNEP国際環境技術センター講演会＋見学会
人と環境にやさしい建築とは？

日　時　1994年 **9** 月**21**日(水)
　　14：00～17：30
講　師　小林正美
　　／京都大学助教授
　　大西　晃
　　／昭和設計取締役企画設計部長
会　場　UNEP国際環境技術センター
　　特別会議室
　　＊大阪市鶴見区緑地公園2-110
　　＊京橋駅より約15分
定　員　50人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
　　＊含、飲物、消費税
主　催　㈳日本建築協会
後　援　㈶地球環境センター
　　(UNEP国際環境技術センター支援法人)
申　込　9月13日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名(UNEP)
　　2)氏名　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証郵送先
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を 9 月14日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第３ビル21Ｆ　〒530
　　FAX 348-0634　TEL 348-0633







小林正美(こばやし　まさみ)
1948年生まれ。
京都大学工学部土木工学科卒業。同大学院建築学専攻の修士・博士課程修了。建築学科の助手、講師を経て
91　助教授(大学院工学研究科環境地球工学専攻)となり、現在に至る。
専門　人間環境設計学(環境行動学をふまえた建築設計)、及び、都市デザインの研究と実践。
著者　『仕組まれた意匠』(共著・鹿島出版会)など



大西　晃(おおにし　あきら)
1947年生まれ。
1970　大阪工業大学工学部建築学科卒業。昭和設計入社。現在、企画設計部長。
作品　パラディッソ、京都女性総合センターなど

環境と共生して建築すること

ここで関わる環境には、自然環境をはじめとして、人間環境、社会・経済環境などがあろう。自然環境に優しいということは、自然のバランスに身を委ね、その一部として生きていくこと。これは穏やかな自然に恵まれてきた日本では、かつてはあたりまえの生活であった。一方、厳しい自然と対峙し、それとの闘いで培われてきた西欧文明においては、その自然に優しくすることは、人間に対しては厳しい摂理を要求することになる。人間が人間に対して優しいということは、助けを求める人々に直接手を貸すことのみに終わらず、個々の人間の自立の力を与えること。人はそれぞれに多様であり、自分とは異なる他者が在ることを認め、その中で自分の力で生きて行こうと意志する人々に、それが可能なように(物理的な)環境を整えること、それが我々の仕事であろう。社会・経済環境に対する優しさとは、たとえその行為が結果的には熱力学の第二法則(エントロピーの増大)に支配されていようとも、消費と生産の(リ)サイクルを約束事として了解し、経済とエネルギーの効率を目指し、新しい技術開発によって地球環境問題の解決があるのだという夢を人々に与えることである。

環境と共生して建築するということは、部分と全体との間に階層性を設けず、異なる考えを同列に配置し、常に自らが図になることを求めるのではなく、中心性を捨て、正面性(ファサード)を捨て、他のもののよき風景となることで、それは建築化されよう。

(小林正美)

UNEP国際環境技術センター建築概要
所在地　大阪市鶴見区緑地公園2-110
施設内容　事務室、特別会議室、研修室
　　図書室、書庫ほか
建築主　大阪市環境保健局
設計監理　大阪市都市設備局・昭和設計
施　工　清水建設
敷地面積　4,763.96㎡
建築面積　1,609.52㎡
延床面積　2,799.57㎡
構造規模　S、2F、P1
工　期　1992年11月～1993年９月
＊第40回大阪建築コンクール入賞作品

通常総会決議報告

平成６年６月22日開催の通常総会において、右記議案がそれぞれ原案のとおり承認されたので、ここに会告します。

(1)平成５年度事業報告並びに決算報告
承認の件(本号掲載)
(2)平成６年度事業計画並びに収支予算
承認の件(４月号会告済)
(3)名誉会長推挙の件
佐野正一前会長を名誉会長に推挙した。

定時評議員会決議報告

平成６年６月22日開催の定時評議員会において、右記のとおり承認されたので、ここに会告します。

(1)評議員会議長及び副議長互選の件
議　長　鶴田昭一(建築工房和泉屋)
副議長　三木敏男(奥村組)
(2)理事補選の件
新任理事　北村武司(熊谷組)
退任理事　臼井眞三(熊谷組)
(3)平成５年度事業報告並びに決算報告
承認の件(本号掲載)

『村野藤吾の造形意匠』割引価格で頒布

『村野藤吾の造形意匠』(全３巻)が京都書院から刊行されました。日本建築協会へご注文いただいた方には、割引価格で発送いたします。

価格　セット135,000円を**120,000円**
　　各巻　45,000円を **40,000円**

●第１巻「伝統のかたち」―古典の意匠と村野藤吾の意匠とを対比しつつ、外観、内部の造り、装飾・紋様に至るまでを紹介。
●第２巻「階段・手摺」―階段・手摺の造形を素材別に収録。
●第３巻「壁・開口部」―壁・開口部を中心に装飾・足元廻り・床・塔等のディテールを収載。

体裁　B4判　上製本　各巻288頁
監修　村野、森建築事務所
執筆　中村昌生、西和夫、長谷川堯　他

平成５年度事業報告書

平成５年４月１日～平成６年３月31日

１．総　　会

(1)第１回通常総会
平成５年６月23日　17:35～18:00
出席者　佐野会長ほか29名
議事　①平成４年度事業報告並びに決算報告承認の件
②平成５年度事業計画並びに収支予算承認の件

(2)第２回通常総会
平成６年２月23日　17:00～17:20
出席者　佐野会長ほか15名
議事　①監事１名選挙の件
②本部所属評議員23名選挙の件
③監事並びに評議員重任の件
④名誉正会員推挙の件

２．評　議　員　会

(1)第１回定時評議員会
平成５年６月23日　17:00～17:30
出席者　鶴田昭一副議長ほか27名
議事　①平成４年度事業報告承認の件
②平成４年度決算報告承認の件
③理事補選の件

(2)第２回定時評議員会
平成５年11月24日　16:40～17:15
出席者　鶴田昭一副議長ほか34名
議事　①平成６年度評議員選出数決定の件
②会費改正に関する件

(3)第３回定時評議員会
平成６年３月23日　17:00～17:40
出席者　高橋保夫議長ほか33名
議事　①議長、副議長互選の件
②理事23名選任の件
③平成６年度事業計画承認の件
④平成６年度収支予算承認の件

３．理　　事　　会

(1)定例理事会　９回
(2)常任理事会　２回

４．常設委員会等

	委員会	小委員会等
(1)編集委員会	11回	90回
座談会	８回	
(2)出版委員会	11回	20回
(3)事業委員会	７回	31回
(4)教育委員会	２回	12回
(5)建材委員会	７回	

５．建築と社会・特集号

４月号　市民劇場の舞台設備
５月号　環境―限りある自然と建築とのかかわり
６月号　都市のスカイライン
７月号　映画の中のインテリア
７月号　けいはんなプラザ・住友ホール
８月号　建築の再生―構造技術の役割
８月号　大阪市営繕
９月号　国際的パートナーシップの可能性
10月号　福祉のまちづくり
11月号　都市型住宅再考
12月号　第40回青年技術者
12月号　環境－人にやさしい空間創造をめざして
１月号　コピー文化の新時代
１月号　広島の新しい街造りとアジア競技大会の会場巡り
２月号　九州のインスタレーションと貌
３月号　伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈

６．建築と社会・復刻版

創立75周年の記念事業として「建築と社会」(創刊号から昭和30年まで）の完全復刻版を刊行し、第６回～第９回配本（大正14年１月号から昭和８年４月号まで）を行った。

７．出　　版

建築技術選書＜特装版＞
「入門・建築積算」
プロのノウハウシリーズ
「建築物の消防法を読みこなすコツ」
「新版・建築基準法を読みこなすコツ」
編集委員会の企画
「建築設計者のための設備知識」

８．見　　学　　会

けいはんなプラザ・住友ホール
４月15日　13:00～16:00　参加者　44名
梅田スカイビル
７月19日　13:30～16:00　参加者　64名
曼珠院の書院と茶室
10月９日　13:00～15:30　参加者　40名
関西学研都市・国際高等研究所及び地球環境産業技術研究機構本部
10月15日　13:00～17:00　参加者　42名
ポルタス堺
10月20日　13:30～16:30　参加者　44名
大阪市立総合医療センター
12月３日　13:30～16:30　参加者　54名
大阪府立近つ飛鳥博物館
１月20日　14:00～16:30　参加者　96名
WESTビル
１月27日　14:00～16:00　参加者　42名
和歌山県立・きのくに志学館・近代美術館博物館
１月29日　10:30～17:00　参加者　67名
アジア太平洋トレードセンター
３月23日　14:00～17:00　参加者　78名
常滑と志摩・早春の伊勢湾を巡る見学と懇親の集い
３月25日～26日　参加者　31名

９．講演会・集い等

建築を学ぶことができるか？
５月21日　18:30～20:45　イトーキクリスタルホール
講師：竹山聖氏　参加者　133名
照明デザイナーが語る「光で生きる建築空間」
６月24日　18:30～20:45　協会サロン
講師：岡幸男氏　参加者　32名
30's EYE「景観行政の現状とその功罪」
７月30日　18:30～21:15　協会サロン
講師：浜田有司氏　参加者　35名
30's EYE「人と木がつくる美しい家」
９月22日　18:30～20:50　協会サロン
講師：三澤文子氏　参加者　30名
都市・建築と緑の融合ー特殊緑化空間の最新情報
10月29日　18:30～21:00　協会サロン
講師：奥貫隆氏　参加者　21名
30's EYE「建築家と作ったCG」
11月29日　18:30～20:50　協会サロン
講師：澤井健氏　参加者　32名
30's EYE駅前の文化について「駅前彫刻と造り物」
１月21日　18:30～21:00　協会サロン
講師：木下直之氏　参加者　30名
コンピュータグラフィックスの可能性
２月16日　18:30～20:40　協会サロン
講師：遠藤昭彦氏　参加者　52名
30's EYE「DIE HARD MODERNISM」
３月31日　18:30～21:00　協会サロン
講師：岸和郎氏　参加者　37名

10．話題建築を聞く

「アプローズタワー」　鎌谷憲彦氏に聞く
５月26日　18:30～21:00　協会サロン
参加者　28名
「ビッグステップ」　企画・設計者に聞く
６月28日　18:30～21:40　協会サロン
参加者　30名
「RICセントラルタワー」　太田隆信氏に聞く
９月30日　18:30～20:50　協会サロン
参加者　32名
「積水化学工業・京都技術センター」加藤邦男氏に聞く
10月25日　18:30～21:00　協会サロン
参加者　25名
「大同生命大阪本社ビル」　与謝野久氏に聞く
11月24日　18:30～20:30　協会サロン
参加者　28名
「シェラビア東山台」　遠藤剛生氏に聞く
２月３日　18:30～20:45　協会サロン
参加者　52名

11．海外視察旅行

ポスト・ホンコンバンク「香港の最新建築を訪ねる」
10月７日～10日　参加者　15名

12．建築工事実務講習会

「京都開催・施工計画」
６月22日　10:00～16:30　於京都建設会館
受講者　69名
●施工計画Ⅰ
講師：中川徹氏（清水建設大阪支店建築技術部長）
●施工計画Ⅱ
講師：高橋憲昭氏（松村組本店建築部次長）
「京都開催・積算仮設見積」
６月30日　10:00～16:30　於京都建設会館
受講者　69名
●積算業務
講師：橋目福司氏（竹中工務店大阪本店見積部見積課長）
●仮設見積
講師：藤井孝晏氏（大林組本店建築工務部副部長）
「大阪開催・施工計画」
９月８日　9:00～17:00　於建設交流館
受講者　141名
●施工計画Ⅰ
講師：服部勝興氏（鴻池組建築本部技術部副部長）
●施工計画Ⅱ
講師：森啓亮氏（淺沼組大阪本店建築部技術担当副部長）
「大阪開催・積算仮設見積」
９月21日　9:00～17:00　於建設交流館

受講者　130名
●積算業務
講師：吉田豊氏（竹中工務店大阪本店見積部見積課長）
●仮設見積
講師：藤井孝晏氏（大林組本店建築工務部副部長）
「東海支部開催」
９月29日　9:30～17:00　於昭和ビル
受講者　118名
●施工計画
講師：岩田正弘氏（愛知工業大学講師）
●仮設見積
講師：佐渡政勝氏（大林組名古屋支店建築工事部副部長）
●積算業務
講師：尾関友四郎氏（竹中工務店名古屋支店見積部長）

13．プロのノウハウ講座

「建築デザインのための構造計画」
９月２日　15：00～17：00　於大阪府建築健保会館
受講者　160名
講師：須賀好富氏（近畿大学教授）
「建築基準法を読みこなすコツ」
11月10日　18：00～20：00　於大阪府建築健保会館
受講者　45名
講師：高木任之氏（日本木造住宅産業協会専務理事）
「構造計画と軀体コストについて・いま積算に求められているもの」
３月29日　15：00～17：30　於大阪府建築健保会館
受講者　148名
講師：生島道治氏（日積サーベイ代表取締役）
　　須賀好富氏

14．コ　ン　ク　ー　ル

第39回工高生デザインコンクール
設計課題　「地域に建つスポーツ施設」
応募校　　20校・148点
審査会　　10月23日
表彰式　　11月20日
審査委員長　森本正一氏（浦辺設計副所長）
入選作　　10点（うち最優秀１点　優秀２点）

15．表　彰　状　授　与

全国の工業高等専門学校、高等学校及び専修学校建築科の優秀卒業生に対し本会会長の表彰状を授与しており、本年度は209校を対象に232名を表彰した。

16．新　建　材　検　討　会

４月14日　耐火鋼
５月12日　天然極薄石材
７月14日　シリカ系浸透性コンクリート強化剤
９月８日　内開き内倒し窓・木製（木質系）防火扉
10月13日　省エネ外装改修システム
11月30日　防水層立上がり乾式保護ボードシステム
３月15日　床すべり止め加工

17．業　務　の　受　託

●建替計画策定に係る従前居住者の動向調査（その１及びその２）
委託者：住宅管理協会関西支部
●高層集合住宅の供給手法に関する調査研究
委託者：竹中工務店住宅本部
●大規模複合開発の機能複合の研究
委託者：竹中工務店開発計画本部
●建替実施計画に係る建替前後の計画諸元等の整理
委託者：住宅管理協会関西支部
●共同住宅地区の類型化と変容予測の研究
委託者：大阪府住宅管理センター
●住宅供給システムに関する調査
委託者：大阪市住宅設備公社

18．第３回日本建築協会賞

記念事業として第３回日本建築協会賞の授賞を次のとおり行った。
日　時：平成５年６月23日　午後６時～
場　所：日本建築協会サロン
選考委員長：薬袋公明氏（日建設計）
応募点数：15点
日本建築協会賞特別賞
●「制震構造の研究とダイナミックインテリジェントビルの開発」
受賞者：小堀鐸二氏（京都大学名誉教授）
日本建築協会賞
●「『コモンシティ星田』における全地中配電方式の技術開発及び適用」
受賞者：秋山喜久氏
（関西電力株式会社代表取締役社長）
●「耐火鋼による無被覆鉄骨造建物の実用化」
受賞者：齋藤裕氏
（新日本製鉄株式会社代表取締役社長）
●「INAXギャラリーの活動とブックレットの刊行」
受賞者：伊奈輝三氏
（株式会社INAX代表取締役社長）
●「まちづくり会社『黒壁』の事業展開とその成果」
受賞者：長谷定雄氏
（株式会社黒壁代表取締役社長）
●「大型美術陶板等の開発と施工法の技術確立」
受賞者：大塚正士氏
（大塚オーミ陶業株式会社代表取締役社長）

19．会　員　名　簿　の　発　行

隔年ごとに建築界各般の主要名簿を併せ収録した会員名簿を発行しているが、本年度は1993年～1994年版として2,500部を発行・頒布した。

20．後援・協賛の承認

●日本睡眠環境学会共催「第17回人間一生活環境系シンポジウム」の協賛
●ギャラリー・間運営委員会主催「アルキテクトニカ講演会」の協賛
●大阪都市景観建築賞運営委員会主催「第13回大阪まちなみ賞」の協賛
●A/E/C SYSTEMS JAPAN 組織委員会主催「建築新技術展／国際セミナ」の協賛
●日本材料学会主催「第４回機械・構造物の強度設計、安全性評価に関するシンポジウム」の協賛
●大阪府建築士会主催「第７回アイデアコンペ」の後援
●ひょうご福祉のまちづくり推進協議会主催「バリアフリーの社会を目指して」の後援
●日本建築学会主催「第16回情報・システム・利用・技術シンポジウム」の後援
●日本建築学会近畿支部主催「建築工事における近接施工の現状と問題点」の協賛
●日本材料学会主催「木質資源の現状と将来」の協賛
●国際デザイン交流協会主催「第６回国際デザインフェスティバル」の協賛
●日本能率協会主催「第15回　93住宅設備展／ホーム・アメニティ」の協賛
●大阪府主催「第３回大阪府公共建築設計コンクール」の協賛
●日本建築学会近畿支部主催「建築と街づくりを考えるPART５」の協賛
●KOBEインターホーム'94組織委員会主催「KOBEインターホーム'94（国際建材・住宅設備と景観材料展）」の協賛
●日本建築材料協会主催「第４期建築音響・防音研修講座」の協賛
●関西設計者会議主催「関西設計者会議第６回公開シンポジウム」の後援
●関西ビジネスインフォメーション主催「都市と川」の後援
●アールエム建築推進協議会主催「中層RM構造設計指針及び同施工指針技術講習会」の後援
●ギャラリー・間運営委員会主催「ギャラリー・間建築講演会」の後援
●㈱地域開発研究所主催「平成６年度１級２級建築施工管理技術検定試験受験準備講習会開催」の後援及び協賛
●大阪ガス株式会社主催「近未来都市型集合住宅の課題と展望」の後援

21．青年技術者の顕彰

昭和29年度から本顕彰を実施しているが、本年度は応募者33名のうち19名を顕彰した。本年度末における顕彰総数は602名に達する。

22．図　書　の　閲　覧

昭和63年度から本会所蔵の貴重な図書及び資料を会員等に公開しているが、本年度の閲覧者は、40名である。

23．合同忘年懇親会等

建築関係団体合同忘年懇親会
（本年度は当協会が幹事団体）
12月14日　18：00～19：30　於太閤園
出席者　約400名
建築関係11団体合同新年交礼会
１月４日　14：30～15：30　於大阪コクサイホテル
出席者　約800名

24．本　会　の　入　会　団　体

大阪商工会議所
大阪市街地再開発促進協議会
建築行政協会大阪市支部
建築国際連絡協議会　５団体
建築関係団体連絡会　80団体
四会連合工事請負契約約款連合委員会
大阪住宅振興協議会　24団体
大阪市北区納税協会
大阪市防火管理協会

25．役員を送っている団体

大阪商工会議所　２号議員
大阪市街地再開発促進協議会　理事
日本建築総合試験所　理事
日本建築センター　評議員
大阪建築防災センター　理事
大阪住宅センター　理事

26．建　築　ク　ラ　ブ

会員有志で組織する建築クラブでは、毎月１回大阪グランドホテルにおいて、広い分野から講師を招き朝食会を行うほか、１月には新年宴会を開催して会員相互の親睦を図っている。

27．ゴ　ル　フ　同　好　会

会員のゴルフ同好会をもって組織し、毎年定期的に競技会を開催し、会員相互の親睦、研鑽を図っている。

平成５年度決算報告書

収支決算書

平成５年４月１日～平成６年３月31日

(単位：円)

Ⅰ.収 入 の 部			
科　　目	予 算 額	決 算 額	差　　異
1　会費収入	70,756,000	66,447,343	4,308,657
個人正会員	28,500,000	25,857,485	2,642,515
地方会員	2,040,000	1,790,200	249,800
団体正会員	40,000,000	38,604,028	1,395,972
準会員	216,000	195,630	20,370
2　事業収入	107,890,000	119,520,249	△11,630,249
会誌収入	63,500,000	65,566,389	△ 2,066,389
契約約款売上収入	1,200,000	1,960,895	△ 760,895
会員名簿収入	8,500,000	9,406,620	△ 906,620
出版委員会収入	1,700,000	3,502,233	△ 1,802,233
事業委員会収入	3,000,000	3,260,270	△ 260,270
教育委員会収入	5,500,000	3,965,700	1,534,300
建材委員会収入	240,000	100,000	140,000
受託事業収入	22,000,000	29,355,000	△ 7,355,000
雑収入	2,250,000	2,403,142	△ 153,142
3　寄付金収入	500,000	1,035,000	△ 535,000
4　雑収入	3,500,000	1,605,802	1,894,198
5　記念事業積立金取崩収入	2,500,000	2,873,024	△ 373,024
6　前払費用収入	0	716,317	△ 716,317
当期収入合計(A)	185,146,000	192,197,735	△ 7,051,735
前期繰越収支差額	30,658,000	25,767,705	4,890,295
収入合計　(B)	215,804,000	217,965,440	△ 2,161,440
Ⅱ.支 出 の 部			
1　事業費	101,980,000	119,884,943	△17,904,943
会誌発行費	61,500,000	73,826,854	△12,326,854
契約約款費	80,000	29,390	50,610
会員名簿発行費	4,500,000	4,126,703	373,297
出版委員会事業費	600,000	1,664,551	△ 1,064,551
事業委員会事業費	3,000,000	4,541,635	△ 1,541,635
教育委員会事業費	4,000,000	2,729,847	1,270,153
建材委員会事業費	140,000	30,896	109,104
記念事業費	2,500,000	2,873,024	△ 373,024
助成費	2,700,000	2,849,504	△ 149,504
受託事業費	20,660,000	25,136,934	△ 4,476,934
雑費	2,300,000	2,075,605	224,395
2　管理費	82,652,000	80,852,777	1,799,223
給与・手当	62,167,000	60,991,513	1,175,487
福利厚生費	7,270,000	6,699,603	570,397
会議費	1,200,000	1,469,842	△ 269,842
旅費交通費	300,000	40,270	259,730
通信運搬費	1,100,000	916,420	183,580
集金費	1,400,000	1,342,925	57,075
消耗品費	700,000	509,924	190,076
修繕費	50,000	0	50,000
印刷製本費	400,000	273,110	126,890
光熱水費	230,000	241,060	△ 11,060
火災保険料	15,000	14,730	270
租税公課	3,000,000	3,681,010	△ 681,010
清掃費	500,000	356,895	143,105
建物管理費	3,920,000	3,910,308	9,692
雑費	400,000	405,167	△ 5,167
3　予備費	514,000	0	514,000
4　中国ファンド積立支出	0	11,243	△ 11,243
5　退職給与引当積立金支出	0	0	0
6　仮受金支出	0	375,528	△ 375,528
7　前受金支出	0	2,366,183	△ 2,366,183
8　仮払金支出	0	906,960	△ 906,960
当期支出合計(C)	185,146,000	204,397,634	△19,251,634
当期収支差額(A)－(C)	0	△ 12,199,899	12,199,899
次期繰越収支差額(B)－(C)	30,658,000	13,567,806	17,090,194

正味財産増減計算書

平成５年４月１日～平成６年３月31日

(単位：円)

科　　目	金　　額
Ⅰ　増加の部	
1．資産増加額	
中国ファンド増加額	11,243
仮払金増加額	906,960
2．負債減少額	
前受金減少額	2,366,183
仮受金減少額	375,528
増加額合計	3,659,914
Ⅱ　減少の部	
1．資産減少額	
当期収支差額	12,199,899
記念事業積立預金減少額	2,873,024
什器減少額	94,500
前払費用減少額	716,317
減少額合計	15,883,740

当期正味財産減少額　12,223,826
前期繰越正味財産額　288,134,532
期末正味財産合計額　275,910,706

貸借対照表

平成６年３月31日現在

(単位：円)

科　目	金　額	科　目	金　額
Ⅰ　資産の部		**Ⅱ　負債の部**	
流動資産	**41,630,407**	**流動負債**	**51,404,917**
現　金・預　金	11,328,507	未　払　金	24,727,117
金　銭　信　託	1,565,316	前　受　金	25,565,122
未　収　入　金	25,401,100	仮　受　金	1,112,678
前　払　費　用	1,683,324	**固定負債**	**6,303,324**
仮　払　金	1,652,160	退職給与引当金	6,303,324
固定資産	**291,988,540**		
基本財産	**277,223,364**		
土　　地	59,800,000		
建　　物	191,120,000	**Ⅲ　正味財産の部**	
金　銭　信　託	10,586,957	**正味財産**	**275,910,706**
預　　金	15,716,407	(うち基本金)	(277,223,364)
その他の固定資産	**14,765,176**	(うち当期正味財産減少額)	(12,223,826)
什　　器	111,260		
中期国債ファンド	416,199		
退職給与積立預金	6,303,324		
記念事業積立預金	7,934,393		
資産合計	**333,618,947**	**負債及び正味財産合計**	**333,618,947**

計算書類に対する注記

１．重要な会計方針

⑴有価証券の評価基準及び評価方法について

該当なし。

⑵固定資産の減価償却について

定額法による減価償却を実施している。

⑶引当金の計上基準について

退職給与引当金…期末退職給与の要支給額に対し任意の金額を計上している。

⑷資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、金銭信託、未収入金及び未払金を含めている。

⑸消費税の会計処理について

消費税の会計処理は、税込方式によっている。

２．基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土　地	59,800,000	—	—	59,800,000
建　物	191,120,000	—	—	191,120,000
金銭信託	10,586,957	—	—	10,586,957
預　金	15,716,407	—	—	15,716,407
基本金合計	277,223,364	—	—	277,223,364

３．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期末残高
現金預金	22,300,212	11,328,507
金銭信託	1,171,730	1,565,316
未収入金	23,470,610	25,401,100
合　計	46,942,552	38,294,923
未払金	21,174,847	24,727,117
合　計	21,174,847	24,727,117
次期繰越収支差額	25,767,705	13,567,806

４．固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科　目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建　物	191,120,000	0	191,120,000
什　器	1,112,560	1,001,300	111,260
合　計	192,232,560	1,001,300	191,231,260

５．借入限度額

借入限度額は、20,000,000円である。

財産目録

平成６年３月31日現在

(単位：円)

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
１．流動資産	
現金・預金	11,328,507
現　金　手元有高	44,250
普通預金　三和銀行　瓦町支店	5,935,397
郵便振替　大阪1-39975	5,348,860
金銭信託	1,565,316
未収入金	25,401,100
会誌収入	9,536,720
建材委員会収入	20,000
会員名簿収入	619,500
出版委員会収入	682,000
事業委員会収入	459,000
受託事業収入	11,330,000
雑事業収入	276,340
雑収入	56,500
個人正会員会費収入	2,223,000
団体正会員会費収入	124,990
地方会員会費収入	58,650
準会員会費収入	14,400
前払費用	1,683,324
会誌発行費	324,850
助成費	281,430
集金費	900
教育委員会事業費	1,076,144
仮払金	1,652,160
切手・はがき代	229,990
切手・はがき代他(建築クラブ)	25,709
都市住宅学会	1,216,551
抜刷印刷代	99,910
30'sEYE講師謝礼他	80,000
流動資産合計	**41,630,407**
２．固定資産	
⑴基本財産	
土地　北区梅田1-1-3	59,800,000
建物　大阪駅前第３ビル	191,120,000
金銭信託　中央信託銀行梅田支店	10,586,957
預　金　中央信託銀行梅田支店	10,045,266
大和銀行北浜支店	5,671,141
基本財産合計	**277,223,364**
⑵その他の固定資産	
什器　書棚一式	111,260
中期国債ファンド　ユニバーサル証券	416,199
退職給与積立預金　住友銀行高麗橋支店	6,303,324
記念事業積立預金　住友銀行高麗橋支店	7,256,994
三和銀行瓦町支店	305,521
大和銀行北浜支店	89,967
MMF(山一証券)	281,911
その他の固定資産合計	**14,765,176**
固定資産合計	**291,988,540**
資産合計	**333,618,947**
Ⅱ　負債の部	
１．流動負債	
未払金	24,727,117
会誌発行費	8,660,045
出版委員会事業費	587,422
受託事業費	13,402,510
事業委員会事業費	1,143,202
助成金支出	84,788
集金費	87,550
租税公課	761,600
前受金	25,565,122
個人正会員会費収入	6,953,400
地方会員会費収入	708,300
団体正会員会費収入	12,582,622
準会員会費収入	58,800
会誌収入	2,296,000
復刻版代	2,966,000
仮受金	1,112,678
３月分給与税金	154,740
３月分204条該当分	210,338
雑誌広告料誤入金	50,000
プロのノウハウ講座	682,000
都市住宅学会本代	15,600
流動負債合計	**51,404,917**
２．固定負債	**6,303,324**
退職給与引当金	6,303,324
Ⅲ　正味財産の部	
正味財産	**275,910,706**
負債及び正味財産合計	**333,618,947**

「建築と社会」誌

特集一覧● 1974～1994

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1974 Vol. 55	●歴史的環境保全	●明日の建築はどうなるか・	●保養所作品・	●既成市街地の住宅地整備の方策	●北摂ニュータウン計画・	●建築生産と流通機構の変容	●ビルの省エネルギー化	●高層プレハブ住宅の構造設計	●みどり・	●屋根防水工事の失敗例とその対策・	●第21回青年技術者・	●ビル防災に関する12章
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築・	●インテリア・	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法・	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル・	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者・	●集合住宅の設備・
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向・	●建築基礎構造の問題点・	●医療施設・	●床工法と材料・	●建築防災と法・	●市街地整備・	●工場建築の設備・	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト・	●結露防止対策と断熱材料・	●第23回青年技術者・	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体・	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法・	●身障者施設・	●照明設備・	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ・	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者・
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水・	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料・	●電波障害と建築・	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号・	●第25回青年技術者・	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発・	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制・	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌・	●建物の終局強度の検討・	●庄内のまちづくり・	●80年代のインテリア・	●第26回青年技術者・	●建設業の労務事情・
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望・	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物・	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集・	●住宅の耐久性・	●建築行政と法規・	●最近の防水工法・	●都市景観とアメニティ・	●屋内体育施設の設備・	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材・	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅・	●これからの建築設計と新耐震設計法・
1981 Vol. 62	●職能論・	●中国の論文—北京の都市計画・	●ポートピア'81・	●台所まわりの計画と設備・	●シーリング材の知識・	●災害と法—安全な環境をめざして・	●都市住宅—住まい手からの発想・	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集・	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割・	●間仕切壁の性能評価・	●第28回青年技術者・	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開・	●省エネルギーと開口部・	●医療施設—地域医療と設備計画・	●近畿の地盤と地質・	●都市景観—まちなみ美観への誘い・	●大阪市庁舎（第一期）・	●ホール建築と音・	●大スパン構造・	●昭和設計作品集・	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築・	●風土・空気と人間・
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設・	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール・	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル・	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語・	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ・	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ・ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念・	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術・	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン・	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—・	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観・	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—Ⅱ— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと覚	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品	●いま、医療施設は						

・印は欠号

今月の表紙
関西国際空港
旅客ターミナルビル
写真 東出清彦
表紙デザイン ㈱アクロス

■特集予告
8月号／まちなかの看板
竹中工務店〝住まう〟
その設計思想（仮称）
9月号／水と建築（仮称）
日本建築総合試験所
創立30周年記念（仮称）
10月号／建築設備のCGシミュレーション
11月号／構造美

会長 市川 宏
副会長 岡本行善・金多 潔
錢高善雄・薬袋公明
三品哲夫

編集委員会（平成6年度）
■編集理事
青柳 司
◎荒井 清
井上 豊
小島 雄
須賀 好富
竹中 練一
深江 実
松村 廣三
溝神宏至朗
若山 繁
■編集顧問
東 孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊縫 恵幸
梅村 宏尚
小浦 久子
鈴木 克彦
田中 直人
松川 敏正
横関 真紀
※吉村 英祐
☆建築計画系
荒井 博
※石山 道男
磯村千恵子
上杉 秀隆
江副 敏史
菅野 忠司
笛村 欽也
佐藤不二男
塚本 史郎
刃金 国男
山本 匡
☆インテリア・住宅系
石川 佳子
大橋眞由美
加藤 力
角方 利幸
北浦かほる
工藤 昌之
小梶 吉隆
小島 保人
高橋 文吾
※中村 孝之
畑 康之
福田 由利
増田 邦子
★構造分科会
和泉 一義
岡本 達雄
黒木 安男
竹野 富夫
多田 元英
田中耕太郎
築谷 明也
※三宮 利治
西 邦弘
西村 泰志
黄輪 幸男
★設備分科会
岩本登志男
植田加久夫
遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
伊達 正雄
田ノ畑好幸
※村上幸三郎
★施工材料分科会
有光 利治
植田 実
※小椎八重猛
志水 史典
野口 和宏
吉田 茂二
★法令分科会
乾 康雄
入江田吉仁
樫田 攻
城戸 史郎
中島 弘志
中西 孝子
■作品作風小委員会
赤木 隆
小笠原絵理
小野 正人
尾崎 久純
川上比奈子
倉渕奈千子
杉原 繁
田中 均一
○富田 昌義
藤城 義丈
前川 治彦
前田 幸宏
増田 敬彦
増田 俊哉
松田 善弘
宮地雄一郎
■企画企画小委員会
伊藤 郁郎
○稲木 裕子
茨木 保
槽谷 浩史
毛谷村英治
小坂橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野 洋
高田 光雄
高橋 麗子
塚口 明洋
増渕 昌利
松石 千秋
山寄 章子
■広告企画小委員会
池渕 俊男
上井 善一
○勝 一弘
河原 正雄
衣川 徳好
菱田信八郎
藤田 孝吉
山下 修司
◎委員長 ○副委員長 ※幹事

印刷 平成6年7月20日
発行 平成6年7月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06－348－0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 青葉印刷株式会社
電 06－351－5428㈹
サン総合印刷株式会社
電 06－454－1481㈹
日本電植株式会社
電 06－352－7502
定価 1200円
（本体価格1165円・送料共 消費税35円）

建築と社会

1994 7 1917年創刊 第75集／通巻868号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

特集● 住空間における居どころへの視点 —— 個からの再出発

［総論Ⅰ］ 住空間における居どころへの視点—個からの再出発 ● 内井昭蔵 —— 38
［各 論］ 居どころ—建築家の視点
多中心運動空間の風景 ● 遠藤剛生 —— 42
和みのある空間 ● 木原千利 —— 43
廻遊式住居 ● 竹原義二 —— 44
個の時空にひたる ● 三澤文子 —— 45
内から外への発想 ● 吉羽裕子 —— 46
主婦の居どころ ● 吉村篤一 —— 47
［事 例］ 都市、街からの居どころ空間へのボキャブラリー —— 48
空中への開放感—ホテル・ラ・クラッセ・アルパインタワー、梅田スカイビル
憩いと安らぎのコクーン（繭）—ブレーメン・ラーツケラー、PAPARAGI
確かな拠りどころ—南禅寺山門、プラハ・カレル橋
ほどよい距離感—中之島公園、屋台
素肌の触感—高桐院
光と影のコントラスト—高山寺石水院、カリフォルニア工科大学CALTEC
思い思いの視線—ビッグステップ、ケルン大聖堂前広場
非日常の舞台—ホテル・リッツ・ロンドン、映画「風と共に去りぬ」
自然の中のテラス—梅田スカイビル〈花野〉、海遊館
［総論Ⅱ］ 街の居どころ—都市と住空間 ● 橋爪紳也 —— 52
［レポート］ 男の居どころ・女の居どころ ● 藤森洋一郎・河瀬光晴 —— 54
［総 括］ これからの住空間における居どころへの提言 ● 加藤 力 —— 58

会告 青年技術者のみなさまへ 1
平成6年度建築工事実務講習会
UNEP国際環境技術センター講演会＋見学会「人と環境にやさしい建築とは?」
通常総会決議報告
定時評議員会決議報告
『村野藤吾の造形意匠』割引価格で頒布
平成5年度事業報告書・決算報告書

作品作風 同志社大学田辺キャンパス第2期 10
アジア太平洋トレードセンター（ATC）
新大阪第2森ビル
龍谷大学瀬田学舎第2次整備計画 RECホール・4号館
堂島ホテル

Gallery 背壁の家（設計：水谷嘉信）● 小笠原絵里 30

GBRCニュース 建築技術安全審査委員会について 33

新建材ニュース 建材用フェライトステンレス鋼 ● 猪野達雄 35

建築の眼 シルバーシート ● 竹嶋祥夫 36
地球にやさしい建築物 ● 川畑雅一
イタリヤ紀行（その1）受けつがれる遺産 ● 小角 享
新石器時代 ● 山本権一

構造の頁 二重ケーブルネットドームの八幡屋公園プール ● 近藤一雄 63

設備の頁 非常警報設備の技術基準の一部改正 ● 自治省消防庁予防課 64

BOOK STATION 短評4題 ● 稲木裕子/山寄章子 65

新刊紹介 建築・都市・住宅・土木「情報アクセスブック」（菊岡倶也）/山田 修 66

Information Space design school 8月 92
第4回エス・バイ・エル住宅設計コンペの入賞決まる

月報 平成6年5月分 67


OUR VOCATION TO SERVE GOD

作品
作風

設計監理 ■
日建設計

施工 ■
大林組 戸田建設 大成建設 フジタ(工学部関連施設)
吉村建設工業・光工業JV(新厚生施設棟)
大林組・戸田建設JV(新教室棟)

同志社大学
田辺キャンパス第2期

同志社大学田辺キャンパスは既に1986年4月、京都府田辺町76万m²の広大な敷地に、1・2年次の教育施設・体育施設を主として40数棟、約9.5万m²の建築群で開校している。 第2期は工学部統合を主目的として計画された。これは京都・今出川キャンパスの工学部3・4年次、大学院、理工学研究所などを移転し、既に第1期で建設されている実験実習施設とあわせて工学部を統合するものである。また、知識工学科が新設されるなど工学部の改編によって7学科体制となって質的にも充実されることとなった。更に、工学部統合に伴って、厚生施設の増設、一般教育・コンピュータ系教室の拡充もあわせて計画された。

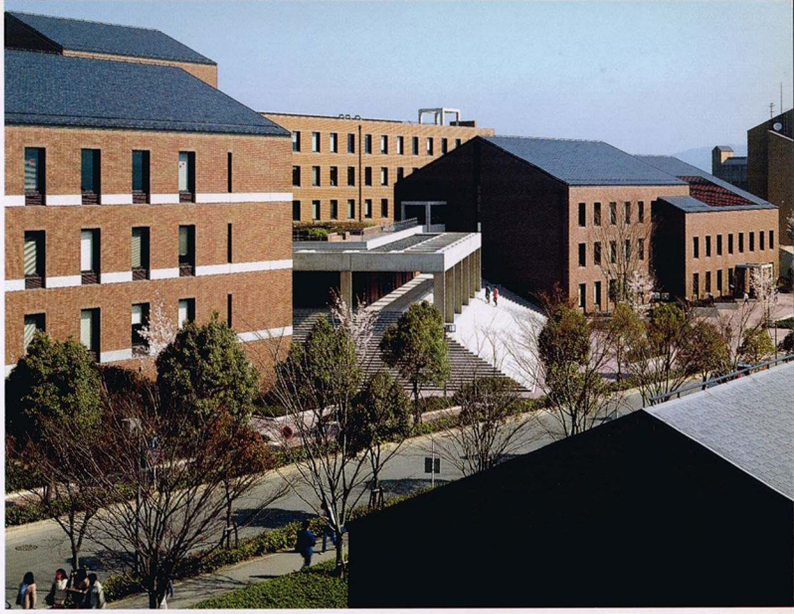
キャンパスは南に緩やかに傾斜した丘陵地であり、1期に建設された低層の建築群が既に豊かな緑の中で落ちついた環境を形づくっている。2期計画は、あらかじめ予定されたリザーブ地に、今出川キャンパスの伝統を引き継ぐマスタープランをベースとして、1期の建築群との調和をはかりながら、工学部独自のアイデンティティをも表現できるものとしている。群としての重層感をより高めることを意図し、いくつかの棟に分節し、傾斜屋根・陸屋根を混在させた。外装は、れんがタイルと屋根を主とし、ガラスキューブなど工学部をイメージさせるハイテックなボキャブラリーを加えた。正面アプローチには、学生のたまり場ともなる大階段とフレームを配し、中心をシンボライズするものとした。

工学部は、実験室と研究室が主たる構成要素であるが、将来の変更にも対応しやすい設備システムや基準モジュールを採りいれ、わかりやすく使いやすいフレキシブルな設計としている。

新厚生施設棟、新教室棟は、それぞれ大空間を表現する大屋根にガラスキューブを加え、キャンパスの新たな展開を予感させるものとした。

(中井 進／日建設計)

所 在 地——京都府綴喜郡田辺町多々羅都谷1-3
敷地面積——533,590.58m²
建築面積——16,539.02m²
延床面積——41,120.12m²
構造規模——RC、BIF、6F(工学部関連施設)
RC、3F(新厚生施設棟)
RC・S、3F(新教室棟)
工 期——平成4年7月～平成5年12月(工学部関連施設)
平成5年1月～平成6年1月(新厚生施設棟)
平成5年4月～平成6年2月(新教室棟)
最寄駅——JR学研都市線同志社前駅
撮 影——東出清彦


新厚生棟より工学部施設群を望む


理化学館より新教室棟を望む


▼工学部・理化学館アプローチ階段





ブリッジでつながれた工学部・至心館と有徳館



工学部外部階段



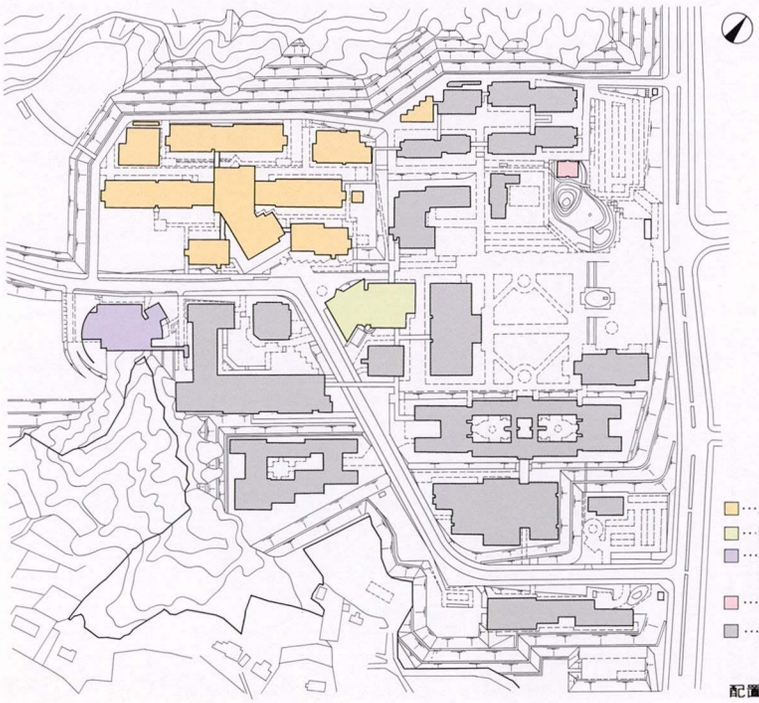
理化学館階段ディテール



工学部連絡ブリッジ



新教室棟・恵道館アプローチ



配置図

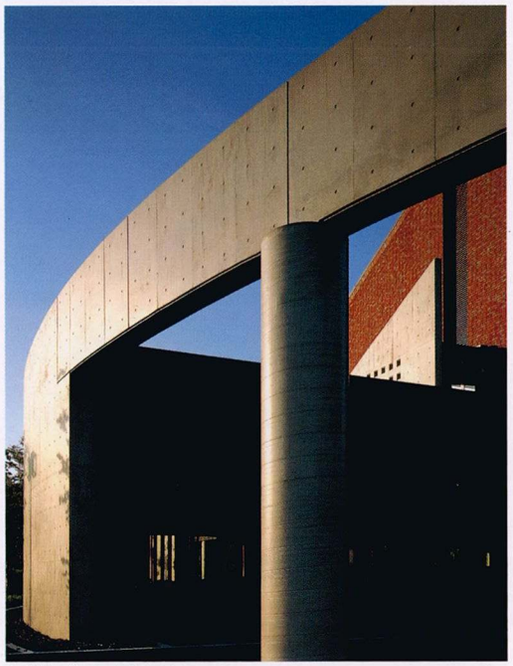


新教室棟階段

新厚生施設棟・紫苑館全景



新厚生施設棟エントランス



西側サブエントランス



トップライトのある食堂





作品
作風

設計監理 ■
日建設計
（設計協力）
ランドスケープ：EDAW, Inc.（USA）
ITMアトリウム：STUDIOS Architecture（USA）

施工 ■
（ITM） 竹中工務店・ベクテル・フジタ・奥村組・東急建設・鴻池組・錢高組・青木建設・浅沼組JV
（オズ） 大林組・前田建設工業・飛島建設・オースチン・五洋建設・日本国土開発・新井組・大日本土木・藤木工務店JV

アジア太平洋トレードセンター（ATC）

ATCは海外製品の日本市場への浸透促進を目的とした輸入卸売基地として建設された。施設は主目的である国際卸売センターのあるITM棟と、レストラン街やアミューズメント、コンベンション会場などのサポート施設が並ぶO's（オズ）棟から構成される。これは、センターを単にプロのための卸売場だけで終わらせずに一般の人々がアクセスできる施設を併設することで、開放性を高め、にぎわいを創り出して、人・物・情報の出会いによる情報発信機能を高めようという開発コンセプトにのっとっている。

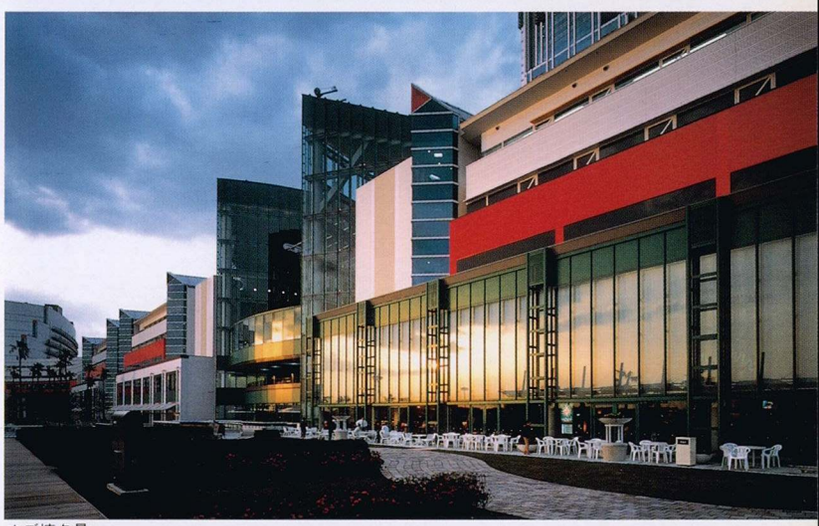
都心からも離れているこの埋立地に、どのようにして一般の人々が集まり、賑わう場所を作り出すかが難題であった。巨大建築が陥りがちな単調なよそよそしさを避けるため、建物を街に、廊下を通りに、アトリウムを公園に見立て、街並みのように変化に富み、開放感のある空間づくりを心がけた。

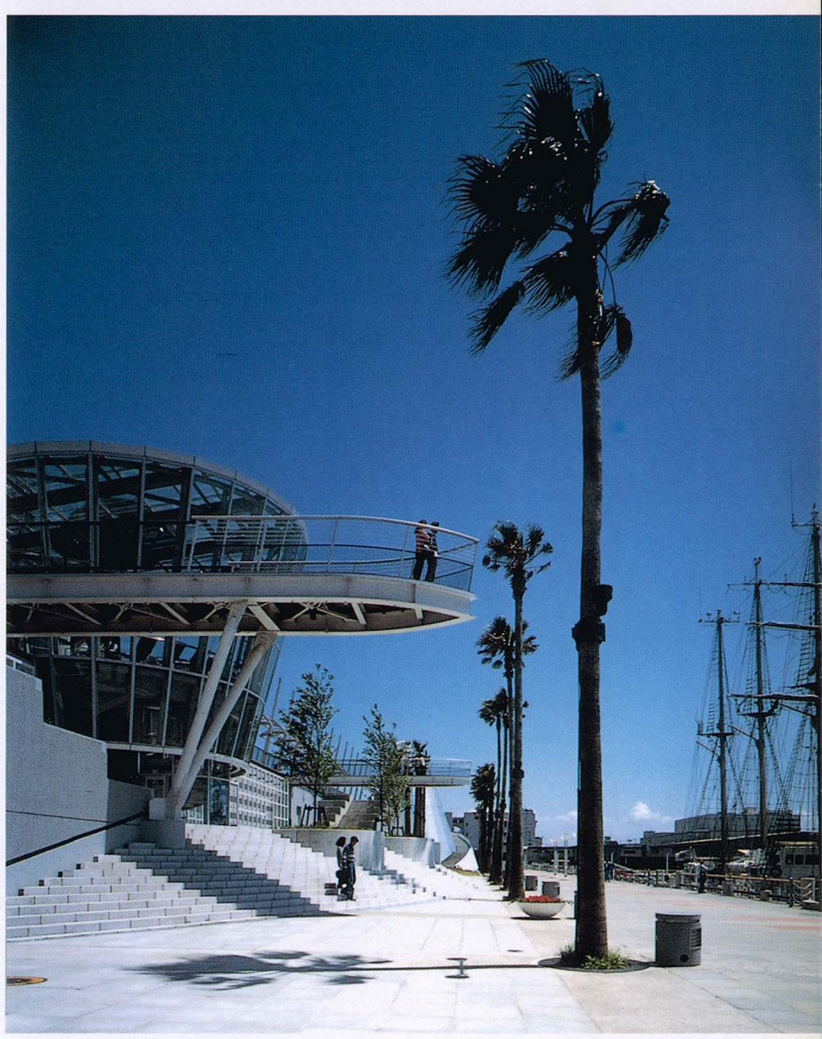
全長350mにも及ぶ水際線は「O'sパーク」として人々に開放し、南国の海岸を思わせるヤシ並木、海へ突き出た展望デッキ、温室、ムーンタワーと呼ばれる展望台、遊歩道のパーゴラなど数々のしかけにより、ただ眺めるための庭でなく、人々がそこに参加し語らうことのできる魅力ある外部空間を提供する。

オズ棟のほぼ中央に設けられた「ゲートアトリウム」は、コスモスクエア中心部と海岸を、ひいては日本と海が象徴する外国とを結び付けるゲートとなる。

（岡本 隆／日建設計）


全体夜景


オズ棟夕景


オズパークを岸壁レベルより見る

ITM棟東エントランス



ITM棟北面壁画と赤いグリッド（壁画作家：田渕安一）

所 在 地 —— 大阪市住之江区南港北2-1-10

	ITM棟	オズ棟	合計
敷地面積	39,125.45㎡	28,990.99㎡	68,116.44㎡
建築面積	26,674.49㎡	19,312.26㎡	45,986.75㎡
延床面積	260,054.45㎡	75,727.26㎡	335,781.71㎡
階　数	B1F、12F	B2F、6F	
構　造	S、SRC	S、SRC	
工　期	91.3〜94.2	91.8〜94.2	

最 寄 駅 —— ニュートラム・中埠頭駅下車徒歩5分

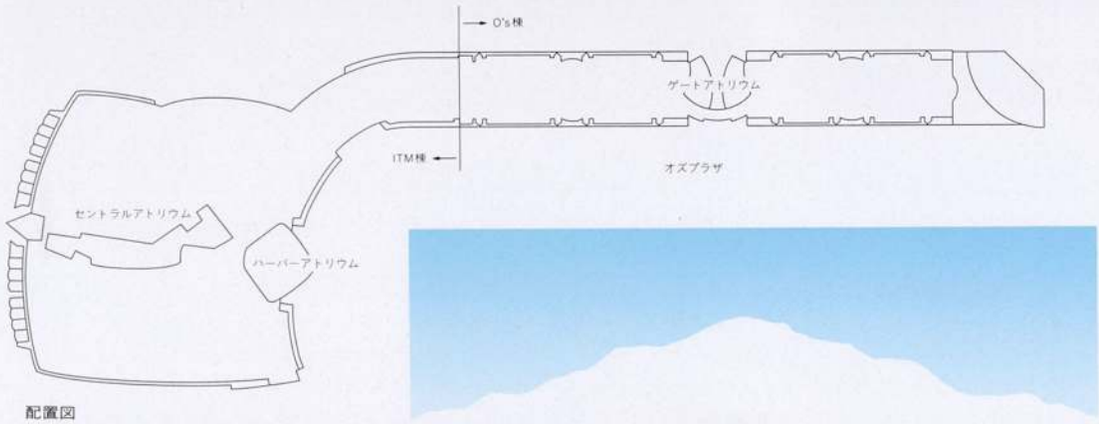
撮　影 —— 稲住泰広、末廣久詔、㈱伸和・前田誠士、
柄松　稔、福本正明



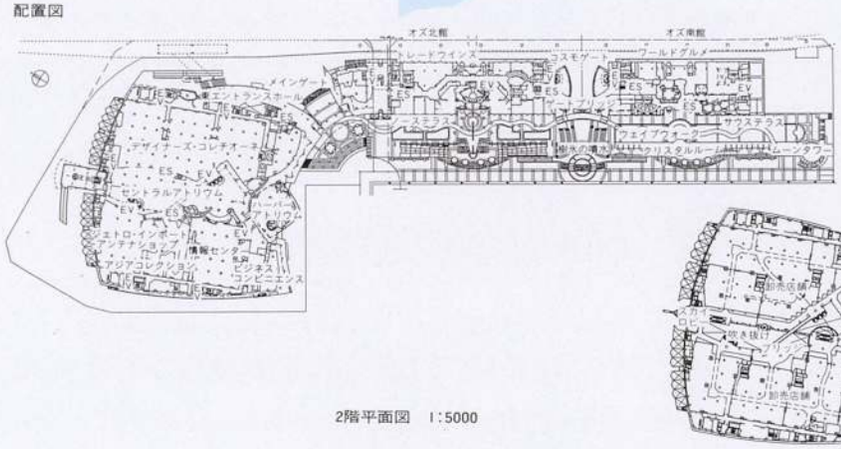
ゲートアトリウム



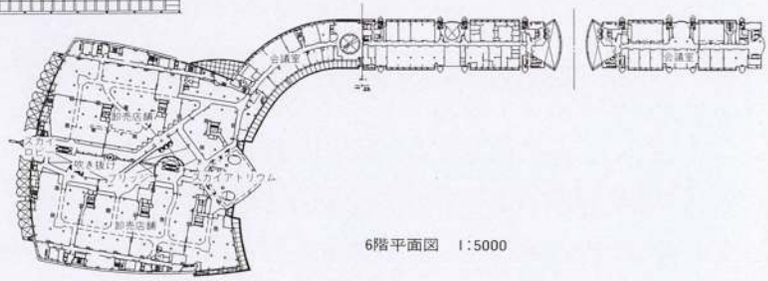
セントラルアトリウム



配置図



2階平面図　1:5000



6階平面図　1:5000



断面図


森ビル

作品
作風

企画・監修 ■
日本インテリジェントビルシステムズ
設計 ■
清水建設一級建築士事務所

施工 ■
清水建設大阪支店

新大阪第２森ビル

新大阪第２森ビルは関西の交通拠点であり、特に最近大型都市施設による開発が急速に進められている「新大阪北地区」という、好立地に建設されたインテリジェント対応型のオフィスビルである。
計画にあたり都市整備の観点から総合設計制度を採用し、外周歩道に面して敷地面積の35％を公開空地として、広場や緑地を配置した。広場北東のコーナーには、光のオブジェ(作者：石井幹子)が置かれ、オフィスワーカーの散策のオアシスとして、また街角の新しいウエイティングスポットとして利用されている。
外装は花崗岩および磁器質タイル打込PC版と大型横連窓アルミサッシュで構成し、落ち着いたグレー系の濃淡により、重厚感の中にもリズミカルな変化を表現している。
１階は開放的で明るいエントランスホール、レストラン、店舗で構成し、在館者のみならず広く外部へのサービスにも配慮した。
基準階はリニアーコア形式のプランとし、中央のエレベーターホールは両端部の特別避難階段付室まで直線的に一体化させることにより、広々とした共用部空間を生み出し、端部のアール状バルコニーはさわやかな外光をとり入れると共に、東西面の外観を柔和に印象づけている。
南北にまとめられた無柱の執務空間には、OAフロアーやルーバー付照明組込システム天井等を標準装備するなど、時代を先取りした理想的なテナントオフィスビルとして、今後ますます発展が期待される新大阪業務地区の中核的位置を占めるものと思われる。

(百々真二郎／清水建設)

所 在 地 ——— 大阪市淀川区宮原3-5-36
敷地面積 ——— 5,816.35㎡
建築面積 ——— 2,440.00㎡
延床面積 ——— 48,115.29㎡
構造規模 ——— S(一部SRC・RC)、B2F、21F、P2F
工　　期 ——— 1991年６月～1994年１月
最 寄 駅 ——— JR・新大阪駅
撮　　影 ——— 稲住泰広



北東面外観



東面低層部公開空地

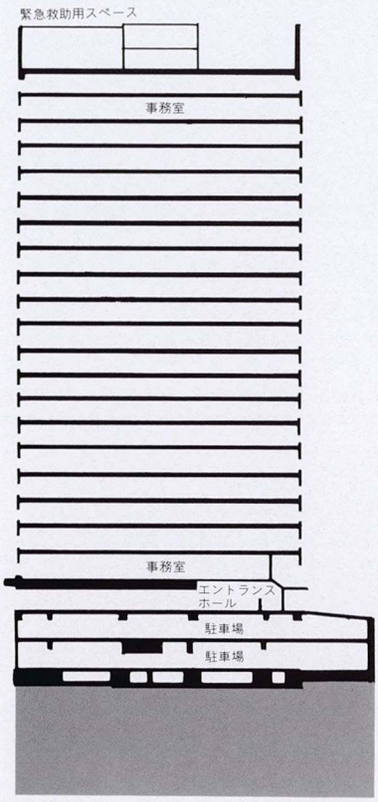

光のオブジェ(作者：石井幹子)



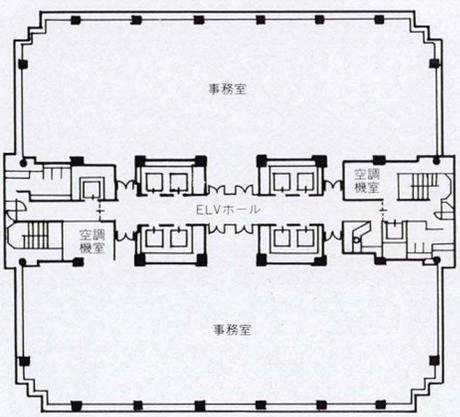
エントランス夜景



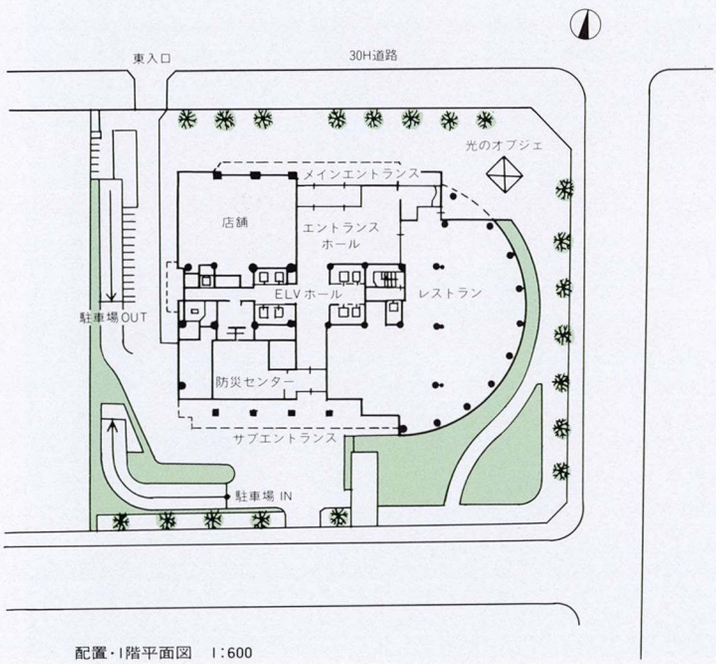
エントランスホール



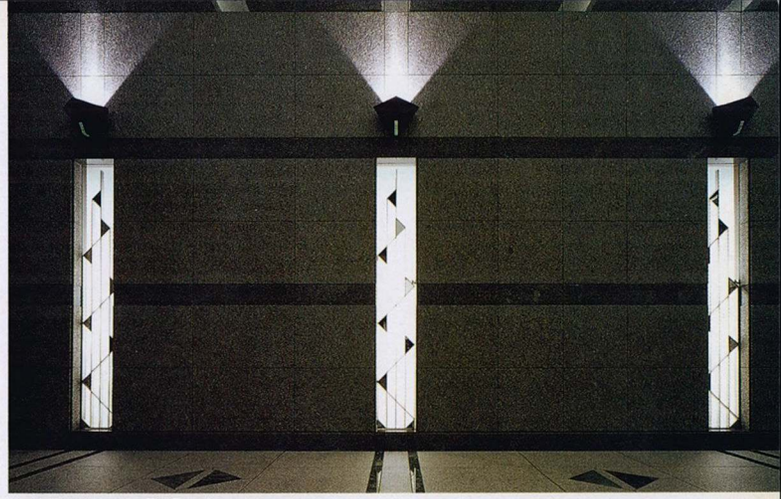
断面図



基準階平面図　1:800



配置・1階平面図　1:600



エントランスホール・ディテール



1階エレベーターホール



乗用エレベーター



基準階エレベーターホール





全景

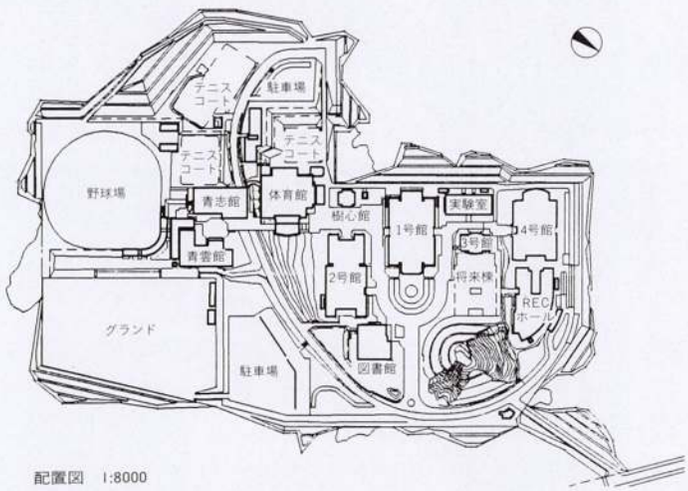
作品風

設計監理■
日建設計

施工■
鹿島建設

龍谷大学瀬田学舎
第2次整備計画　RECホール・4号館

龍谷大学の創立350周年記念事業として、滋賀県の誘致を受けて新設された理工系学部のキャンパスである。
敷地は琵琶湖の東側で、県により積極的に整備が進められている「びわこ文化公園都市」内にあり、県立図書館、美術館なども近くに位置している。設計に当たっては、恵まれた自然環境を生かし、教育の場としてふさわしい環境を創ることを基本とした。
敷地造成は、自然の地形を生かして高低差をつけ、1号館（理工学部）を中心に低層の建物でまとめ、奥行きの感じられる配置計画とした。
第2次整備計画は、開かれた大学の拠点となるRECホールや一般教室棟の4号館などを建て、施設を拡充させることを意図したものである。既存との調和を図りながら、それぞれの建物が存在感をもち、また各棟には採光のための中庭を設け、建物に囲まれた広場や高低差のある通路は季節の移り変わりを感じさせ、明るく親しみのある空間となるよう配慮した。（萬浪富弘／日建設計）



配置図　1:8000

所在地 ——— 大津市瀬田大江町字横谷1-5
敷地面積 ——— 205,445.00㎡
建築面積
　RECホール　2,182.57㎡　4号館　2,742.37㎡
延床面積
　RECホール　7,944.86㎡　4号館　7,787.36㎡
構造規模 ——— RC、一部SRC、3F、B1F
工　　期 ——— 平成5年2月～平成6年3月
最寄駅 ——— JR東海道本線・瀬田駅
撮　　影 ——— 水野励治


RECホール中央吹抜


4号館南面外観


RECホール食堂


東急観光
安田歯科
3F
東急観光

作品
作風

デザイン監修 ■
衛藤信一

設計監理 ■
大建企画設計
中央設備エンジニアリング

施工 ■
フジタ

堂島ホテル

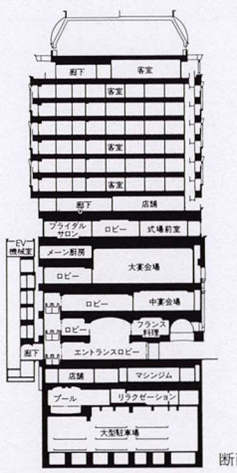
堂島ホテルは以前にも客室主体のシティホテルとして同地で営業していたもので、今回客室・料飲店舗に加えて、ブライダル・宴会部門と会員制ヘルスクラブを併設して全面リニューアルをおこなったものである。Ｂ３階は機械式駐車場、Ｂ２階とＢ１階の一部に会員制ヘルスクラブ、Ｂ１階から２階と７階に料飲店舗、３階から６階はブライダル・宴会場施設になっており、客室には８階から14階を充てている。

建て替えるにあたり、オーナーの希望でヨーロッパスタイルの本格的な「本物」のホテルとする事をポリシーとして計画をスタートした。時流に流されることなく、時間の経過を味方に出来るような建築を実現したいとの意図から、デザイン監修を長年ウイーンで制作活動をしてきた衛藤信一氏に委託して、外観イメージは初期のルネッサンス様式をベースとして、部分の模倣に陥ることなく、シンメトリーと各部のプロポーションをだいじにしながら、全体を仕上げることに全力をつくした。外装材は天然素材のイタリア花崗岩を選び、昔の手加工を全面的に採用する事も出来ないので、機械加工を主体としながらも、全体的には手加工の温かみが残る様な造形を意図して今回の意匠とした。

内部のデザインはルネッサンス様式からバロック様式を主体として、これもプロポーションを主体に、細部は現在結集可能な技術の範囲でデザイン意図の実現を試みた。

全体として古典様式と現代デザインの微妙な取り合わせを見て頂ければ幸せである。

(山崎紘郎／大建企画設計)



断面図　1:1000

所在地 ——— 大阪市北区堂島浜2-3-1
敷地面積 ——— 1,611.88㎡
建築面積 ——— 1,330.86㎡
延床面積 ——— 14,670.39㎡
構造規模 ——— SRC、S、B3F、14F、P2
工　　期 ——— 1991年11月～1994年３月
最寄駅 ——— JR大阪駅、地下鉄西梅田駅
撮　　影 ——— 稲住泰広



エントランスポーチ



エントランスロビー

gallery

背壁の家

設計

水谷嘉信

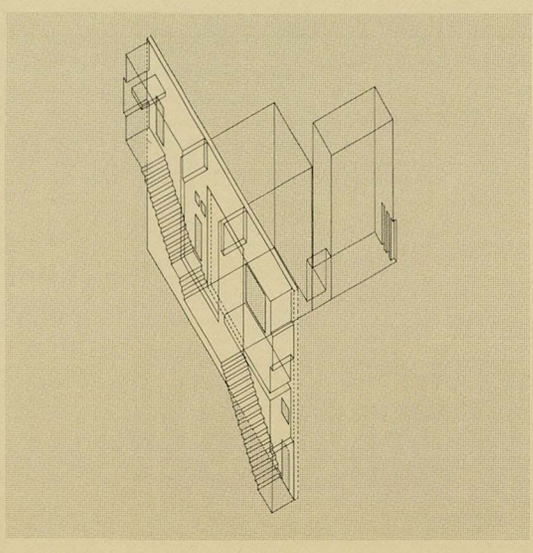
1層目は施主が経営する整骨院で、基壇としてのコンクリート造。2、3層は木構造となっている。住居へは北側の道路から大きな扉を開け入ることになる。この扉から階段を上がると、中庭に出る。そこに住居の玄関があり、ここからさらにゆるやかな屋外の階段を行くと、勝手口がある。すべては街路空間によってつながっている。この中庭や街路空間と住居をつなげているのが「背壁」である。外部と内部の接点に位置する白い壁である。建物の部分や日差しや人々の姿がさまざまに影を落し、また消えるその色である。常に真新しい白である。

その街々の、ありふれた素材、工法を取り入れることが、住居(すまい)の原点と考えている。まわりの環境や与えられた条件の中で採りうる最小限の表現、その手法、方法からのみ得られる最大限の豊かさ、何らかの可能性や空気が感じられる空間、場づくりに力を注いだ。そして、建築が現在の都市の中でどのような接点を見いだせるのかを探りたい。

水谷嘉信
1956　三重県生まれ
1980　大阪工業大学建築学科卒業
1980　渡辺豊和建築工房
1982　吉田保夫建築研究所
1983　平山明義建築設計事務所
1984　水谷嘉信建築設計事務所設立

企画編集—小笠原総理(作品作風小委員会)









National　OTIS

ホームエレベーター 価格革命。



住宅設計の常識が変わる。

ホームエレベーターは、もう贅沢品ではありません。
〈のり愛号〉は、一気に295万円の普及価格。
今までのような高級住宅に限らず、ごく一般の住宅にも幅広く提案できる身近さです。しかも、様々な住宅への収まりを徹底的に配慮した親切設計。
高齢化社会に向け、夢あふれる多層住宅のプラン創りに、ぜひお役立て下さい。

■スリムな昇降路…間口1,650㎜、奥行1,500㎜（木造の場合は1,650㎜）のスペースに機器類も収まるコンパクト設計。
■低い軒下寸法…最上階の床面からの必要高さを、低く2,400㎜に、建築斜線制限をクリアしやすい有利な設計です。
■木造住宅にもOK…建物への荷重をしっかり支える昇降路鉄塔付で、木造3階建て住宅や鉄骨住宅にも設置できます。
（木造住宅用鉄塔：オプション）

初めてです、取付け工事費込みで

295万円

（「のり愛号」タイプⅠ。2階建て、2ヵ所停止。鉄骨造、RC造の場合。オプションなし。遠隔地を除く。建築付帯工事は別途。税抜き）

●車椅子でもラクラク利用できるゆとりの設計 ●わずか1坪の設置スペース ●扱い易いシンプル操作パネル ●電源は単相200V ●電気代は1ヵ月800円程度（1日20回使用の場合）と経済的
（なお、のり愛号の出荷は'94年8月1日からとなります。）

安心の24時間ダブルサポートシステム
（別に点検契約が必要です。）



ナショナル オーチス
ホームエレベーター
のり愛号



のり愛号 タイプⅠ

新登場

HALS 快適創造

松下電器産業株式会社／日本オーチス・エレベータ株式会社

資料とビデオ※、さしあげます。FAX 0120-495-065/TEL 0120-495-064（土曜、日曜、祭日はのぞく。平日受付9:30～17:00）
（納入事例、商品説明等）

お名前、住所、電話番号、さらにパンフレットとビデオ、いずれをご希望かを明記のうえ、上記の番号にFAXして下さい。電話によるお申し込みもお気軽に。

〒163-08 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号（新宿NSビル） TEL(03)3349-1361(代表) 日本オーチス・エレベータ㈱

※ビデオには本数に限りがあります。お申し込みが殺到した場合、お届けできないことがありますので、ご了承ください。

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

建築技術安全審査委員会について

1. はじめに

当委員会は、昭和49年11月近畿建築行政連絡会議の要請により建築主事の諮問機関として発足し、同連絡会議が定める構造等取扱要領に掲げられた建物等の安全審査（以下「審査」という）を行うことを目的としています。同要領は、昭和56年６月の建築基準法施行令の改正に伴って建設省住指発第96号の通達を受けて改訂され、高さが45m（鉄筋コンクリート造は31m）を超えて60m以下の高層建築物についての安全性を判断する「評価」が追加されました。

なお、当委員会では近畿以外の地域の物件についても「評価」や「審査」を行っております。

2. 運　営

当委員会は、主に近畿における大学の先生方で構成されており、月１回開かれる常任委員会において申込み案件を審議し、案件ごとに２・３名の委員からなる小委員会（部会）を設けます。詳細審議はこの小委員会で行われ、通常２・３回開かれます。審議終了後、担当委員により報告書(案)が作成され、常任委員会での審議を経て報告書が交付されます。

3. 申込み方法

建築主事から建築確認申請予定物件について、当委員会の評価あるいは審査を受けるように指示された場合、下記の書類をそろえて、常任委員会開催１週間前までに当試験所にお申込み下さい。

なお、資料等の作成にあたっては、事前に当試験所と相談の上、進めていただくようお願いします。

○評価又は審査申込書(当試験所所定の用紙)…… １通
○建築主事の意見書(審査依頼事項を記載したもの)…１通
○総合説明書(常任委員会及び小委員会用資料)……20部

4. 評価・審査の手数料について

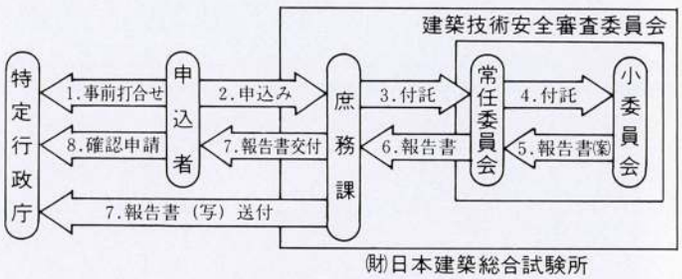
基本手数料は、評価95万円、審査60万円です。

常任委員会での受付終了後、当試験所より申込者に対し、請求書を送付しますので、審査終了までに所定の銀行に振込んでいただくことになっております。

5. 常任委員会の開催日

平成６年度の今後の常任委員会開催日は、8/23、9/21です。
10月以降についてはお問合せ下さい。

資料請求および、お問い合わせは、庶務課までご連絡下さい。



委員名簿　敬称略・50音順(平成６年４月１日現在)

委員長
五十嵐　定　義　大阪産業大学工学部環境デザイン学科教授
副委員長
若　林　　實　日本建築総合試験所長
委員
浅　野　幸一郎　関西大学工学部建築学科教授
石　田　修　三　京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科教授
井　上　一　朗　大阪大学工学部建築工学科助教授
井　上　　豊　大阪大学工学部建築工学科教授
上　谷　宏　二　京都大学工学部建築学教室教授
内　田　直　樹　社団法人日本建築構造技術者協会関西支部〔株式会社日建設計大阪構造事務所長〕
大　場　新太郎　大阪工業大学工学部建築学科教授
桂　　順　治　京都大学防災研究所教授
金　谷　　弘　神戸大学工学部建設学科教授
金　多　　潔　京都大学名誉教授
川　村　純　夫　大阪市立大学工学部建築学科教授
河　野　允　宏　京都大学工学部建築学第二教室助教授
河　村　　廣　神戸大学工学部建設学科教授
日下部　　馨　神戸大学工学部建設学科教授
國　枝　治　郎　京都大学防災研究所助教授
甲　津　功　夫　大阪工業大学工学部建築学科教授
篠　崎　祐　三　京都大学工学部建築学第二教室講師
柴　田　道　生　摂南大学工学部建築学科教授
鈴　木　計　夫　大阪大学工学部建築工学科教授
鈴　木　祥　之　京都大学防災研究所助教授
田　川　健　吾　福井大学工学部環境設計工学科教授
竹　内　吉　弘　大阪工業大学工学部建築学科教授
谷　池　義　人　京都大学防災研究所助教授
田　村　　博　日本建築総合試験所材料試験室長
辻　　文　三　神戸大学工学部建設学科教授
富　永　　恵　京都大学工学部建築学第二教室助教授
中　島　正　愛　京都大学防災研究所助教授
中　島　茂　壽　大阪工業大学工学部建築学科助教授
中　田　啓　一　近畿大学理工学部建築学科助教授
中　村　　武　京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科教授
中　村　恒　善　京都大学工学部建築学第二教室教授
永　井　興史郎　摂南大学工学部建築学科教授
長　岡　弘　明　京都大学工学部建築学教室教授
野　中　泰二郎　京都大学防災研究所教授
藤　原　悌　三　京都大学防災研究所教授
真　塚　達　夫　社団法人日本建築構造技術者協会関西支部〔株式会社東畑建築事務所大阪事務所長〕
益　尾　　潔　日本建築総合試験所構造物試験室長
俣　野　善　治　日本建築総合試験所事務局次長
松　井　克　俊　明石工業高等専門学校建築学科教授
松　永　裕　之　摂南大学工学部建築学科教授
南　　宏　一　福山大学工学部建築学科教授
六　車　　熙　京都大学名誉教授
森　田　司　郎　京都大学工学部建築学第二教室教授
八　尾　真太郎　関西大学工学部建築学科教授
山　肩　邦　男　関西大学工学部建築学科教授
山　田　　稔　関西大学工学部建築学科教授
脇　山　広　三　大阪大学工学部建築工学科教授
渡　辺　史　夫　京都大学工学部建築学第二教室教授

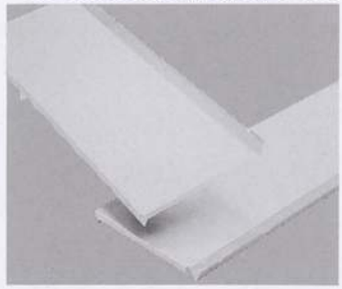


関西国際空港とともに、
ステンレスの未来へ向けて飛び立ちます。

川鉄の超高耐食性ステンレス
R30-2(SUS447J1)

日本初の24時間空港として、その経済効果が期待される関西国際空港。この旅客ターミナルビルの屋根を覆うメタルタイルは、川鉄のダル仕上げ(シルバーソフト)"スーパーステンレス"です。海に囲まれた厳しい環境に耐える高耐食性とともに、太陽光の反射を抑え飛行の安全を高めるために表面に凹凸を付けた防眩性をもつスーパーステンレスです。しかも、自然の色合いの微妙な変化を映し出すステンレスの質感はそのまま。このスーパーステンレス鋼板で覆われた屋根はすでに完成し、9月の開港に向けて、大きな注目を浴びています。錆に強く、すぐれた特性を持つスーパーステンレス。川鉄はこれらの特性をさらに磨きあげ、市場のニーズに対応できるさまざまなステンレスをこれからも提供していきます。

●"シルバーソフト"は、川鉄のつや消し仕上げステンレス鋼板です。
R30-2(SUS447J1)の他にも使われています。



川崎製鉄株式会社
東京本社　ステンレス鋼板グループ／東京都千代田区内幸町2丁目2番3号(日比谷国際ビル)〒100　TEL.03(3597)4030
大阪支社　大阪ステンレスグループ／大阪市北区芝田1丁目1番4号(阪急ターミナルビル)〒530　TEL.06(315)4562～63

新建材紹介コーナー 211

日本建築協会建材委員会

建材用フェライトステンレス鋼

川崎製鉄株式会社
大阪 大阪市北区芝田1丁目1番4号(阪急ターミナルビル)〒530
TEL.06(315)4511
本社 神戸市中央区北本町通1丁目1番28号 〒651
TEL.078(232)5111

❶——はじめに

建築分野においては、オーステナイトステンレス鋼SUS304およびSUS316が汎用ステンレス鋼として用いられている。これらの鋼は、臨海地域等の厳しい腐食環境の場合、表面仕上げの種類や使用される部位によっては錆びることがあるため、表面を塗装したステンレス鋼も使用されている。臨海地域等においてステンレス鋼を無塗装で使用する場合、ステンレス鋼自身の耐食性を向上させる必要があり、CrとMoの含有量を多くした鋼が臨海地域用ステンレス鋼として開発されている。ここでは、それら高耐食性フェライトステンレス鋼について紹介する。

❷——製品仕様と特徴

化学組成

建材用フェライトステンレス鋼の化学組成を**表1**に示す。R445はSUS316の代替鋼として開発されたものであり、Niを含有せずCrの量を増やしている。R30-2はSUS447J1に相当する鋼であり、CrとMoをR445よりもさらに多く含有させた臨海地域用ステンレス鋼である。

耐食性

大気暴露におけるステンレス鋼の耐食性は、ステンレス鋼中のCrとMoの含有量をもとに算出される孔食指数(P.I.=Cr+3Mo)によってある程度推定することができる。潮岬で1.5年間暴露したステンレス鋼の発錆面積率と孔食指数の関係を**図1**に示す。孔食指数が30以上であれば臨海地域においても高耐食性を示すといわれている。R445はこれまでの使用実績から耐食性がSUS316より優れることが実証されており、SUS316を使用する必要のある環境で使用することができる。一方、R30-2は沖縄における暴露試験でも優れた耐食性を示すことが確認されている。フェライトステンレス鋼はSUS304と同じ表面仕上げを選択することができるが、SUS304の場合と同様に、耐食性におよぼす影響を考慮して表面仕上げの種類を選択する必要がある。

機械的性質

フェライトステンレス鋼の機械的性質は、**表2**に示すように、SUS304やSUS316に比べて降伏強さが高く、伸びが小さいことが特徴である。フェライトステンレス鋼は、板厚1.5mmの場合でも180°曲げができるため、曲げ加工が多用される建材に適用することができる。

物理特性

フェライトステンレス鋼は、**表3**に示すように、SUS304やSUS316に比べて、熱膨張係数が小さく熱伝導率が大きいために、熱歪みが小さくなり、部材のジョイント目地寸法を小さくすることができる。

❸——使用実績

R445は、日本コンベンションセンター展示棟(設計:㈱梓設計)および吉備高原都市センター(設計:アーバンデザインコンサルタント)の外装材などに使用されている。

一方、R30-2は、関西国際空港旅客ターミナルビル(設計:レンゾピアノビルディングワークショップジャパン)の屋根全体を覆うメタルタイルや石川県総合水産センターの屋根にも使用されている。また、R445およびR30-2は、母材ならびにシーム溶接継ぎ手の曲げ性が優れるため、シーム溶接防水工法屋根にも適している。

❹——おわりに

フェライトステンレス鋼R445やR30-2は、耐食性が非常に優れており、しかも仕上げによって色々な肌合いのものが製造可能である。また、これらのフェライトステンレス鋼はSUS316やチタンに比較して経済的であるため、今後の発展が期待される。

猪野達雄／建材委員

表1　ステンレス鋼の化学組成

分類		JIS規格(川鉄規格)	化学成分 %								
			C	Si	Mn	P	S	Ni	Cr	Mo	その他
Cr系	耐食性	(R445)	0.030以下	0.04～0.06	0.50以下	0.040以下	0.005以下	0.60以下	21.50～23.00	0.75～1.25	Nb0.35～0.45
	高耐食性	SUS447J1(R30-2)	0.010以下	0.04以下	0.40以下	0.030以下	0.020以下	—	28.50～32.00	1.50～2.50	N 0.015以下
Ni系	標準型	SUS304	0.08以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	8.00～10.50	18.00～20.00	—	—
	耐食性	SUS316	0.08以下	1.00以下	2.00以下	0.045以下	0.030以下	10.00～14.00	16.00～18.00	2.00～3.00	—

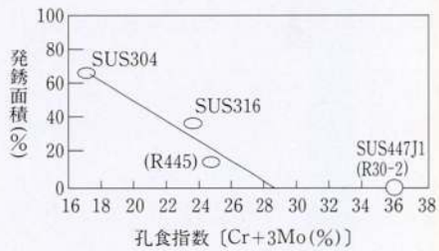


図1　潮岬で1.5年間暴露の発錆状況

表2　ステンレス鋼の機械的性質

鋼種		降伏強さ(N/mm²)	引張強度(N/mm²)	伸び(%)	硬さ(HV)	曲げ(180°,1T)
(R445)	規格	≧205	≧390	≧22	≧200	割れなし
	代表例	382	510	32	186	割れなし
SUS447J1(R30-2)	規格	≧295	≧450	≧22	≧220	割れなし
	代表例	436	563	30	201	割れなし
SUS304	規格	≧205	≧520	≧40	≧200	割れなし
	代表例	284	637	56	174	割れなし
SUS316	規格	≧205	≧520	≧40	≧200	割れなし
	代表例	274	608	57	178	割れなし

表3　ステンレス降の物理特性

特性 ＼ JIS規格(川鉄規格)	(R445)	SUS447J1(R30-2)	SUS304	SUS316
比重(g/cm³)	7.68	7.64	7.93	7.98
比熱(J/kg·℃)	469	502	502	502
熱伝導率(×10⁻²cal/cm·S·℃)	4.7	4.5	3.9	3.9
熱膨張係数(×10⁻⁶/℃)	9.8	9.8	17.3	16.0
電気抵抗(μΩ·cm)	62	64	72	74
ヤング率(×10³N/mm²)	205	226	193	193

建築の眼

シルバーシート

身体障害者や高齢者が自らの意志で自由に移動できる社会を目指して、各自治体で福祉のまちづくり条例がつくられはじめている。結構な配慮であり、早期実現・実効を願ってやまないが、法律的強制が効果を挙げ、本当に豊かな社会が形成されるのだろうか。「画竜点睛を欠く」のたとえほどではないが、小さな一つのバリアが行動全体を阻止することも多い。個々バラバラの部分的な対処ではなく、総合的・体系だった面的な対処が望まれるところである。

それらも時がたてば達成されるかもしれない。物理的な配慮は必要条件であり、十分条件ではないが、比較的達成しやすいと考えられる。しかし、それらをうまく管理・運営するソフトはそれほど簡単とはいえない。身近な例にシルバーシートがある。「お年寄りや体の悪い人の優先利用」が謳われている。しかし、真っ先に健常者が座る、という光景はよく目にするところである。また、出入口やスロープ周辺への自転車の放置、歩道への自動車の乗り上げ駐車、商品のはみ出し等、人的バリヤーは枚挙にいとまがない。

ハードとソフト、車の両輪でありどちらが欠けても成り立たないが、使う人間への心遣いを忘れないようにしたいものである。

竹嶋祥夫　大阪産業大学環境デザイン学科助教授

イタリヤ紀行（その一）受けつがれる遺産

早春のイタリヤは、梅と桃と桜が同時に咲いて、それらが木々の緑の中に白く霞んで、さながらパステル画の中を行く夢のような２週間であった。ミラノからローマまでを鉄道やバスを利用して、街に着いてからホテルを探すという、いたって気楽な旅である。街を訪れると、まず感じることは、その街特有のカラーがあることである。灰色の花崗石を多く使っているミラノは、シックであるが沈んでいる。反対に、煉瓦やピンクの石を壁に貼っているサン・ジミニアーノやアッシジは、街全体が華やかで明るい印象を受ける。おそらくそれには付近から手に入る材料の種類によるものであろうが、建築材料が建築や文化に、ひいては人々の生き方にまで与える影響や規制は甚だ大きいと言えよう。

イタリアは石の文化を代表する国であるが、石の文化は先人の遺産をとどめて、後の世代に伝えて行く。この国の、石の壁の延々と続く家並と路地に囲まれてみると、国全体が、既にいわゆる原価償却し終わった国であることがよくわかる。土地もその上に建つ家も、とうの昔に借金を返してしまった呑気さが見える。当然のことながら、その中で作り出すものは安く、人々はその土台の上に悠々と生活を楽しんでいる。国は貧しくとも、人々は豊かなのである。せいぜい2･30年しかもたない家を手に入れるために、営々と働き、主の死とともに家も朽ち果てて、その子がまた同じことを繰り返すという我が国の住宅事情との差は、まことに大きいと言わなければならない。日本での日常を遠くに想いながら、街を見わたす丘の上で、１人ワインを飲んでいると、どこかの教会の鐘の音が、夕暮れの中を風に乗って運ばれてくる。

小角　享　小角設計代表取締役

地球にやさしい建築物

「地球にやさしい～」「環境にやさしい～」などというフレーズが使われはじめて久しい。この間、我々が携わっている建築業界においても数々の試みがなされるようになってきた。南洋材型枠の削減、建築廃材の再利用、都市や建築における緑化推進、既存エネルギーの高効率利用、自然エネルギーの活用などはその代表的なものであろう。こうしたいまさらながらの試みを見ていくと、「建築物をつくる」という行為自体がいかに地球に悪影響を与え、環境を破壊している行為であるかを改めて感じさせられる。

昨年、大阪鶴見緑地にUNEP国際環境技術センター大阪が創設された。UNEPセンターは、情報面での技術提供に留まらず環境保全への取り組みや精神を実際に体験できることをテーマに具現化された施設である。また、その建築に際しては、型枠工事で芯材に針葉樹を使った複合合板の使用、建築資材を設計寸法に準じて製作することで建築廃材の少量化、砂利地業での再生砕石や舗装工事での再生舗装ブロックなどのリサイクル資材の採用といった省資源や環境問題を配慮した材料や工法の採用に努めるとともに、設備面でも施設内の電力に太陽電池や燃料電池、ゴミ発電電力などの新エネルギーシステムを採用したり、自然を生かした空調システムや省エネ照明設備、水資源を守る給排水設備など環境と共生する技術を積極的に取り入れた施設である。

今まで我々は開発という名のもとで散々地球を破壊してきた。そして、引き換えにその過程においていろいろな技術や知識を、またその結果において幸福を得てきたといえる。その破壊によって得られた技術や知識を使って、今度は我々が地球に幸福を返すべき番ではなかろうか。まずは公共建築からである。

川畑雅一　大阪市都市整備局営繕部長

新石器時代

人類の技術の歴史は、石、銅、鉄の順に発展してきた。電気は、その銅（電気）と鉄（磁気）のおかげで生まれたようなものであるが、1950年代に入って、トランジスタが出現して約半世紀の間に、あらゆる所に半導体が使われるようになった。最初は情報処理や通信系に使用されていたのが次第に電力系にまで及び、蛍光灯の点灯回路や、電車やエレベーターの電力回路にまで、このような石が用いられるようになってきた。ラジオやテレビの真空管が、石に取って代わられたと思ったら、その真空管技術の応用として、電力用の遮断器が出現したというのも奇しき因縁というべきか。

このように、半導体技術の進歩が、電気の利用をますます便利に、かつ効率よくしてきたのは、いなめない事実であるが、そのために電源の波形（正弦波形）を著しく歪ませる結果ともなってきた。これが最近、新聞紙上でもよく見られる高調波問題である。銅鉄時代から新石器時代に入ってしまった以上は、それに対応する技術と、インフラの整備が急務となりつつある。

山本権一　㈱きんでん常任顧問技師長

住空間における居どころへの視点

個からの再出発



総論Ⅰ　住空間における居どころへの視点―個からの再出発■内井昭蔵

各論　居どころ―建築家の視点

多中心運動空間の風景■遠藤剛生

和みのある空間■木原千利

廻遊式住居■竹原義二

個の時空にひたる■三澤文子

内から外への発想■吉羽裕子

主婦の居どころ■吉村篤一

事例　都市、街からの居どころの空間へのボキャブラリー

1．空中への開放感■ホテル・ラ・クラッセ・アルパインタワー、梅田スカイビル

2．憩いと安らぎのコクーン（繭）■ブレーメン・ラーツケラー、PAPARAGI

3．確かな拠りどころ■南禅寺山門、プラハ・カレル橋

4．ほどよい距離感■中之島公園、屋台

5．素肌の触感■高桐院

6．光と影のコントラスト■高山寺石水院、カリフォルニア工科大学 CALTEC

7．思い思いの視線■ビッグステップ、ケルン大聖堂前広場

8．非日常の舞台■ホテル・リッツ・ロンドン、映画「風と共に去りぬ」

9．自然の中のテラス■梅田スカイビル＜花野＞、海遊館

総論Ⅱ　街の居どころ―都市と住空間■橋爪紳也

レポート　男の居どころ、女の居どころ■藤森洋一郎・河瀬光晴

総括　これからの住空間における居どころへの提言■加藤　力

インテリア・住宅分科会

中村孝之　石川佳子　大橋真由美　加藤力　角方利幸　北浦かほる　工藤昌之　小柁吉隆　小島保人　高橋文吾　畑康之　福田由利　増田邦子

住空間における居どころへの視点ー個からの再出発

内井　昭蔵

人間生活の社会化

場所というのは、空間の中で価値の集積しているところで、家族の歴史的事実だとか、記録とかで特化されたところをいいます。現在、住宅の中で個人の居場所がないということは、場所として認識できる空間がないということで、昔は生活風景の仕掛けとして、大黒柱などの固定したものがありました。そうしたものが今の住宅においてはなくなっています。また、農村社会とか昔の社会など固定した社会では、居どころとか場所性は「座」という形でありました。現在は、家族の中で主人とか主婦の居場所を確定できるものが希薄になっています。これは、家族の形態が核家族化したことで、いままでの家族（家）の複雑な仕組みが整理され、親は親、子は子とばらばらに生活し、相互のコミニュケーション、情報伝達が断絶している。昔は祖父、祖母などと共に生活を営み、或いは交流することで集積された情報が伝達されやすく、家の歴史の中での自分の位置関係の解明が容易だったといえます。

一定の壁に囲まれた閉鎖的な空間の中でないと居どころ、居場所は確定できません。いまの住まいの多くに庭がなくなっているのも影響があるのでしょう。昔の日本の家屋は開放的でありながら、庭の周りを垣で囲っている空間構造で、庭と室内が一体化していました。それが家庭内の安心感を生みだし、内部では家族間の開放的交流ができたのが、いまはその壁がなくなって、プライベートな空間領域が部屋だけというのが大きな問題でしょう。それがアパートメント化して、家族各々の立場が希薄になり、家はただ寝るだけの場所、道具を置くだけの場所になってしまって、実体的な生活行為が満足に営まれない。家があってもホームの実体がなくなっているといえます。居所はＴＶの前だけというのが現実の家族の姿です。そうしたところから人間生活そのものが社会化しているともいえます。逆にオフィスも公共建築も生活空間化する傾向にあります。これは居どころが分散するという意味です。

私自身のことになりますが、いま東京と京都の双方に生活の拠点があり、職場のほかにアトリエ、家をそれぞれもっています。だから朝、起きるとここはどこだったかとしばしば考える時があります。それでも自分自身の居心地のいい場所をつくるために、本とか、私の趣味である食器とか、絵をそれぞれの生活拠点に同じように置いています。動物のテリトリーを示す臭い付けのように、それによって自分の居場所を確認します。

生きるための技術

家族の生活様式も変わってきて、最近は主婦も外で仕事をもっていますし、家にいるのは年寄りだけかもしれません。昔は家族というものは重要な教育の機能をもっていて、その場がホームでした。いまは同じ空間を共にしながら滞在が短いために、その機能を充分に果たせなくなっています。つまり親から子への「生きるための技術」の伝達がない。例えば、忍耐する、人を愛する、死ぬ、などの技術が伝わらない不幸があります。そうしたものは、学校で教えられないもので、家庭でしか教えきれない大切なことです。そうした生きる技術、心を伝達する機能が欠けてしまって家の持つ伝統が消えてしまいます。

「家」は「もの」を伝達する機能もあります。昔は「かまど」など耐久性のある「もの」を親から子へと伝えることによって「家」を相続してきました。現在は耐久性のない機能性中心の家電製品なので「もの」を伝えることがなくなってきました。これは「もの」の価値を実体として伝え、守っていくことの大切さを喪失していることです。家族が「もの」を守ることによって一つに結束するわけです。遺産相続で土地、家屋を相続しても、税金などで分割したり、こわしたりバラバラになってしまいます。いままで社会の仕組み、制度として連綿と続いてきたもの、山、畑、家など親から代々うけついできたものが崩壊してしまうわけです。自然環境、景観を守れなくなっています。居どころ、居心地とかはそうしたことに立脚しています。

私の家では、家族の絆を大事にするため正月とかクリスマスとかに、そのための特別な食器（琉球漆器、ベネチアングラス）を使ってハレの日を祝います。そうしたしきたりと「もの」をとおして「くせ」をつくります。そうした生活行為が家族の営みを持続させ、それと空間を一体化することが重要だと考えています。公共建築、例えばホールを造る時にもそこで行う予定のプログラムを知ることで設計が出来るわけです。住宅を造る時、そこに住む人達がどのような生活のプログラムをもっているかを聞くことが大切なのです。打ち合わせの時に、予算がいくらで、家族が何人で、駐車台数が何台で、物置がどのくらいほしいかだけを聞くのではなく、どのような生活のイメージをもっているのかを聞き出すこと、或いは一緒に考えることが重要なのです。それがないと、いくらいい建築を造っても住み手の生活にあわなくなります。

生活のイメージ

いま、居心地のいい場所というと、安楽椅子があって、ＴＶがあって、エアコンがあるところを挙げる人が多いわけです。それは本当の居心地のいい場所ではないのです。いまパータン化した情報で世の中が構成されているのは非常に怖いですね。文化とか創造性の枯渇に建築家が加担してきたことを反省しています。

ただ、こうした家族のあり方、都市と住宅のあり方を真剣に考えているのは建築家であり、特定の人を対象に出来ない公共建築、公共住宅の供給者でしょう。その場合、問題なのは対象の人が見えないため、平均化し、抽象化してしまうことです。そうしたことは、質そのものを等質化、画一化する危険性があるわけです。そうしたことを防ぐために外形的に変えるしかありません。住戸の面積は決まっていますから、コモンスペースとプライベートスペースの間の操作とか自由度を考えるわけです。

「ベルコリーヌ南大沢」においては公共建築なのに、イメージまで変えさせていただいた。そうしたことがないかぎり、空間を特化できない、すなわち居心地のいい空間ができないと思います。

住む人の顔が見えれば、ある程度コミニュケーションでイメージを発見してつくることができます。顔が見えないから、あるレベルでものを考えるわけです。住宅は居心地のよさで買ってくれるか疑問に思います。デザインの決め手は、その住宅が売れるかどうかです。経済性、合理性、品質性とかで売れるわけです。空間のもつ本質性で選んでくれることはありえません。公共住宅、戸建住宅でも出来るだけ居心地のいい空間づくりをしているつもりです。

しかし、建築家の意図していた使い方どおりにしていただく場合は非常に少なく、後で使いずらいとか雨漏りがするとかいう苦情があって行きますと、雨が漏るような使い方をされているわけです。自分の住む住宅とはどういうものなのか考えていただかないと、建築家と住まい手のギャップが大きすぎます。以前はそうした度に腹が立ちましたが、最近は超越して、使い方は自由で、やはり設計が悪かったと思ってあきらめています。

われわれは空間とかハウスは造れますが、生活のホームは造れません。生活は住まい手のものなのです。本当に住まい手がいい生活を創れるようなハードを造ることが建築家の使命です。どのような生活がいいかをイメージして住宅をつくりますが、一旦、住まい手に引き渡した以上、それをどう使おうがその人の自由であって後であああでもない、こうでもないというのは越権行為で、また建築家の増長でもあり、設計が悪かったのかもしれません。

私は住宅を設計する場合、設計料はサービスだと考えています。それにかける時間と設計料が釣り合わないからです。逆に、サービスと考えるといい加減なことをして、後で嫌われるとサービスの意味がありませんので、手抜きなどはもってのほかで、できるかぎり関わってやるのですが、後でやはり怒られますね。(笑い)

打ち合わせの時、明確な生活イメージをお持ちのクライアントはまれです。目先のニーズにとらわれず、相手の身になって、どうしたら一番、相手の幸せになるのかを考えることがサービスだと思っています。大きな歴史的な見方をして、ニーズの奥にあるものをつかみとる気でないと駄目だと思います。時には私達以上にユニークな空間への考え方をする人がいます。

女優の左幸子さんなどもその一人です。目黒のスタジオを設計したのですが、キッチンとかリビングの考え方が大胆で斬新ですね。寝室も含め全部一つの空間で、いってみれば大きなワンルームで、生活感がないといえばいえるのですが、モダンないい空間になったと思います。

吹上御所の設計

「吹上御所」の設計では、天皇陛下にお会いするまで、われわれと生活体験や価値観がまるで違うのではないかと思っていましたが、実際にお話をしますとそうではなくてわれわれと同じ感覚をもっておられる方だと思いました。

非常に率直にお話される方で、打ち合わせの時は一般の設計と同じで、ここはこのくらい広い方がいいとか、ここにはこうしたものがほしいとおっしゃっていただき、非常に設計者としてやりやすかったように思えます。

一言で申しますと、陛下のお考えは素朴で質素なものを望まれ、贅沢なものはいっさいお許しになりませんでした。そうした打ち合わせはかなり綿密に行いまして、普通の家の10倍くらいやりました。家を造る時はどんなに高貴な方といえど、われわれ庶民と同じに楽しみなんだなと思いました。お住まいになって１年目にパーティをされまして、その時お招きいただき、両陛下から「居心地のいい素晴らしい意匠設計をしてくれてありがとう」というお言葉をいただきました。

ライトの有機的建築

私の建築の考え方は、フランク・ロイド・ライトの建築についての考え方に共感を覚えます。彼が理想としていたことは現在でも充分、通用します。彼がいう「有機的建築―オーガニック・アーキテクチュア（生きている建築）」は、自然の有機体、木や植物は枝も葉も全部一つのもので体系づけられていて、微妙な調和をもって生きているということと同じに装飾と景観とが有機的につながっています。空間のコンセプトそのものが部分でも全体でも生きています。それが建築の中で一番大切なことです。そうしたものが人間をなごやかにします。素材をいかに生かすかがディテールですから。

ライトの建築は非常に景観的です。土地のもっている力が建築によく表現されています。ライトの建築は地形によく調和し、よく地形を生かしています。落水荘やアリゾナの自邸もそうです。おしきせの敷地を与えられて、それを生かすような努力をしても彼のようにキチッと合わせるのは非常に難しいことです。あわないことは、ライトの行状です。芸術家は自己主張が強いこと、他人を困らせたり問題を起こしたりする、がある程度許されると考える人は多いのですが、私は芸術家だからこそ、そうしたことは許されないと思います。

都市の居心地

都市における居心地についてですが、今、私が居る京都は素晴らしい街だと思います。山に囲まれ川が流れる自然の安心感がある。それに熟成された文化があって、どこにいっても発見があり場所性がある。生活の場が蓄積された歴史軸、時間軸があって、祭りがあって実に素晴らしい。

その京都で設計しました「国際日本文化研究センター」は、梅原猛先生の考えている理念を建築に表現しようとしたものです。形は集落的ですが、研究施設を生活空間化した居心地のよい研究者が研究に没頭できる空間にしたつもりです。建物のディテールや色彩テクスチャーが場所にぴったりおさまるよう土地環境にそって考えました。京都の施設はだいたい山裾にあって水平に広がっています。やはり水平が日本文化の源だと考え、日文研も水平に広がり、奥に行くと奥の院があるという構成にしました。図書館、情報棟はシンボリックに、セミナー、会議室は夢殿に、エントランスは南大門と考えました。

屋根瓦は周囲の緑や秋の紅葉に映えるものを考えながら、山口県の萩を旅していましたら、とても美しい塩焼き瓦の集落をみつけま



「我が家は森」森の中に聖別された空間（住宅）があるという考えです。植物に覆われた門。



リビングルーム。トップライトからは樹の間越しに太陽や月や雲が見えます。わが家の「プラネタリウム」。

※写真はいずれも内井昭蔵邸

した。日本精神を表現する町家のいぶし銀の日本瓦もよいのですが、知的拠点といった非日常性も考慮して、赤い瓦を考えました。塩焼きの素朴な赤を考えていたのですが、塩焼き瓦は窯を傷めるので工夫しまして、いぶし銀瓦を還元で焼きましたら、期せずして自然の焼きむらのある赤い瓦ができました。

梅原さんは当初、選んだ10人の建築家の書いた本を片っ端から読まれ、「内井さん、貴方の書いた本の内容はよく理解できる。それと言っていることとやっていることが一致しているね。」とおっしゃって指名していただきました。実際、正直いってびっくりすると同時に、そうした期待に応えるため、精神的に大変でした。日文研の設計にかかる前に京都の建物を調べるために、「京大人文科学研究所東洋学文献センター」(設計　東畑謙三)を見てすっかり虜になりました。大変な名建築でこれ以上のものを出来るのか悩みました。

思うに、建築は平均的なものがなじみやすいのではなく、個性的なものの方がなじみやすいのです。建築は垂直線と水平線で構成されています。垂直線は人間の向上心とか崇高なものを求める祈りの心を表し、水平線は人と協調して相互に連携する日常性を表しています。ライトの建築が水平線強調で大地になじみやすい日本的な建築といえます。それが日本人がライトの建築を好きな原因ではないでしょうか。

なじみやすさが居心地のよさ

なじみやすい家をつくることが「健康な建築」だと思います。また、自然になじむことは景色におさまってきて、地域社会の人達の記憶の中で場所を得る事が大切です。なじみやすい建築もあり、なじみにくい建築もあるわけです。「不健康な建築」とは、等質空間をもたらす機能とか合理性のみを追求しているものです。また、非常に自己主張の強い建築も不健康といえます。

建築は元来、社会性の強いもので、建築家或いは施主一人のものではないのです。周囲の環境、自然、景観との調和の中で成立するものだと思っています。いつまでたっても自己主張が強くて、風景の中に溶け込めない建築、自然とか環境に対立的な建築よりなじみやすい方がいいと思います。生活になじみ環境になじむことは、エイジングに耐えられるディテール、色、素材でないと駄目だと考えます。

私の家の事に戻りますが、私の家は父親の設計した昭和初期の東京の山の手の和洋折衷の木造住宅ですが、その時代性というか時代精神を残そうと思い、解体修復をしました。だから昭和初期の色を使い、テクスチャーとか、当時の材料のもつ薄っぺらさなどでノスタルジックな時代性を印象づけるテクニックを使いました。家に来る客がよく、こんな家に住みたいといってくれます。建築家の圓堂政嘉氏もアメリカの建築家協会のパパス会長(1988年)もおいでになり、「居心地がいいよ」といってほめてくれました。

住宅で一番、大切なものは、アットホームと居心地よさと安心感です。それがあればどんな粗末な素材でも居心地のよい家になります。居心地のよさには時間の経過も不可欠です。新築のころは空間なのですが、それが時間の積み重ねによって場所性を獲得していくのです。建築家は空間を造るのですが、住まい手の手に渡り、時間や歴史の積み重ねから、なじみやすさが生まれてくる。それが居心地のよさであり、「場所」といえるのではないでしょうか。

(うちい　しょうぞう／建築家・京都大学教授・談)
(聞き手：編集委員　中村孝之、石川佳子、角方利幸、小梶吉隆、福田由利)


玄関ポーチの前に置いたパーゴラ。「むべの棚」。


食堂。我が家でもっとも「聖なる空間」です。フォーマルな家族室。

建築家の視点■遠藤剛生










写真上下　中央階段

写真左上下、右上下いずれも東階段

写真上下　路地

写真提供　遠藤剛生建築設計事務所

多中心運動空間の風景

名塩ニュータウン集合住宅



名塩ニュータウン集合住宅

モダニズムの建築と都市は歴史性も文化性も否定し、場所の個性を奪い、伝統的風景とは馴染まず、風景を破壊し、人々は場所に対する拠り所を失った。ここに大きな問題が一つある。ポストモダニズムも、街のコンテクストや文化的脈絡に関わりのない建築をつくり、世界の個別的な建築と都市を画一化する危険性を暗示した。又、社会が組織化されればされるほど客観的な価値観が力を持ち、主観的な価値が重要であることがわかっていながら、それを評価するプログラムが作れない。美意識においても、2つのベクトルがある。すなわち、ベルサイユ宮殿に代表されるような幾何学的で左右対称の直線的な空間や、一見して全体が見渡せる、中心性の強い単純明快な空間の価値を上位に置いてきたヨーロッパ的美意識と、もう一つは限りなく変化し、場所ごとに個別性のある自然な空間の多様な価値を持つ東洋のそれである。後者の空間の特質は、日本庭園の空間構造と自然感そのものである。すなわち、例えば庭園の導入部分の空間は、その少し先の空間の魅力しか、訪れるものに見せてはくれず、歩を進めるごとに中心は移動し、風景の中心は常に自分と共にある。このように全く自由気ままに空間を構成しているが如く見せ、偶然の連続する多様な空間のように見せながら、その実、したたかに構成された空間の「間」と風景の連続には、明確な秩序が存在する。ここに示した計画は、住宅・都市整備公団によって計画された名塩ニュータウンの集合住宅であるが、単体の一般的な建築であれ、群的な建築であれ、それがどんな種類の建築でも、基本的な考え方と作法は同じである。この空間は東洋の自然感を基に場所の条件を読み取り、個別的な空間の質を評価し、人間的解釈を加え、再構成し、多中心的で複雑な連続的運動空間に導き、自然と一体感のある、居心地の良い領域の形成を意図している。

（えんどう　たかお／遠藤剛生建築設計事務所）

建築家の視点■木原千利



双葉の家　撮影　松村芳治

和みのある空間

双葉の家



双葉の家

双葉の家、この住宅で、そう頻繁には使わないが、趣のある和室と庭がある。

一寸改まった折は、この家の味のある主役を務める。

又、仕事や家族や気持ちの上で、雑多な事から一寸解放されたい時、この部屋に入って、ぼんやり、まわりを眺めたりする。

いわゆる「居心地の良い」場所だったりする。

洞床を背に、土間をとおして、うすく水を張った池がみえる。

スリガラスの壁に仕切られた、この底の浅い池に那智黒石が敷きつめられているのだが、時間と季節の経過で光が水面に、水面より石に、それがガラスに跳ね返る。あるいは、ガラスに当たる光が水に、石にと互いに微妙な揺れや影となって視覚に訴える。

あるいは一陣の風が、水面にさざ波を立てる。目にしたさざ波は、この池を通り越したイメージの広がりをもたらす。

ゆらゆらとやさしく揺らめく光や影の動きをみるのは、不思議に心ひかれるし、気持が落ちついてくる。

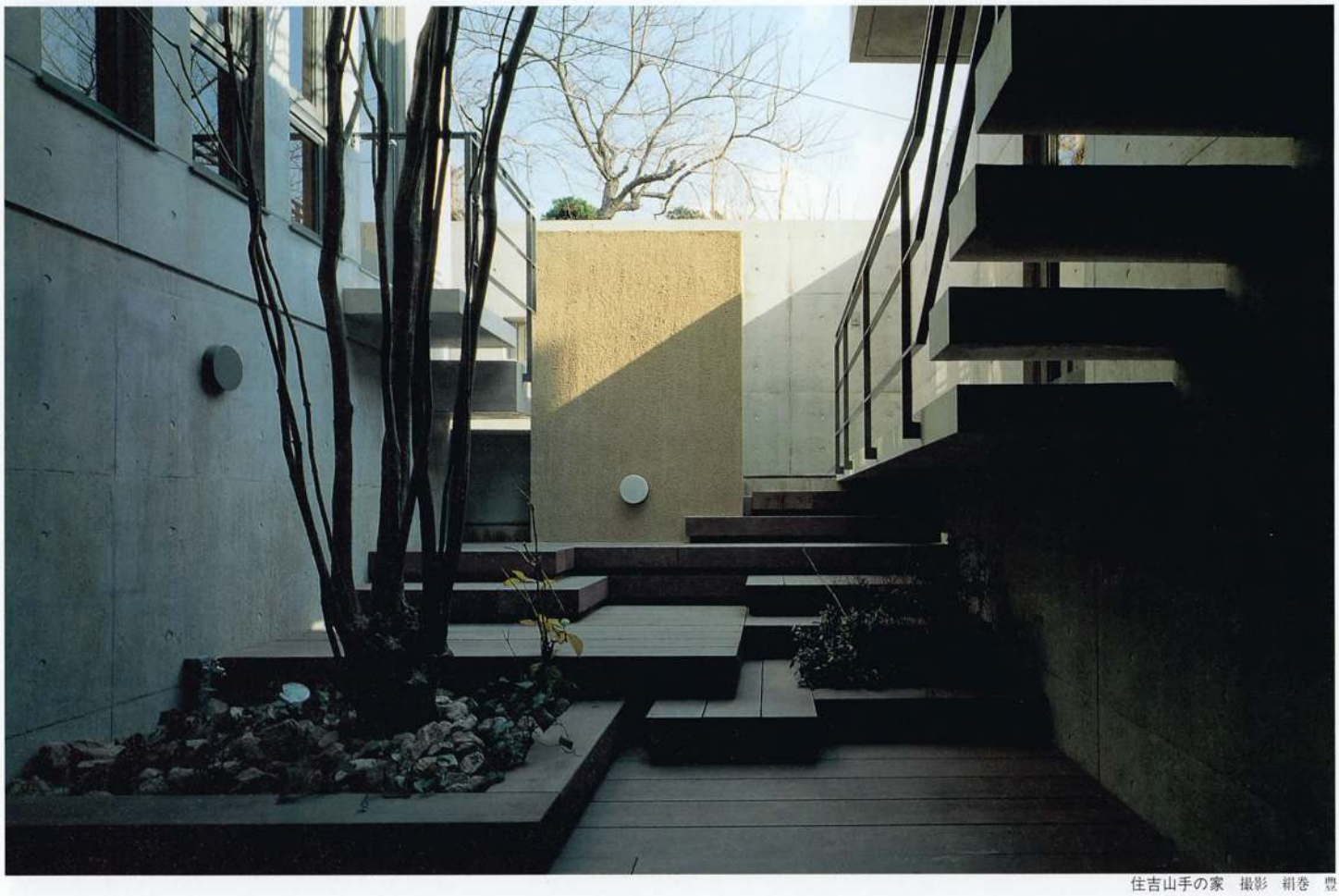
置きざりにしてきた事や、これからの事、諸々の事との対話を促す。

この気持ちの和みが、あしたへの意欲や活力になる。更には、意識の見直しに引金の役を果たすと思う。

生活の基本となる住まいにあっては、例えば、自然を身近に感じられる工夫が、いかにも大金をかけた風のものでなく、意表を突くようなものでもなく、一見、地見なようで味わい深さがあり、計算された、あきのこない空間で、それぞれ各人の生き方のスタイルに合ったものが居心地の良い場所だと思う。

（きはら　ちとし／木原千利建築設計事務所）

建築家の視点■竹原義二



住吉山手の家　撮影　絹巻　豊

廻遊式住居

住吉山手の家

建築家が住宅の設計で関与できることは、住み手がいつでも自由に住み替えできるように考えた間取りを提案することである。

生活する上で必要な、決まりきった機能のための空間のみで構成された住宅は、時間の経過の中で飽きてしまう。つまり、余分な空間、用途が規定されていない空間こそが、住み方に融通性を与え生活そのものが広がりのあるものにしていく。すると個人の居どころは、工夫すれば、どこにでも確保できるものなのだ。たとえば、わざわざ動線を長くする。そうすることにより、人が移動することで部屋と部屋はつながり、廊下の意識はさらに高まる。即ちそこにある空間は無駄な空間としての役割もはたしている。また、外室と内室のつながりは、土間の仕上を同じにすることによって、領域を曖昧にし、用途を決めつけない。

このようにして生まれた中間的領域が住む人に自然を認知させる。さらに廻遊することによって人が動くと、見え隠れするシーンが目に入り、家の中を動き回ることの大事さを認識する。そして、その空間を使いこなそうという意識は、自分の居どころを認識することから始まる。私は、何かを生み出すときに、生活するための箱だけをつくっているという意識はない。住宅をつくる場合には、建主と共に、その場所に住むことへの提案をしているつもりである。だからこそ一緒につくりあげた住宅をうまく住みこなしてほしいと思うし反面、私の期待をきれいに裏切ってほしい気持もある。本当は私が提案できることは、住み手に住むことへの意識をもたせるということだけかもしれない。それは、生活についての考え方を一新し住まい方の可能性を広げ、多様な生活の場を提供することにある。先にも述べた様に、私は決して便利なだけの住まいをつくるまいと思っている。

建築家は、施主の要求を越えた何かをつくっていかなければならない。変化し続ける社会の中で、家族もまた変化していく。その変化に対応できる様に、ルーズではあるがシンプルな家をつくっておくことが重要である。いつでも、どこでも、何とでもなるという発想がもてるような、自由な住まいの中にこそ自分の居どころは必ずある。

（たけはら　よしじ／無有建築工房）



住吉山手の家

建築家の視点■三澤文子



庵治の家　写真提供　Ms建築設計事務所

個の時空にひたる

庵治の家



庵治の家

子どもはすごいと思う時がある。どこでも自分の世界をつくってしまうからだ。子どもたちの遊びをみていると、遊びの中の物語は次々にワープして、空想の世界をぐんぐん広げていく。大人は、そんな時空を超えた心の遊びを、楽しめなくなっている。それは仕方ないことかも知れない。けれど、ながめの良いところで、美しい風景にめぐりあった時や、可憐な花を見つけた時、忙しい大人であっても、思わず足を止めて、一人言をつぶやいてみたりする。

住まいの中での個の空間は、住宅の全てにその可能性をもっていると言っていいと思う。個の空間だから個室、といった答えではないだろう。大きな家の中でも、一人で居る時間は、その全てが個の空間になり得るし、たとえ家族の喧噪の中であっても、個の時空にすっぽりとひたることもできる。ただ個の時空にひたるきっかけや、持続させるやさしさや強さを住宅がもっているかという問題だと思う。

このごろ<居間>という室名を言葉に出して言う時、とてもとまどいを感ずる。居間というより広間と言った方がいいかな……とか広間というより広場という感じだ……とか、心の中で問答している。

大きく、広々とした空間をつくる。この空間で、住む人々がどのような生活をするのか、様々なシーンが浮かんでくる。小さな子どもたちはあちらこちらに物を散らかしながら、遊びの世界へ。夫は壁にもたれかかり、右手に何やらアルコールの入ったグラスを持って、雑誌のページをめくる。妻は子供や夫のいない静かな空間になってから、やっと紅茶を飲んだりする。通りすぎる人もいれば、座っている人もいる、都市の中の広場のような空間を、できる限り大きくとりたいと考えている。

異なる時空にワープして、アリスの国で遊べるような、そんな、やわらかい心を、とりもどしてくれそうな、おおらかな空間が、住宅の中にあったらいいな……と思っている。

（みさわ　ふみこ／Ms建築設計事務所）

建築家の視点■吉羽裕子



友呂岐の家



友呂岐の家　撮影　絹巻　豊

内から外への発想―半屋外と半屋内

友呂岐の家・日吉台の家

島国で大洋の影響を受け易く、夏期高温多湿、複雑な地形と気候を持つ日本で、永い年月の中で育まれてきた自然感が、過去40年程の急激な工業化の中で、都市部の増大と共に変わりつつある。農業中心社会では１日のうち外で過ごす時間も長く、恵まれた自然と共に歩む日々の中から、自然への視座から生まれた文化が結実してきた。第２、３次産業の増加と様々なメディアの発達、都市環境の悪化、西欧文化の直輸入の中で、我々の住まいは次第に閉鎖性を増して来ている。科学技術の発達は生活文化にも拡がり、住まいの快適性は技術力による解決が推進されてきた。それに伴い、永い歴史の中で蓄積された知恵の集積は徐々に消え去ろうとしている。

新しい時代に生きる我々は確かに視覚的文化や反射神経を発達させているのだが、その一方で触感や実感を喪失し始めている。人間が生命体として生き延びてゆこうとするならば、今ここで、心と身体の健全さを保つ仕掛けを生活の基盤であるべき住まいに取り戻すべきではなかろうか。

伝統的な住居系建築では、障子や板戸を開け放てば、縁側を挟んで庭と一体感を覚える造りを持ち、古くは寝殿造と池泉庭園、書院造と中庭、方丈と枯山水（石庭）や苔庭、町家と坪庭等に見られるように、様々な形態を生み出してきた。四季折々の草木の多彩な表情を愉しむのを始めとして、外部の変化に富んだ天候を調節する役割も大きく、換気は勿論のこと、強風を防ぎ、涼風を誘い、直射光を遮り、反射光、散乱光を採り入れる。このような建物の内と外との繋りは感性豊かな日本の文化を培ってきたのである。

樹々の息吹や、仄かな風のゆらぎを、肌で感じ取り、光の動きで刻々の移り変わりを識り、繰り返される生の営みを体感する。その様な空間作りを目指してゆきたいと考えている。

（よしば　ゆうこ／アイ・エフ建築設計研究所）



日吉台の家

建築家の視点■吉村篤一

主婦の居どころ

花櫚館

ちかごろは“主婦”という言葉は良いイメージを与えないようだが、家庭生活を維持していくためには、“主婦”的な役割を果す人が必要なことはいうまでもない。ところが現代の平均的な家族は夫は通常家に居る時間は少ない、子供も塾通いやけいこごとなどで留守勝ちが多く、妻も仕事やボランティア活動に精を出す、というように個人がそれぞれ自由な行動をとることによって、家にはいつも誰も居ない、という状態になりがちである。また休日には家族そろって買物やレクリエーションに出かけることも多く、家の手入れなどもまともにできなくなってきている。けれども家というのはいわゆる“家事”や手入れは必要なのである。いままでは妻がその役割を担っている家庭が多かったわけであるが、最近は新しい家族関係の確立により、適切な役割分担によって家事をこなして行こうとするニューファミリーも登場してきており、家族の概念の意識革命が進行しつつあるようだ。このような状況の中で、スムーズに家事をこなせる住宅計画が必要になってくるわけである。それは快適な“主婦”の居どころを確保することであろう。かといって家事室のような特別な部屋を設けるのではなく、家族とつねに接しながら、ちょっとしたコーナーを設けておくことが望ましい。ここに紹介するのは家族室の一部に造りつけの大きな机を設け、電話、ファックス、インターホンなどもあり、またすぐ近くにキッチンやユーティリティ、勝手口等もあっていわゆる“家事”は手際よくこなせるようになっている。かといって端近で居心地の悪い場所でなく、陽当りも良いし庭の眺めもよいのでゆっくりと読書をしたり、ちょっとした合間に音楽を聞くこともできる。このような場所が“主婦”の居どころとしては適切ではないだろうか。

この家の“主婦”は趣味も多く活動的で外出することも多く、そんなときは夫や子供がその役割を果すことも可能である。そしてこの家にはホームコンサートもできるような大きな広間があり、そこがこの家の中心で見せ場ともなっているが、このように家事を容易にこなすことのできる動線計画がきちんとできていてこそ、その家の良さも生きてくるといえよう。そういった意味で快適な主婦の居どころのある家、というのが理想的なすまいの条件なのかもしれない。

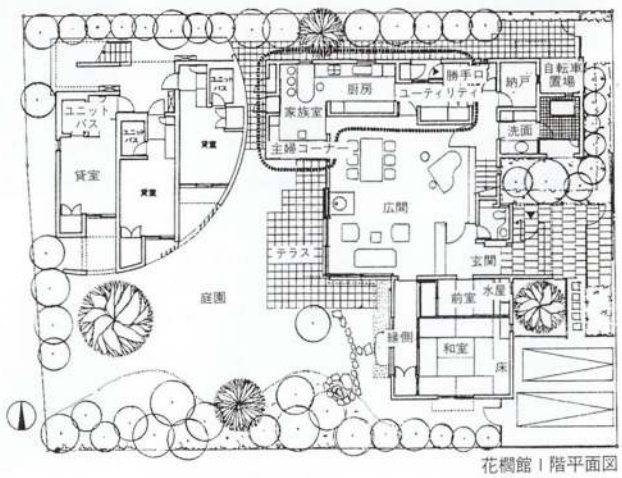
（よしむら　とくいち／建築環境研究所）



主婦コーナー



外観



花櫚館｜階平面図

写真提供　建築環境研究所

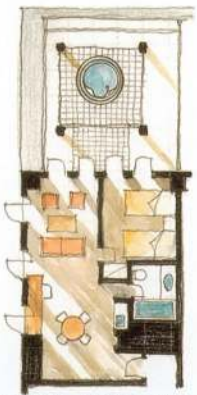
都市，街からの居どころ空間へのボキャブラリー

空中への開放感

ホテル・ラ・クラッセ・アルパインタワー
スイートルーム＜プライベートアウトジャグジー＞
梅田スカイビル＜空中庭園＞

空中へ！空に思いを馳せることは、人類にとって永遠の夢である。文明の創り出した数々の道具、気球、飛行機、摩天楼…これによって、より広い世界を自分のものにしてきた。しかし、視界に広がる世界と同じ風に吹かれる時、それは単なる風景でなく、臨場感のある空間になる。都会の雑踏の閉ざされた世界から抜け出し、空を歩く開放感、閉鎖的な浴室から抜け出し、裸のまま空へ飛び出した開放感、空から世界を五感で体験するため、居どころは可能な限り拡張する。





ホテル・ラ・クラッセ・アルパインタワー・スイートルーム（プライベートアウトジャクジー）



梅田スカイビル



空中庭園

憩いとやすらぎのコクーン（繭）

ブレーメン・ラーツケラー
PAPARAGI

ウツボが岩穴に潜り込むよう、ヤドカリが貝殻に入るよう、人にも心地よい空間がある。１人には１人の、２人には２人の、４人には４人のための…。他から邪魔されることなく落ち着ける場所。天井・壁に囲われ、親しい者同士がテーブルを囲めば自然に会話も弾む。



ブレーメン・ラーツケラーの個室のスケッチ



ブレーメン・ラーツケラーの内部



PAPARAGI の個室のスケッチ



PAPARAGI（パパラギ）
北アフリカをテーマに、カスバ（旧市街）のイメージで、木と漆喰を使った迷路のような洋風創作料理の店。営業時間PM4:00～AM1:00、年中無休、大阪ウメダ阪急東通商店街イートキュービックビル３Ｆ・４Ｆ　TEL06-311-1681

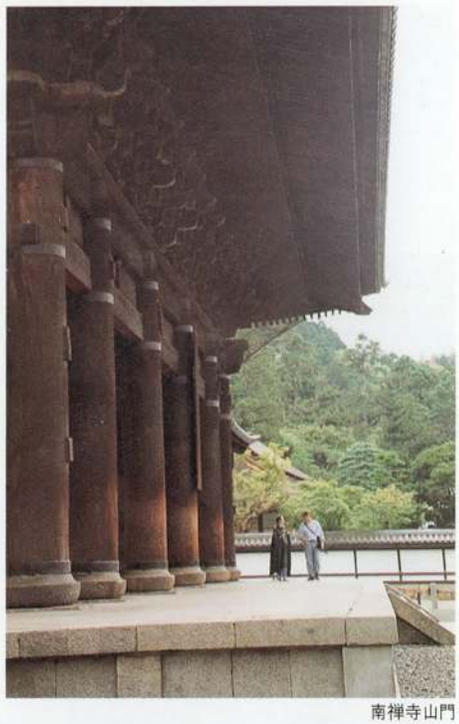
確かな拠りどころ

南禅寺山門
プラハ・カレル橋

屋外で室内で、私たちは何かの側に在る時、何故か安心して居ることが出来る。それはベランダの手摺りであったり公園の大きな木であったり。人はいつも、身体と心の両方で、存在の拠り処を求めているのかもしれない。



プラハ・カレル橋のスケッチ



南禅寺山門

ほどよい距離感

中之島公園
屋台

思い思いのことをしても誰もが妨げられない先住権のあるベンチ、客同士あるいは主人との距離を近づけ、目の前に立ち昇る湯気の暖かさを共有するカウンター等、様々な場面での領域としての主張がある。
精神的な安らぎを得るほどよい距離感が、心理的領域とした役割をはたしているのではないだろうか。



屋台のスケッチ



中之島公園

素肌の触感

高桐院

四季の変化の中で私達日本人は生活を営み、それを眺め、触れ合うことに親しんで喜びを見出し続けて来た。特に高温多湿な我が国の夏の時期、ひんやりとした木の触感は、誰もが心の落ち着きを取り戻す一瞬ではなかろうか。



高桐院のスケッチ



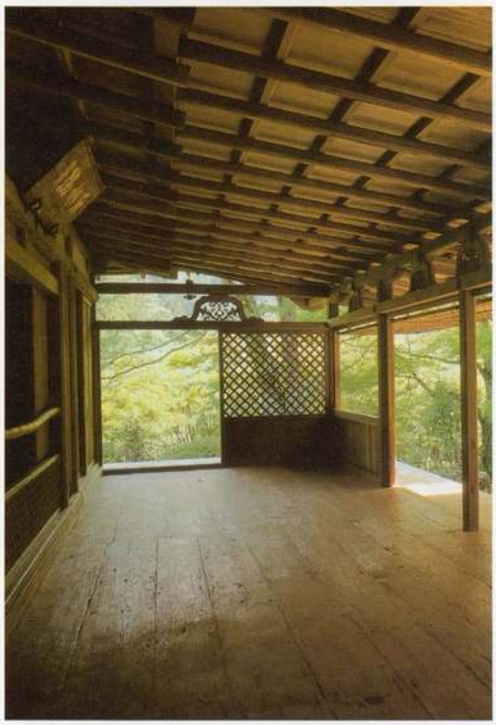
高桐院の縁側

光と影のコントラスト

高山寺石水院

カルフォルニア工科大学 CALTEC

石水院の西正面の広縁は軒の出が広いのでいつもかげりの深い静けさをたたえている。床板は石水院の当初の板屋に用いられていた豪壮な感じのものをそのままに敷きつめ、その正面には春日明神を祀っていたころの神殿構の板扉が残されている。ことに向うにみえる欄間の蟇股と菱格子戸をハイライトでみる美しさは、高山寺でいちばん印象に残る。この内と外をつなぐ空間は、日本建築でも西洋建築でも、柱や格子で切りとられた光と影のコントラストで演出される。



石水院



カルフォルニア工科大学のスケッチ

思い思いの視線を

ビッグステップ

ケルン大聖堂前広場

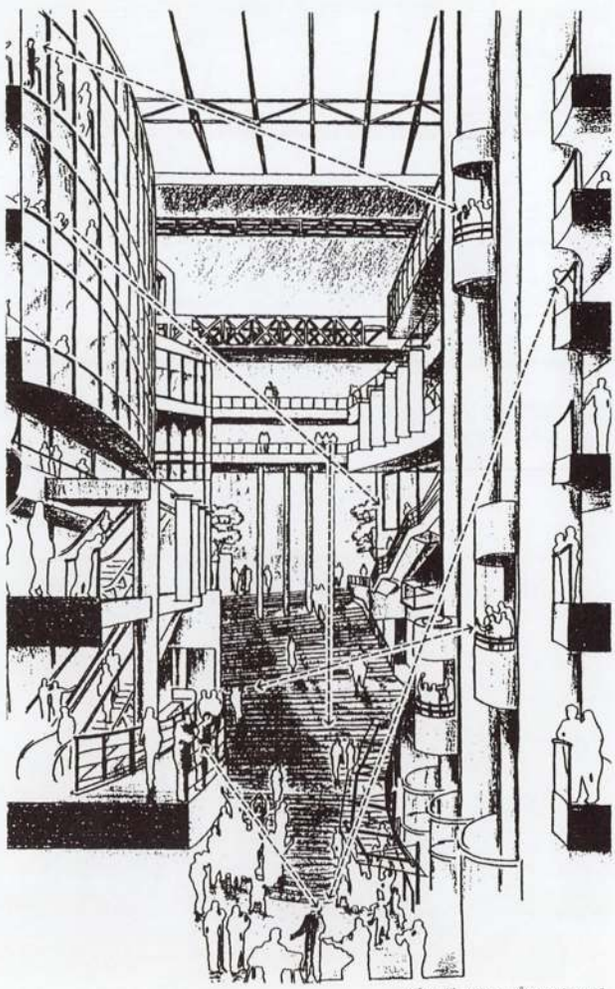
ケルン大聖堂前広場にみる水平型公園では、人は視線の衝突回避に意を留めつつ、思い思いの視線を、遠近法的空間の広がりの中に遊ばして楽しむ。一方ビッグステップのような垂直型公園では、他の視線に意を留めることもなく、アクティブに視線を空間に遊ばせ、時として見知らぬ人と目と目の会話を楽しんでいた。



ビッグステップ



ケルン大聖堂前広場のスケッチ



ビッグステップのスケッチ

非日常の舞台

ホテル・リッツ・ロンドン
映画「風と共に去りぬ」

本来、西洋の住空間の要素であったこれらのものは、非日常の世界に存在する憧れの舞台であったといえよう。私達の生活習慣が変わりゆくなかで、単に機能を持ち合わせた手段としてではなく、家族の触れ合いを提供する要素として見直す必要があるのではないか。



ホテル・リッツ・ロンドン



「風と共に去りぬ」のシーン

自然の中のテラス

梅田スカイビル＜花野＞
海遊館

都市的空間の中で、適度な独立性を外に向かって開放されたテラスは、人々の安心の場を生み出し、大勢が同様に時間の流れを楽しむ空間となっている。開放的な外部環境との一体感が、ゆったりとした時間の流れを楽しませる自然の中のテラスであろうか。



スケッチ



海遊館



梅田スカイビル＜花野＞

街の居どころ■都市と住空間

橋爪　紳也

1．都市と住居のアナロジーをめぐって

ふだん考えていることと、かなり距離のある主題で原稿を引き受けると、あとで悩ましいことになりがちだ。この小論などは、その典型である。

編集部からは「都市の公共空間にみる居心地のよい場所の魅力、構成とは何かを分析し、それを住空間に置き換えるとどうなるか考えて欲しい」という依頼を受けた。具体的には「クラブ・ホテル・商業施設・遊園地・公園などの空間特性をあきらかにしたうえで、それを住居設計などに応用できないか」ということらしい。深く考えもせず、何気なく引き受けたのだが、それが甘かった。いざ執筆する段になって、不可解なテーマだと思うようになった。

都市という大スケールの空間を前提に考えられた空間を、どうアレンジしたところで、住居という小空間のなかに取りこむことはできそうもない。最良の都市空間を、縮景のようにして屋内化に造形しても、さほど居心地は良さそうに思えない。

ハードだけではない。クラブでの人間関係や社交のありかたを、家庭に導入することができるのだろうか。考えれば考えるほど、無理な話に思えてくる。住居を都市のアナロジーで見る作業が、果たしてどれだけ有効なのか。疑問に思えてきた。

2．ホテルは「わが家」――大きな家

もちろん逆は可能だ。都市という巨大な存在を、ひとつの住居にたとえて読みとくのはたやすい作業である。実際、住居に収まりきらなくなったさまざまな機能が外部化し、都市施設が補完するようになった例はいくらでもある。ファミリーレストラン、貸学習室、ペットホテルなど、いずれも家から、はみだしたものだ。

あるいは近年、ニュータウンや衛星都市の駅前などに、あいついでオープンしたコミュニティホテルなどもその典型である。地域住民は、宴会場・結婚式場といった「ハレの舞台」としてだけでなく、ふだんの会合にも、会議室などホテル内の諸施設を借り受ける。まるで集会所のように、あるいは来客をもてなす応接間のように利用する。日常生活のなかで、ごく当たり前にホテルというコミュニティ施設を使いきっている。

ホテルの側も心得たものだ。近隣住民に対しては、豪華さや高級感ではなく、むしろ「親しみやすさ」をアピールしている。遊びや教養の場もさまざまに提供している。最近ではカラオケボックスやマージャン室、ゲームセンターなどを設けるところもある。またカルチャーセンター、クリスマスのファミリーショーや、お正月宿泊パックなど家族連れを想定した企画の充実もおこたりない。

社交・接遇・集会といった機能は、かつては住居の内部か村落の共有施設でまかなえた。ところが現在の都市型住居は、あまりに狭い。結納をかわす座敷もない。来客を接待する応接間もない。趣味の会合や近隣の寄合を開く広間も持ちえない。

また高度なサービスに慣れた客をもてなすのもたいへんだ。身内だけの小さな祝い事、パーティなども、家では準備する余裕がない。とても対応しきれない。コミュニティホテルは、やむをえず家庭からはみだしたこの種の機能を見事に補完してくれているのだ。

いうまでもなくホテル業は装置産業である。高規格のサービスが付随した貸家業とみることも可能だろう。だとすればコミュニティホテルは、地域の人々の交流を支える「大きな家」だという見方もなりたつのではないか。



衛星都市の駅前のコミュニティホテル　東京第一ホテル堺

3．街は「わが家」――もっと大きな家

このような考え方、つまりなんらかの都市施設を住居の代替物に見立てて説明するという発想を、いっそう進展させた興味深いレポートが、三井不動産S＆E研究所と北山創造研究所が最近まとめた『まちづくりの知恵と作法』（日本経済新聞社）である。

建築や都市計画に関係する著書で、とにもかくにもこれほど「元気のある文章」を見るのは実にひさしぶりだ。街を再生するためには、ハードよりもソフトの総合戦略が必要であるという視点から、ユニークな提案がさまざまになされている。

本論の各章は、街のなりたちを「大きな家」になぞらえると何が


玄関のような駅　南海電鉄浜寺公園駅


茶の間のような商店街　大阪・福島の聖天通商店街


縁側のような広場　梅田スカイビル

みえてくるのか、という視点から構成されている。

イタリア人は、もっとも小さな寝室しか持っていないが、同時にいちばん大きなリビングルームを使っていると言われる。街をリビングルームのようにして楽しんでいることの例示である。このたとえ話に準拠するならば、そもそも街は人が寄り添って暮らす「大きな家」、さまざまな生活が営まれている「生活舞台」とみなすことができるだろう。この舞台を素晴らしいものにしようという意識が人々のあいだで高まるとき、「大きな家」は「わが家」となり、生活舞台は「みんなのリビングルーム」となるはずだ。

本書ではこのような立場から、街の骨格をつくる軸や空間要素を、住居アナロジーとして見立てている。念のため、以下に各章の項目を列記しておく。

・玄関のような駅
・居間のような街路
・客間のような観光施設
・床の間のようなシンボル施設
・廊下のような路地
・茶の間のような商店街
・家具のようなベンチ
・インテリアのような街路樹
・暖炉のような界隈
・庭先のような公園
・庭先のような水辺
・縁側のような広場
・台所のような市場
・書斎のようなオフィスビル
・奥の間のような住宅

これまでにも、街を住居のアナロジーで見立てる物言いはいくらでもあった。けれども、これほどまでに楽天的に、あっけらかんと明示した考察は珍しいのではないか。それだけで好感をもてる。

4．わが家は「街」——小さな都市

さて、与えられた紙数も尽きてきた。このあたりで本題に戻らないと叱られる。果たしてクラブ・ホテル・商業施設・遊園地・公園といった都市施設の要素を、住空間に採りいれることができるのかという命題にたちかえろう。

まずはじめに都市施設そのもの、もしくは一部を、住居に置き換えることの是非について考えてみよう。たとえば高級サロンのような住居はありうるだろう。もしくはホテルのような住居、公園のような住居、博物館のような住居はどうか。どれをとっても質の高い住宅になりそうである。なかでも、さまざまなサービスの充実を考えると、高級ホテルなどは現代都市における「究極の豪邸」かも知れない。

しかし、ここでよく考えて欲しい。サロンもホテルも公園も、よく考えてみると、そのルーツをたどるならば、すべて支配者層の邸宅ではないか。支配者たちの住居から外部化し、都市施設に発展したものに理想の住居像を見出だすのは、実はあまりにも自明のことなのだ。

こうして考えてみると、「都市の公共空間にみる居心地のよい場所の魅力、構成とは何かを分析し、それを住空間に置き換える」という当初の命題は、かつて住居から外部化した居心地の良い諸要素を住空間に再度取りこむことだ、という結論になりそうだ。

それではどうも仕方がない、という苦情もあろう。今度は先に挙げたリストを、単純に逆転させてみることにしよう。家のなかに都市施設の断片を取りこんでみるという考え方だ。果して、うまくいくだろうか。

・駅のような玄関
・観光施設に匹敵する客間
・街路のような居間
・商店街のような茶の間
・オフィスビルのような書斎
・ストリートファニチュアーのような家具
・街路樹のようなインテリア
・公園、水辺のような庭先
・広場のような縁側
・市場のような台所

う〜ん、なるほど、もう少しアイデアを詰めこめば、「小さな都市」に見立てたおもしろい住居をかたちにすることができそうだ。なかでも家族のひとりひとりが互いを意識しながら生活する「街路のような居間」「商店街のような茶の間」などは、特徴的な造形ができるかも知れない。ただどうにも落ち着きがなく、騒々しい住居になりそうな点が心配だ。ぼくにはとても住めそうもない。

（はしづめ　しんや／京都精華大学専任講師・工学博士）

男の居どころ・女の居どころ

「男の居どころ・女の居どころ」研究プロジェクト／積水ハウス㈱＋松下電器産業㈱
藤森　洋一郎・河瀬　光晴

はじめに

「個」の視点を原点に―「男の居どころ・女の居どころ」―

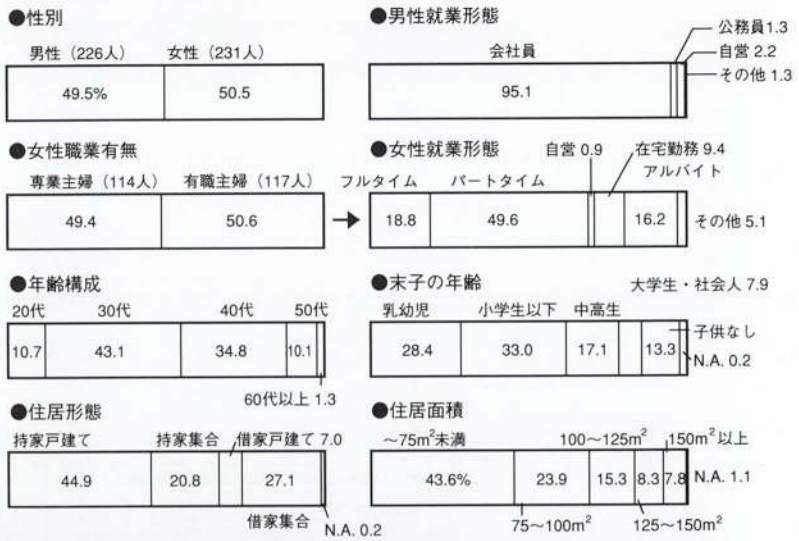
人生80年時代が到来し、週休二日制の導入等によって労働時間が短縮され、自由時間が増えてきている。また「量から質へ」「ゆとりある住生活の実現」といった題目が唱えられて久しい。実際、持家の新設住宅の平均床面積は年々増加しており、住宅を取り巻く社会環境は大きく変化している。一方、「専用住宅」「核家族」「nLDK」といったモダニズムの計画目標そのものも見直そうという状況もある。

今まさにさしかかっている時代の変曲点で、住まいを原点から見直すとき、住まいには再生産のための休養や娯楽の機能に留まらず、もっと生産的な、創造的な場が必要と考えられないだろうか。

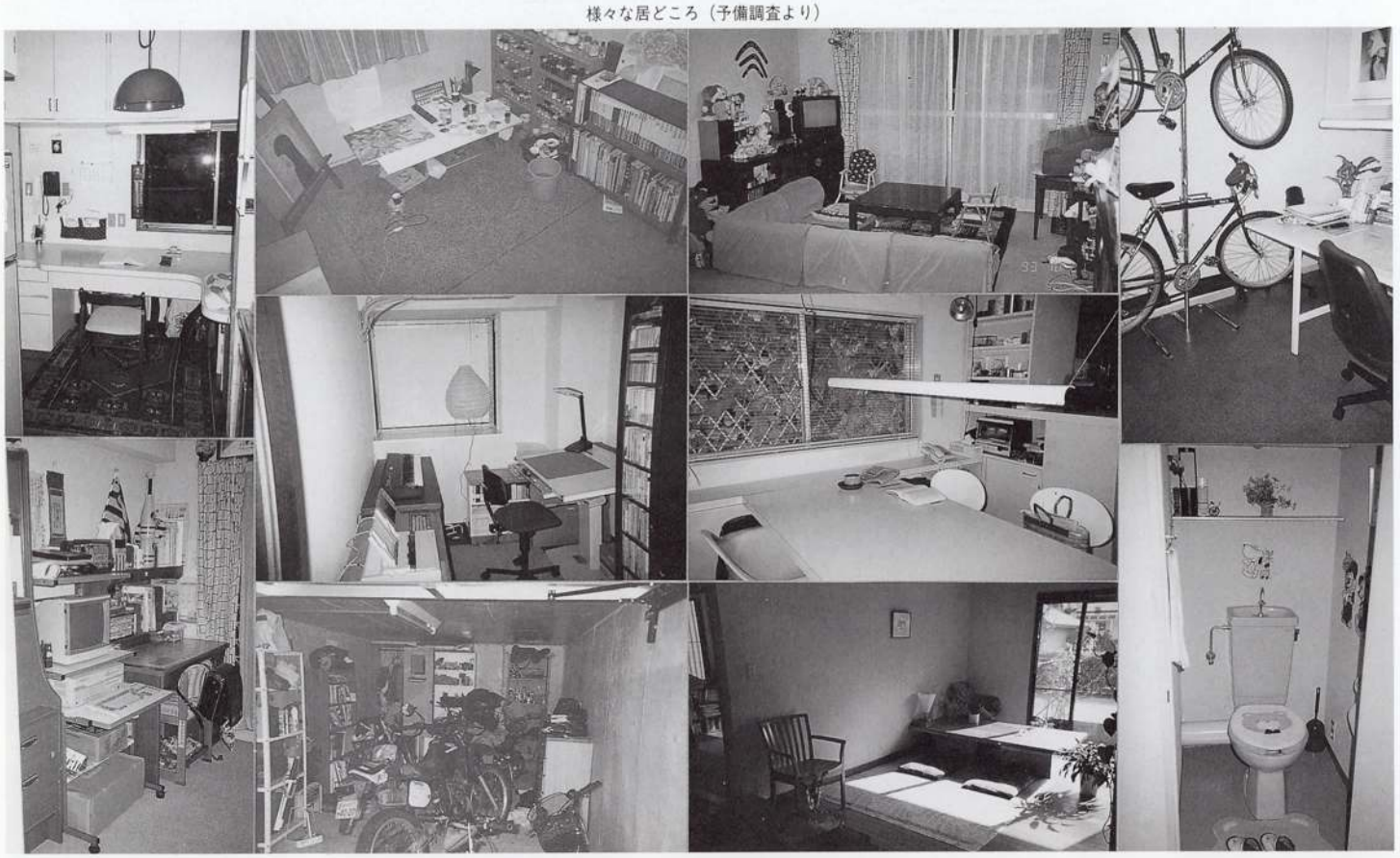
その「場」の内容や住まいの有りようは、「夫する」「妻する」「父親する」「母親する」といった家族の役割を一旦棚上げし、「自分する」ことを直剣に考えてはじめて見えてくるものではなかろうか。家族や夫婦、男女の役割や関係を議論するためにも「個」としての視点を確立すべきであろう。例えばパソコン・ワープロ・コードレス電話等の普及による情報環境の変化の中で個人の身近な場面では、すでに新しい暮らしが始まっているのかもしれない。「個」を原点として住まいを見直すという立場に立ってプロジェクトがスタートした。

調査概要

1. 調査目的　これからの住まいを考える上で重要となる個人の居どころについての現状と方向性
2. 調査対象者　京阪神及び首都圏近郊に在住の、松下電器が一般から公募した奥様モニターとそのご主人
3. サンプル　有効回答　457人（有効回収率　98%）
4. 調査時期　1994年1月～2月
5. 調査方法　往復郵送法
6. 調査対象者のプロフィール



様々な居どころ（予備調査より）



調査結果

自己充実に動きはじめた女性達

自由時間が増えると積極的に活用する意向の強いのは女性で、家族とはスポーツやキャンプ・ハイキングなどのアウトドアライフを楽しみ、家族と離れては友人との付き合いはもちろんのこと、趣味・娯楽・教養・学習・習い事など、ほとんどの場面に男性より強い関心を示している。また、サイドビジネスにも3割の女性が取り組んでみたいと思っている。テレビを捨てて、より能動的な生活へシフトしていく準備は、まず女性から整えられつつあるといえよう。

実態としても、最近趣味を始めたという人は男性の3割に対し、女性はその倍の6割に及ぶ。男性は取りかかりに腰が重いのに対して女性は割と気軽に始めることができるのかも知れない。自己を充実させるために趣味をはじめる人が男女とも多いが、女性の場合、子供の成長で時間にゆとりができたためというケースが半数近くある。時間のゆとりを生活に定着させるのは子育てを終えた女性がリード役となりそうだ。また、女性が家族の役割を離れて個としての自分を大切にする意識を持ちはじめたともいえよう。

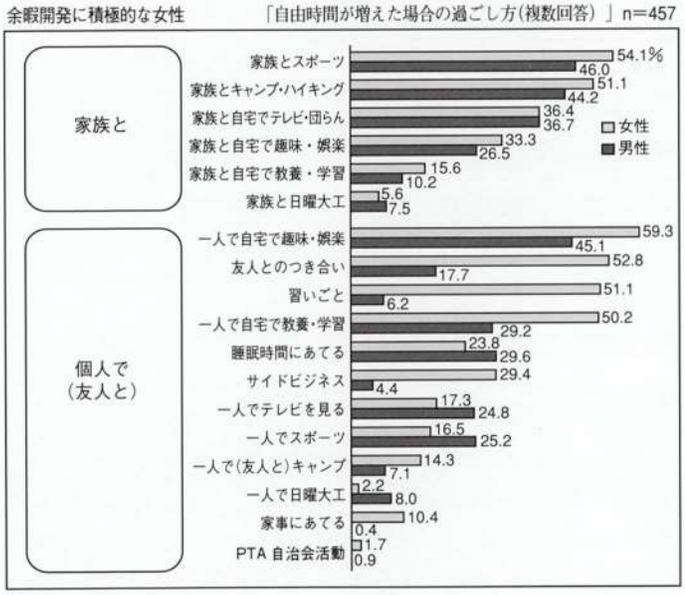
住まいでもon time—学ぶことが余暇活動の主流

今後始めたい趣味・娯楽・学習では、「資格取得のための学習」が男女とも1位となった。学ぶこと自体が余暇活動として位置付けられつつあることや仕事が高度化し、仕事場以外での情報収集や知識更新の必要性が高まっていること等が背景として考えられる。

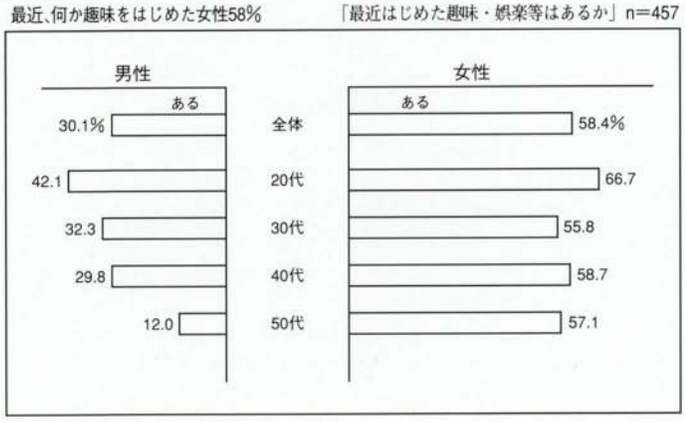
「パソコン通信」の人気も高い。家に居ながらにして、気楽に、好きな時間に、情報交換ができ、交流を楽しむことができる。従来の画一的なマスメディアの情報と違い、必要な情報と主体的に接することは自己実現に強く結び付くことになろう。

労働時間の短縮が進んでいるとはいえ、自宅で仕事やその関連学習をしている人が4割強もいる。具体的にはパソコンやワープロを使っての書類作成が多いが、有職女性も男性と大差なく行っている。仕事そのものはしなくてもそれに関わる学習だけをしている人も約2割おり、仕事やそれに関わる自己啓発などの場面がすでに住まいの中にかなり入り込んでいる。仕事のスタイルが多様化している現状がうかがえる。

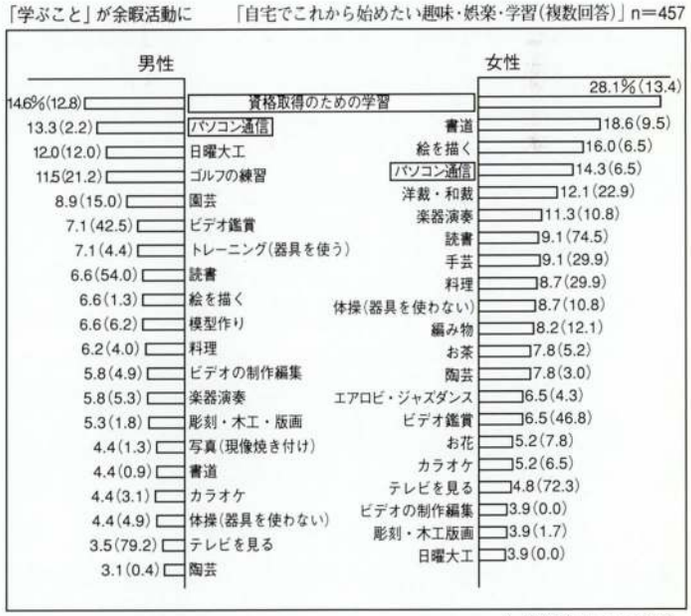
余暇開発に積極的な女性　「自由時間が増えた場合の過ごし方(複数回答)」n=457



最近、何か趣味をはじめた女性58%　「最近はじめた趣味・娯楽等はあるか」n=457

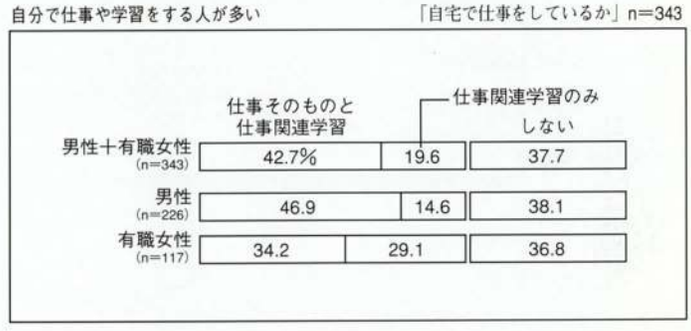


「学ぶこと」が余暇活動に　「自宅でこれから始めたい趣味・娯楽・学習(複数回答)」n=457



（　）は現在している趣味

自分で仕事や学習をする人が多い　「自宅で仕事をしているか」n=343



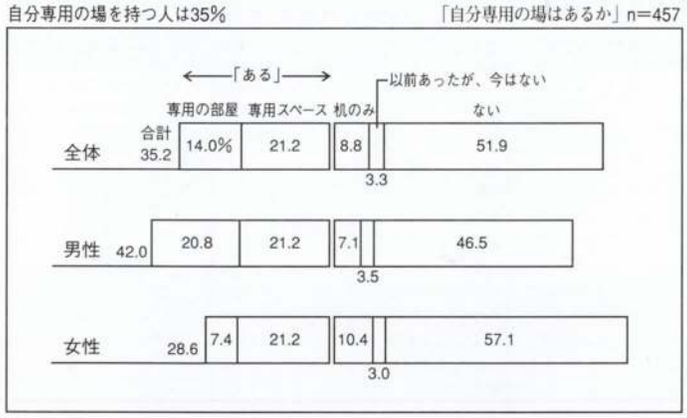
まだまだ少数派だが、「専用の部屋」の満足度は高い

現状で住まいの中に「自分専用の部屋」を持っている人は、1割強でまだまだ少数派である。寝室や居間に付属する「自分専用のスペース」を持つ人が約2割で、双方合わせても35%である。

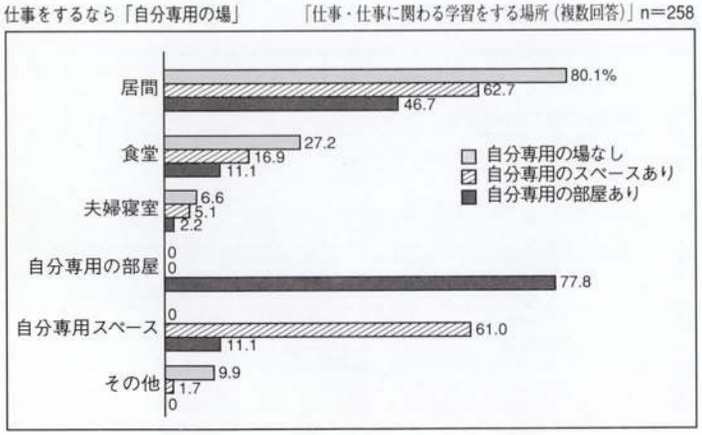
満足度についてみてみると、「自分専用のスペース」では、満足している人よりも不満に思っている人の方が多く、過半を超える。一方、「自分専用の部屋」になると満足度が7割を超え、圧倒的に「部屋」の方が満足度が高い。実際、「自分専用の部屋」を持つ人の気に入っている居どころはその「部屋」で、6割の人が挙げている。また自宅で趣味や娯楽あるいは教養を高めることに、より多くの時間をかけている。

「仕事に関すること」に着目しても、それをする場所に満足している人は全体では三人に一人であるが、「自分専用の部屋」を持つ人では三人のうち二人が満足している。逆に不満の内容は多い順に「出しっぱなしにしておけない」「収納スペースが足りない」「作業スペースが足りない」となっている。仕事や学習にいつでも自由に専念するためには「部屋」が必要であり、気持ちよく、快適にこなすにはそれにふさわしい場のしつらいが不可欠であろう。また、住まいの中での情報機器の在り方も今後重要な課題となるだろう。

自分専用の場を持つ人は35%　　「自分専用の場はあるか」n=457



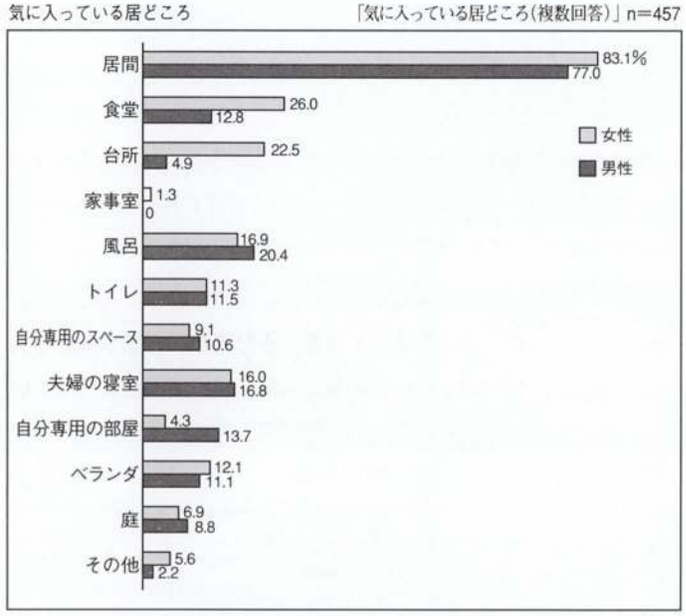
仕事をするなら「自分専用の場」　　「仕事・仕事に関わる学習をする場所（複数回答）」n=258



それでもダイニング、リビングでのくつろぎは欠かせない

気に入っている居どころは現状ではやはり居間で、男女とも8割前後と圧倒的に多い。これは、家の中で最も心地よい場所であることや家族全員のだんらんだけでなく、家族それぞれの気分に応じて、それぞれが好きなことを時には一人で、時には相手を求めて行えるからであろう。また食堂も食事を通じてだんらんしやすいことやダイニングテーブルの多目的性によってか、居間の次に好まれる。仕事や学習にしてもそれほど専念する必要のないものは家族の雰囲気を感じながらやりたいという、いわば「だんらん学習スタイル」ともいうべきニーズも少なからず含まれていると思われる。

気に入っている居どころ　　「気に入っている居どころ（複数回答）」n=457



「居どころ」の価値観分析―4つの価値観因子

「居どころ」の有りように関わる45問の質問について因子分析を行った結果、4つの価値観因子を抽出した。すなわち、住まいでの場面の志向性である＜自己充実志向＞因子、リラックスして休養することを望む＜くつろぎ志向＞因子、家族意識に関する＜家族志向＞因子及び場の志向性である＜自分専用の場志向＞因子である。これらは「居どころ」提案の設計条件として大きな軸になると思われる。

「居どころ」の価値観分析

因子分析の結果より	
自己充実志向	・「家族としての役割」を離れ、「個」としての自分を大切にしたい
	・趣味、教養学習等で自己を充実させたい
くつろぎ志向	・休日は家でのんびりしたい
	・何もしないで、ボーッとしているのが好きだ
家族志向	・「家族といる時間」を大切にしたい
	・家族や夫婦で共通の趣味を持ちたい
自分専用の場志向	・趣味、仕事・学習ができる「自分専用の場」がほしい
	・書斎がほしい

居どころの提案に向けて

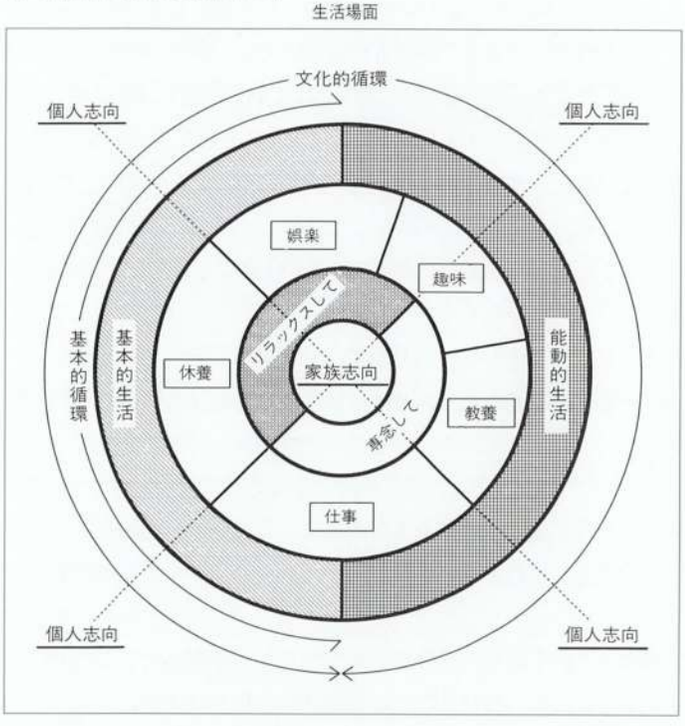
循環している生活場面

生活はその行為の性格・目的によって生活場面として分類できるか、人はどの場面を好み、どの場面は好まないといった静的な選択だけをしているわけではなく、ある時間幅の中でその間を往来している。生活学を提唱した今和次郎氏は場面を「労働」「休養」「慰楽」「教養」に分け、この場面間を循環することが生活であり、「生活はリズムである」と規定した。また、「労働」を起点として循環の幅が大きくなっていくことを生活の質が上がっていくと捉えた。

ここでは、同様に時間概念を導入しつつ、生活場面を＜仕事＞＜休養＞＜娯楽＞＜趣味＞＜教養＞とした。さらにその場面を＜基本的生活＞と＜能動的生活＞に二分した。＜基本的生活＞内での循環を＜基本的循環＞、＜基本的生活＞に加えて＜能動的生活＞を取り込んだ循環を＜文化的循環＞と定義した。そして今後の生活は＜文化的循環＞に重点がシフトしていくと考えている。また各場面に含まれる行為は＜リラックスして＞するものと＜専念して＞するものに大きく分類した。行為の性格をイメージしやすくするとともに、各行為のポジショニングのガイドとなる。また同じ行為でも家族と共にしたいのか、独りでしたいのかといった、家族との関係性についても配慮し、中心に＜家族志向＞を置き、周辺を＜個人志向＞とした。

すべての計画のスタートとなる「何をするか」はこの図のどこかにポジショニングされると同時に全体像も把握でき、「居どころ」提案の原点になると思われる。

生活場面



「居どころ」の押さえどころ

先にみたリビングやダイニングでのくつろぎやだんらんは生活場面でいうと基本的生活に属し、リラックスして行う休養の場面に相当する。同様に家での仕事や学習、自己を充実させるための趣味等は専念して行う能動的生活に属する。前者は居どころの価値観分析でみた＜くつろぎ志向＞に関わり、後者は＜自己充実志向＞と関わる。循環する生活の視点に立って文化的循環にも対応できる「居どころ」を考えるにあたっては両者とも必要である。

休養の場（くつろぎの場）については、基本的循環として住まいにすでに確保されていると思えるが、今後＜家族志向＞の軸と絡めながら、より質の高い場の提案が課題となろう。能動的な生活の娯楽や趣味はそれが本格的あるいは専門的になるほど選択的となり、個別に対応せざるを得ないであろう。同じ能動的生活の学習（教養）や仕事は＜自分専用の場＞志向と強く関わり、なかでも「自分専用の部屋」が夫婦や家族で共用の部屋の「自分専用のコーナー」より満足度が高いことが調査で認められたように理想的には「自分専用の部屋」が望まれる。しかし、実際の提案にあたっては、住まい全体とのバランス等、より総合的な判断が必要と思われる。

これらの能動的な生活に対応する「居どころ」の一般化は困難であろうが、基本的な枠組みの設定や、行為の本格度に応じて住まい手が容易に場づくりに参加でき、ステップアップできる仕組みづくりが今後の課題と思われる。

情報のパーソナル化に対応した新しい居どころ提案の必要性

能動的生活での行為を、個人と広義の情報との関わり方という視点で見れば、その行為の目的に関する情報の収集をしたり、加工をしたりあるいは新しい情報の生産をしていると見ることができる。さらに情報の交換や交流をすることもあろう。このような見方は＜娯楽＞＜趣味＞＜教養＞＜仕事＞のどの場面においても共通に成立すると思われる。なぜなら「能動的」とはその人と情報との関わり方のその人らしさ、オリジナリティにあると考えられるからである。

これらの情報は能動的であればあるほど、パーソナル化していくので、家族の持っていた情報の伝達や共有化といった機能は相対的に縮小されていく。また一方で、情報を個人が時間や空間の制約を受けずに容易に入手、交換できるような環境が整いつつある。

このような状況で、家庭内での個人と情報、家族と情報、個人と家族の在り方について展望を開くことが大きな課題であるとともに、その契機となる新しい居どころの提案が求められている。

（ふじもり　よういちろう／積水ハウス㈱技術本部生活研究室室長
かわせ　みつはる／松下住設機器㈱住設機器研究所生活研究プロジェクト・リーダー）

これからの住空間における居どころへの提言

加藤　力

人と居場所

四つ足動物から、直立歩行で立ちあがった時、人はその身を最も安定させる為に、水平な床を造りあげた。不安定な２本脚であれば、床は凹凸や傾斜であるよりも、水平であることが何よりも一番である。

水平な床に対して、次いで垂直な壁を立てかけることで、人は身の安全を図ろうとした。一枚の壁を立てれば身を隠すこともできるし、外敵から目を外らすことも可能だ。囲われた壁であれば安心感はなおさら強い。

頭の上には日射を防ぎ、雨露をしのぐ覆いさえあればそれで事足りる。加えて、目の前に少しばかりの視界が開けていれば、前もっていくばくかの危険を察知するのには便利で、人の居場所としては好都合である。

確かな床と壁、頭上のわずかな覆い、そして目前に開けた視界、これだけの空間装置さえあれば、人の居場所などはたちどころに確保できる。

場の大きさ、形、周辺の手触り、明暗、あるいはそこで取られる人の姿勢に応じた道具立など、後は全てオプションにすぎない。

そこに匂いをなすり付けたり、生きていることへの明証を刻みつけたりすることは、動物であれば自然に行なう基本欲である。このわずかばかりの装置さえ存在すれば、人はその場に立ち止まり、しばし身を寄りとどめることになる。この理屈に従えば、人の居場所などはしたがってどこにでも存在する。

だが、いま人はどこにも自分の居場所を持たぬと言う。どこも行き場のない不安、不満、不平を抱えて、さ迷い歩いていると言える。街に在っても、家に居ても、職場の中でも、いずれ留まること無く、フワフワと宙を舞い、居場所を探し求めていると言う。

居場所を求める行脚の旅

はたして人が居場所を欠いていると言うのは本当の事なのだろうか、居場所が無いなどと言う事があり得る事なのだろうか？

人の居場所などはどこにでも有り、どこにでも存在する。だとすれば、いま人が居場所を持たぬなどという事は、あまりに多くの居場所を持ちすぎた為に生じた戯いもない贅沢な繰り言の一つにすぎないことなのだろうか？　もっと相応の、自分に似合った居場所があると思い込み、信じてのさ迷いだけの事なのか？

あるいは、居場所など在っても始めから、それと気づかぬ事だけのことなのか、否、気づいていたとしても、知らぬことと決め込んで、漂い、追い求めるうちに、その押し流される流れの中でしか、人は生の実感を感じなくなってしまった末の事なのか。

そうであれば所詮、居場所などいくら探し求めても詮ないことだ。人の中には居場所など見つかるはずもない。１人だけの個室や趣味の部屋など、いくら与えても仕様のないことである。

目の前に出されるいかにも快適そうな空間装置に人は次々と飛びついて、これでも違う、あれでもないと見限り続けて、終のない旅を続けるしかないのだ。人のこの居場所を求め続ける行脚の旅はよくある子供の偶話に似た話にすぎないのだ。

この意味で逆に居場所を見いだす事など至極簡単なことである。すでにどこにでもある人の居場所の一つ、あるいは幾つか選んで、漂うことをやめ、みずからをそこに押し止めることである。そこに踏んばる意志を持ち、それをただ実行することで済む。そこで終のない旅には終止符は打たれよう。

個人の居場所

あとは自分自身の力で、自分自身の判断で、その場を自分に応じて相応しく造り変えれば良いだけの事である。それには難しい技などいらない。例えば、自分の好み、良いなと感じる手触りのテクスチャーを選び、明るさ―暗さも自分で決める。雑然―整然、どちらが好きかは人それぞれである。植物の緑を欲しいならば置けばよい。情報を全て閉じたい人も居れば、必要な者もいる。空間が閉ざされていなければ不安な者もおり、開かれた方が落着く人もいて、これも人それぞれである。寝そべっても、ゆったりと身深く腰掛けても、心を正すように座しても、それは本人が決めることで、法則などはない。

床と壁、少しばかりの頭上の履い、開かれた視界、これが人の居場所の基本装置である。あとは自分自身で室礼（しつらい）すればよい。

いずれにせよ、すでに人の居場所などはどこにも用意されている。人はただ、主体的な意志をもち、そのどこかを選び能動的に、自分自身の場として造りあげていけば、それがすなわち個人の居場所となる。

誰にも、人それぞれ個々の居場所など与える事は出来ぬ相談である。みずからが自分の意志で造りあげるしか手段はない。

居住環境の拡大

人が人であることの特質の一つは、人がみずからの手を用い、そこで、生み出した技術によって、地球上のきびしい自然環境のどの場所にも、人間の居場所を確保して、みずからの居住環境をあらゆる場所に拡大したことである。他の生物との大きな違いはそこにある。

時に自然に抗し、応じ、なじみ、人は自然や外敵から身を守るシェルターを造りあげた。内部環境を巧妙にコントロールさせて地球上のほとんどどこにも住まえる可能性を確保した。この一つだけを取り上げてみても人が居場所など持たぬというのはウソである。

仮にもしそうであれば、今なによりも肝心なことは、かつて人が自然と存分に渡り合いながら、居住環境を拡げ続けてきた、その意志と意欲とのほんの一片だけを思い起すだけで充分である。

ライフスタイルが多様化して、そして家族の関係枠も崩れはじめたなどと言うささやきに惑わされていけない。いつの時空も家族の関係などは揺り動いていた。時代の中で充分な手続きもとられずに、一応の規範がとり決められて、押つけられてきただけの話で、人は必要とあらば規範などは簡単に乗り超えてしまう。

多様化も今にして始まった事ではない。もともと人は皆同じであって、しかし一人一人は違う。逆に、皆異なっているようで、同じである。同じように生きるが生き方はそれぞれに違う。今までの住まいは誰も皆同じ、一緒くたにして同じように扱ってきただけの事である。

nLDKや個室のあり方をもう一度問い直す必要があるなどという甘い言葉に酔い痴れてはいけない。それらは取りあえずの取り決めだけであったはずで、もともと人の生活や意識の上ではギャップがあった。

おわりに

自分自身の居どころが不安定な時節であれば、まなざしはやさしくとも、住み手には、やさしく手をのべる段階から脱して、一所懸命に住まうことに手を貸すことである。快適に住まうための技術はもう充分に整っている。

棲むこととは、迷いをなくし、みずからの心の濁りを澄ますことかも知れぬ。

（かとう　つとむ／京都工芸繊維大学助教授）



人はオフィスの中でも居場所を求める

MOSAIC FLOOR

DANDY

（モザイクフロア「ダンディ」）

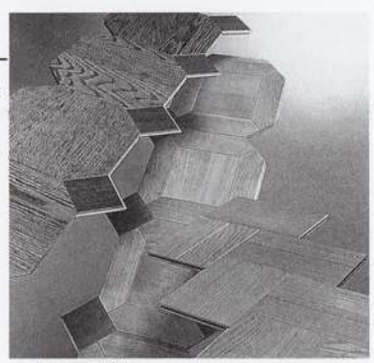
表情豊かなデザインを創造する新しい床材です。



モザイクフロア「ダンディ」は、8角形をはじめとする複雑な形の小さなピースで構成されたパネル床材です。パネルデザインは「ランタン」「モンテセロ」「リンボン」の3種類をご用意。色・表面塗装も各種揃えました。組み合わせ次第で個性豊かなフロアデザインが可能。床表現の新時代がここから始まります。

木の絨緞を敷いた部屋。

例えば異なるデザインのパネルを組み合わせたり、ツートンカラーでコーディネートしたり……。木の絨緞を敷く感覚で、"自由な発想"を具現化できます。



●パネル形状

モザイクフロア「ダンディ」のカタログを進呈いたします。下記へご請求下さい。

永大産業株式会社 建材事業部

〒559 大阪市住之江区平林南2-10-60 ☎06-675-2341㈹

Refined Tech
Kawashima
Since 1843

Kawashima'94▶'96
CURTAIN 新 新発売



〈新見本帳〉軽量コンパクト内容はより充実

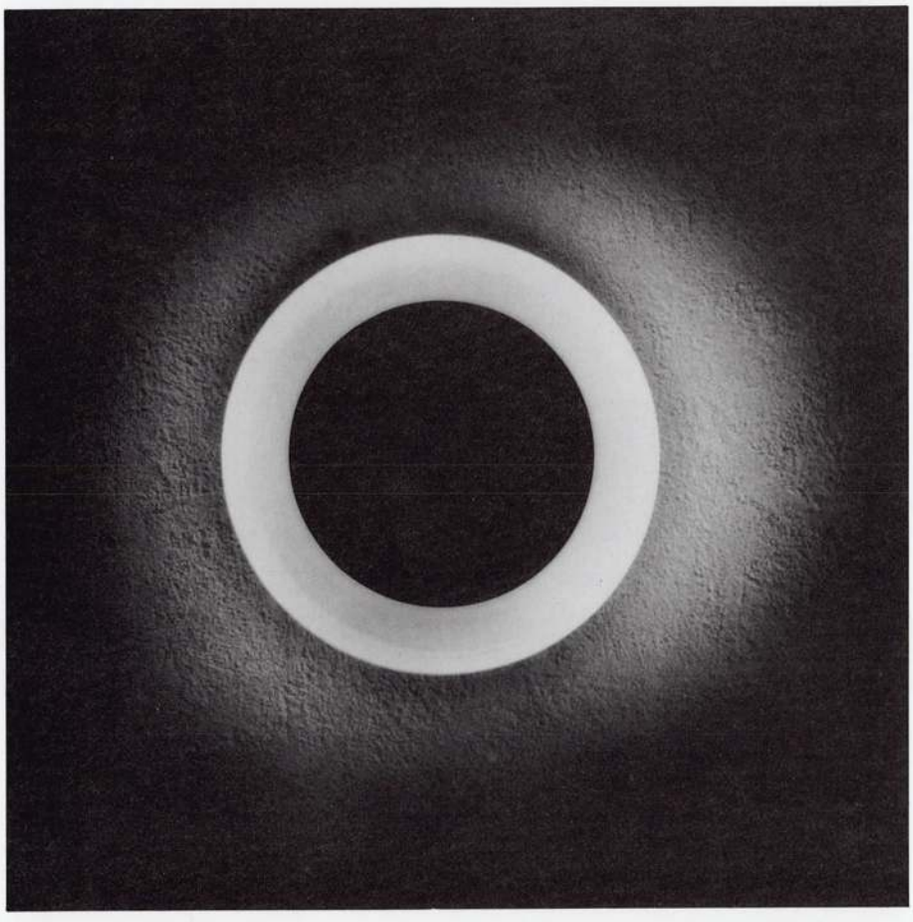
ご納得のいく品質と価格／お好みの色と柄／ご満足のいく機能

いつの時代も**本物志向**であること。
ただ美しいだけでなく、
洗練された**品位のある美しさ**であること。
そして、**世界の一流**として通用する製品を提供できること。
明日のインテリア文化へ、
川島織物は製品でお応えします。

ktm 川島織物

フレンディなインテリア情報
Kawashima
SHOWROOM

●旭川 (0166) 26-8210 ●札幌 (011) 261-2131 ●仙台 (022) 235-5811 ●千葉 (043) 245-2022
●東京 (03) 3355-0575 ●原宿 (03) 5467-9280 ●横浜 (045) 451-5531 ●名古屋 (052) 932-8681
●京都 (075) 621-0292 ●大阪 (06) 347-0423 ●大阪ベイ (06) 615-5223 ●神戸 (078) 857-8108
●広島 (082) 224-3051 ●福岡 (092) 724-3000



BEGA

苛酷な日本の気象条件に耐えるBEGA。
ヤマギワが共同開発しました。

ドイツ・ベガ社とヤマギワの新しいノウハウの結合によって、BEGAはさらに磨きをかけられました。美しい都市環境デザインの見地から、日本でもグレードの高いアウトドアライトが求められてきています。BEGAは、建築素材と同等のグレード、耐久性をもったアウトドアライト。特に、高温多湿に象徴される気候風土など、日本の苛酷な条件に対応できる品質を、ヤマギワとベガ社は徹底的に追及しました。
BEGA社は、日本でもう、すっかりおなじみの顔。確かな実績で、不動の地位を築いてきた、建築分野におけるエクステリアのあかりなのです。

yamagiwa
ヤマギワ照明システム大阪営業部
〒556 大阪市浪速区日本橋3丁目4番9号 TEL.06(643)3211(代表)

SUMINOE

快適なオフィス・クリエイション。

——汚れに強く、地球環境に優しい、世界初の新タイルカーペット。



スミトロンECO-90 は、パイル糸にスミトロン糸（当社製造のポリエステル長繊維）を使用し、バッキング材には従来のバッキングに替え、エコバック（特殊ポリオレフィン）を使用しております。それゆえ使用時及び焼却処理する場合にも有害ガスである塩化水素ガスなどがパイル面からもバッキング面からも発生せず、従来品に比較して汚れに強く、色あせ・黄変しにくいパイル特性を含めて、地球環境に優しい世界初の製法による第三世代のタイルカーペットです。

スミトロンECO-90の優れた特性

- 燃焼時の低煙・低毒性
- 輸送・搬入が容易
- 優れた防汚性能
- 抜群の染色堅牢度
- ピリングをシャットアウト
- 特殊6色カラーミックスによる感性の高い色調

スミノエタイルカーペット
スミトロンECO-90
エコ

組成●ポリエステル（スミトロン）100%　パイル長●5/32（カット）
全厚●8/32　色数●18色　寸法●50cm×50cm
価格●￥9,800/㎡（税抜き）　防炎・防汚・制電

SUMITRON

●スミトロンECO-90は、当社が世界で初めて開発した三次元捲縮ポリエステル長繊維 スミトロン を使用したカーペットです。

スミノエ 住江織物株式会社
ゆたかなインテリアライフをお届けする信頼のブランド

■大阪支店/大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)8946
■本社/大阪市中央区南船場3-11-20 TEL.06(251)0698 ■東京支店/東京都港区三田3-13-16第43森ビル8F TEL.03(3456)3011
■営業所/札幌/仙台/新潟/大宮/千葉/多摩/横浜/静岡/金沢/名古屋/京都/神戸/岡山/広島/松山/福岡 ■連絡所/盛岡/茨城/長野/三島/鹿児島

世界初のリニアモーターエレベーター、誕生。
エレベーターの理想、ここに極まる。



リニアモーターならではの画期的なメリットを満載しています。

- 軽量、コンパクトで、フレキシブルなビルの設計が可能です。
- 屋上の機械室が不要なため、耐震設計上もたいへん有利です。
- 加速から、着床にいたるまで、なめらかで高精度な運転です。
- 最高分速105mの高速運転で、輸送能力が30%アップ*します。
- 騒音の少ない静かな運転（かご内で43〜46dB(A)）です。
- 前面パネルの鏡面スクリーン仕上げが、開放感を演出します。
- 合計384通りの豊富なデザインバリエーションから選べます。

＊当社比

詳しいカタログを用意しております。
下記住所あて、ご請求ください。

SKYLINEAR
スカイリニア

MOVIN' OTIS

●製造据付販売保守　日本オーチス・エレベータ株式会社 近畿支店
〒540 大阪市中央区城見二丁目1番61号（ツイン21MIDタワー） TEL.(06)949-1331

アジア太平洋トレードセンター（ATC）作品協賛

二重ケーブルネットドームの八幡屋公園プール

近藤一雄　こんどう　かずお
㈱東畑建築事務所構造課長

近年、空間構造にケーブルが使用される例が多いが、二重ケーブルネットおよび膜材を組み合わせた構造を開発した。このシステムを屋根に採用した混合構造による大スパン構造物は、大阪市内に建設中の地下２階、地上２階、建物高さ24.0m、スパン100mの真円平面の屋内水泳競技場である。構造は、３ゾーンに分けられる（図１）。



図１　構造概要

膜屋根の形状は複曲率のＨＰ形状とし、膜部直径65m、ケーブルネット部直径59.6m、高低差7.75m、スパンサグ比0.057、スパンライズ比0.071とする。膜材料は四ふっ化エチレン樹脂コーティングガラス繊維膜を用い、初期張力は200kg/mとする。ケーブルネットは、吊り方向@9.0m、押さえ方向@4.5mに設ける。

リングトラスは膜、膜補強ケーブルおよびケーブルネットの初期張力時の反力を負担する。下部構造との接合、初期張力導入時はローラー支持、その後ピン支持とする。したがって初期張力時の水平版力はすべてリングトラスで処理し、下部構造は鉛直荷重のみを負担する。また、積雪荷重時、風荷重時、地震荷重時については、リングトラスおよび下部構造は一体となって外力に抵抗する。

下部構造は、リングトラスを支える方杖付きの片持梁と、それを支持するラーメン、耐震壁から構成され、放射方向各フレームを@7.5°で円環状に配置する。放射フレームは、上部の片持ち部分を、プレキャストプレストレストコンクリート部材とし、ＰＣ鋼棒、ＰＣ鋼線による圧着工法にてジョイントする。一部押さえ方向の放射フレームは場所打ちSRC造とする。円周方向については、ラーメン構造とする。

二重ケーブルネット膜構造の概要

二重ケーブルネット膜構造は図２に示すように、膜材および補強用のアンダーケーブルより構成される膜部分と、主体構造となるケーブルネット部分の二層構造となっており、その間を軸力のみを伝達するポストで連結している。初期張力状態において、各層は独立した構造体として機能するが、風荷重や雪荷重などの外力を受けた場合にはポストを介して一体として外力に抵抗する。

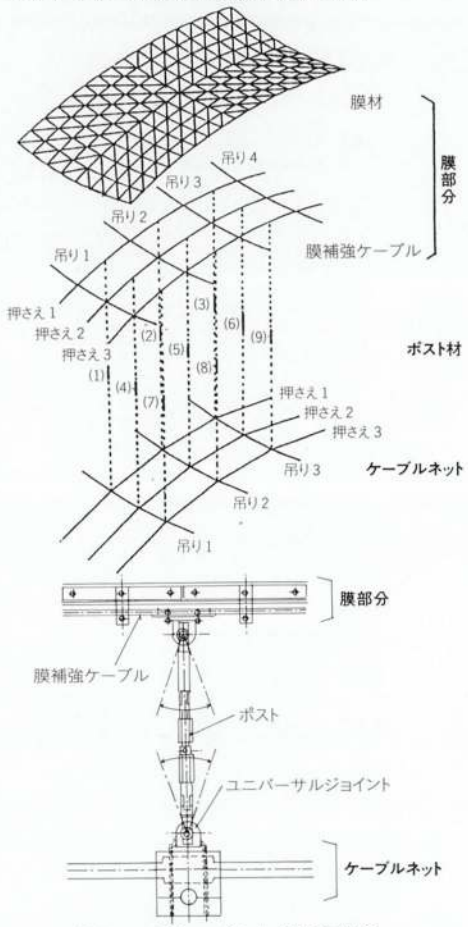


図２　二重ケーブルネット膜の概要

二重ケーブルネット膜構造の特徴を述べる。

１）一般に膜構造物においては、膜材の経年劣化による張力弛緩に対して、再緊張可能な構造としなければならない。本システムにおいては、膜面とケーブルネットが密着しておらず、各層ごとに再緊張が容易である。

２）初期張力状態において、膜部分およびケーブルネットを独立して形成できるので膜面設計上の自由度が高く、サスペンション膜本来の特徴を生かすことが出来る。したがって、ポストの長さを調整することで膜部分の曲率をケーブルネットと変えることも可能である。

３）膜部分とケーブルネット部分の振動性状が異なるので、共振現象が起きにくい。また、相互に減衰機構として働くので、全体として減衰性能の向上が期待できる。

構造設計概要

設計は、下記に示す荷重に対し検討する。

１）長期荷重：各部材の自重、積載荷重、ケーブルネットに導入する初期張力、ＰＣ圧着工法による不静定力。

２）積雪荷重：最大積雪量18cmを採用する。ケーブルネット膜部分に対しては、全体載荷に加えて右半分、下半分、中央部の偏載荷重に対しても検討した。

３）温度荷重：ケーブルネット膜部分に対しては、温度変化による張力の変動を検討した。基準温度は20°Cとし、±20°Cの変動を考慮した。

４）風荷重：設計用速度圧としては、「建築物荷重指針・同解説」（日本建築学会）と建設省告示を比較して安全側を採用。風力係数は㈱日本建築総合試験所で実施した風洞実験結果により定めた。

５）地震荷重：ケーブルネット膜構造部については、軽量であるので無視する。ただしリングトラスについては、下部構造と連成した解析モデルを用いることにより考慮する。

以上１）～４）いずれの荷重に対してもケーブルネット膜構造部分に関しては、ケーブル張力、膜張力とも０以上であることを確認した。

地震荷重

地震荷重については、下部構造において非剛床部分がほとんどとなるため、通常の振動特性係数とせん断力分布係数では、建物の振動性状を把握することは難しい。そこで弾性の予備応答解析を行い、地震力の分布を決定した。

表１に採用地震波を示す。入力レベルはすべて20cm/secに基準化した。入力方向はおのおのの波につきＸ方向、Ｙ方向、45°方向の３方向とした。解析方法は時刻歴モーダル解析とした。

表１　予備応答解析用地震波

入力地震波	入力方向	最大加速度 (cm/sec²)	継続時間 (sec)
EL CENTRO (1940) NS	X,Y,45°	207.5	30.0
EL CENTRO (1940) EW	X,Y,45°	119.4	30.0
TAFT (1952) NS	X,Y,45°	230.4	30.0
TAFT (1952) EW	X,Y,45°	210.4	30.0
HACHINOHE (1968) NS	X,Y,45°	143.0	20.0
HACHINOHE (1968) EW	X,Y,45°	108.0	20.0
OSAKA205 (1963) EW	X,Y,45°	105.9	15.0

予備応答解析結果より卓越波と判断される、TAFT (1952) ＮＳＹ方向入力時の応答加速度を用いて、静的解析用の地震荷重を算定した。静的地震力を求めるためのモードベクトルと節点質量は、精算モデルから計算した１次モードベクトルと節点質量を用いた。

おわりに　今後現場の進捗に伴い、各種計測を実施する予定である。機会があれば報告したいと考えている。

設備の頁　231

非常警報設備の技術基準の一部改正

自治省消防庁予防課

火災発生のときに鳴動するサイレンやベルは、極度の緊張感や不安感を与え、強制的な避難行動を促すためのものである。平常時、サイレン等が誤って鳴動し、防火対象物の関係者、在館者に不安感を与え混乱を引き起こすことを避けるために、サイレン等を停止状態にすることも考えられる。また、サイレン等の鳴動は情報が限定的であるため、強制的な避難行動を促すことによってパニックになるおそれがある。

本来、火災発生時には、防火対象物の防災要員は、在館者等に確実に火災発生の事実を伝達し、安全に避難誘導させることが必要である。しかし、火災が発生したときにサイレン等が連続鳴動する現在のシステムでは、避難誘導の対応に不十分な面があると考えられる。

これらを改善するため、音声による火災情報の提供を行う音声警報音を導入することを内容とした「消防法施行規則の一部を改正する省令」（平成6年自治省令第1号）および「非常放送設備の基準の一部を改正する件」（平成6年消防庁告示第1号）が公布され、平成6年4月1日から施行された。音声警報音は、自動火災報知設備の火災信号等を受けた場合、サイレン等が鳴動することなく、シグナルおよび音声メッセージにより自動的に警報できるものである。

改正の背景と概要

(1)　自動放送の導入

防火対象物で火災発生した場合、防災要員は、現場確認、初期消火、通報、避難誘導など多くの業務を短時間で行う必要があるため、非常放送を十分活用できない状況が考えられる。

そこで、自動火災報知設備の火災信号等の情報から自動的に必要な情報を在館者に伝達する自動放送の導入を図った。システムを**図1**に示す。

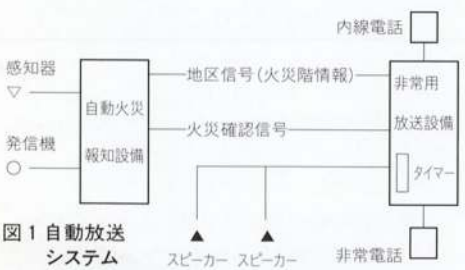


図1 自動放送システム

(2)　シグナルおよび音声メッセージの導入

従来、火災時に自動的に在館者に伝達できる情報はベルまたはサイレンのみで、火災の発生場所、防災要員の対応状況もわからず、これらの音が極度の緊張感や不安感を与えることがあったため、ベルの停止などが行われることもあった。

そこで、注意喚起に有効で、かつ、極度な不安感等を与えることのないシグナル音を採用し、火災発生場所、火災の確認状況等の情報を音声メッセージで伝達することとした。

一般的なメッセージ例は、**表1**のとおりである。ただし、防火対象物の事情によって消防機関が認める範囲で変更が可能である。

表1　音声警報による放送の構成

放送	シグナル	メッセージ(例)	構　成
感知器発報放送（感知器発報時）	ピンポン ピンポン ピンポン	ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。 （女声）	シグナル+メッセージを2回以上繰り返す。
火災放送（火災確認時）	ピンポン ピンポン ピンポン	火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。 （男声）	シグナル+メッセージ+スイープ音を10分間以上繰り返すことができる。
非火災報放送（非火災報確認時）	ピンポン ピンポン ピンポン	さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。 （女声）	シグナル+メッセージを2回以上繰り返す。

注1　シグナルは、注意喚起があり、不安な感じを与えない音を実験により選択した。
注2　スイープ音は、300Hzから2000Hzまでを0.5秒でスイープする音である。

(3)　スピーカーの設置基準

近年、建物の気密性の向上、ドアの遮音性能の向上等で、ベルや放送音がホテルの客室等では聞きづらいという指摘があることから、音声警報音が防火対象物のどの場所でも十分に聞き取れるよう、スピーカーの設置基準の見直しを行った。

放送区域を「床、壁又は戸（障子、ふすま等遮音性能の著しく低いものを除く。）で区画された部分をいう。」と定義し、原則として放送区域単位にスピーカーの設置基準を適用するものとし、100m²を超える放送区域および階段にはL級スピーカー、50～100m²の放送区域にはL級またはM級スピーカー、50m²未満の放送区域にはL級、M級またはS級スピーカーを用いることとした。

なお、放送設備のスピーカーを、スピーカーの中心から1m離れた位置で測定した音圧レベルに応じて、L級（92dB以上）、M級（87dB以上92dB未満）、S級（84dB以上87dB未満）に区分した。

スピーカーの設置間隔については、放送区域の各部分から10メートル（階段または傾斜路は、高さ15メートルごと）以下となるように設けることを原則とし、小規模な放送区域（居室、廊下等は6m²以下、その他は30m²以下）にあっては、接続する他の放送区域のスピーカーが一定距離以内に設けられていれば足りることとした。

(4)　警報の範囲

消防法施行規則第24条第5号ロ（階段又は傾斜路に設ける場合を除き、感知器の作動と連動して作動するもので、当該設備を設置した防火対象物又はその部分の全区域に有効に報知できるように設けること。）およびハ（地階を除く階数が5以上で延べ面積が3000m²を超える防火対象物又はその部分にあっては、出火階が、2階以上の階の場合にあっては出火階及びその直上階、1階の場合にあっては出火階、その直上階及び地階、地階の場合にあっては出火階、その直上階及びその他の地階に限って警報を発することもできるものであること。）によることとした。

この場合、火災放送にあっては手動により全館に放送できるものとし、非火災報放送にあっては直前の放送範囲に放送できるものとした。

設置対象

(1)　放送設備を設けなければならない防火対象物

ア．地下街および準地下街
イ．地上11階以上または地階3階以下
ウ．複合用途防火対象物で収容人員500人以上
エ．劇場、遊技場、飲食店、百貨店、ホテル、病院、社会福祉施設等で収容人員300人以上
オ．共同住宅、学校、図書館、美術館等で収容人員800人以上

(2)　非常ベル、自動式サイレンまたは放送設備を設けなければならない防火対象物

ア．ホテル、病院、サウナ等で収容人員20人以上
イ．地階および無窓階の収容人員20以上
ウ．ア、イ以外で収容人員50人以上のもの

その他

①　放送設備を設置した場合は、自動火災報知設備の地区音響装置の設置をしないことができる。
②　放送設備は、マイクロホンによる手動放送を優先とする。
③　マイクロホンによる手動放送を行った後は、自動放送は停止するものとし、手動起動により自動放送は再開できる。
④　放送設備の起動中は、他の音響設備を停止できる。
⑤　本基準は、既存防火対象物には、一切遡及しない。

おわりに

今回の技術基準の改正に伴い、音声による警報音を用いた自動放送を行う警報設備が導入された。これまでの「ベル」または「サイレン」による画一化された災害情報の伝達が、音声を用いることで、必要な情報を迅速かつ的確に伝達できるようになったことは、大きな進歩であり、今後、様々な用途の建築物等において、当該設備が設置され、有効に機能することを期待している。

BOOK STATION
ブック・ステーション

CULTURAL FACILITIES
New Concepts in Architecture & Design
現代建築集成／文化施設

メイセイ出版
1993.12.25刊
A4変判　224頁　16,000円



本書は、1989年以降に完成した美術館、博物館、資料館、記念館、水族館、科学館の中から、建築的にも内容的にも魅力のある館、地域に根づいて大きな役割を果たしている優れた館を選んで収録している。その総数31作品。構成としては、資料集成的なものではなく、写真を中心にビジュアルにまとめられている。掲載総数の関係からか、1作品に当てられる写真の数が少なく、図面も小さくわかりづらいのが残念であるが、写真は夜景あり全景ありと非常に美しい。また、名作が一挙にまとめられていて、圧巻でもある。姉妹本に、医療施設の建築集成もある。掲載されている作品も、本の丁装も立派。加えて、お値段の方も立派な写真集である。
(Y.I)

建築プロフェッション入門
日本建築学会編

丸善
1994.1.30刊
四六判　192頁　1,854円



本書は、建築を学ぶ学生を対象に、建築において進路を考える手掛かりとなる本に仕上がっている。かつて、この手の本に見られたように、有名な建築家による超個性的なメッセージだけにとどまらず、組織設計事務所や設備、構造設計事務所、建設会社など、建築界のあらゆる業種の立場からまとめられているのが特長である。よって、それぞれの立場での現状や、将来性、そこで求められる適性や能力が、第一人者によって語られているためその言葉に重みが感じられる。学生でなくても、同じ建築の世界にあって、他の業種の様子を垣間見られるというのも面白い。
(Y.I)

建築馬鹿選集
矢田　洋著

鳳山社
1994.3.10刊
四六判　328頁　2,400円



昭和44年から50年にかけて刊行された「建築馬鹿」第1集〜第5集の選集復刻版。建築家とは、また建築主とは、「おさまり」とは何か、やねのこころと日本人といった建築論や、子供部屋不要論、日照権闘争に対する疑問などが、著者独特の視点から、時には愉快に、時には皮肉をこめて綴られる。20年以上たっても取り上げられた話題は今日的で、著者の意見に賛成の向きも疑問の向きも、いろいろ考えさせられることが多いのではないだろうか。建築を学ぶ学生や社会人になったばかりの人、またそのころの新鮮な気持ちを思い出したい人に。
(A.Y)

オーダーの謎と魅惑
西洋建築史サブノート
吉田鋼市著

彰国社
1994.5.10刊
B6判　180頁　1,880円



題名に「オーダーの」とあるが、むしろ古典主義全般についての研究ノートといった方がよいかもしれない。オーダーに代表される古典建築のエレメントをどう扱うか、それは西洋建築の永遠の課題である。本書は、ルネサンス以降のバロック、古典主義、ロマン主義、アール・デコ、モダニズムといった歴史の流れの中で、これらのエレメントがいかに取り入れられていったかを、様々な側面から取り上げている。特にアール・デコや初期のモダニズムの中にも古典的なディテールが数多く残っているのが興味深い。最近の建築の動きを見るにつけても、単に表層のデザインを真似るのでなく、背景にある思想も理解することが必要ではないかと考えさせられる。難しいことはさておいても、豊富な写真とともに楽しく読める本である。
(A.Y)

担当：会員企画小委員会／稲木裕子・山寄章子

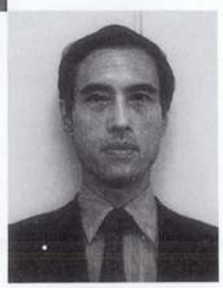
建築技術選書・特装版新刊紹介

建築・都市・住宅・土木「情報アクセスブック」

菊岡倶也 編著



学芸出版社
1994年4月10日刊
A4判 254頁 定価3,914円



菊岡倶也
1937年東京生まれ、1959年法政大学法学部法律学科卒業後、文部省委嘱東洋大学司書講習修了、1960年建設省建築研究所企画調査課、情報管理係長を経て、1973年財団法人日本建築センター調査部資料課長、1979年退職、以後、建設文化研究所を主宰、執筆活動等に従事。

1
情報収集は人脈に頼る

建築の世界は、多方面の情報を集めて整理し、加工・応用して成り立っています。情報の乏しい人は、いい情報が入手できず、結果的にいい仕事ができません。

いままで情報を集める手段は、人脈、機関（学会・協会・士会・研究所）、情報サービスセンター（士会の情報センター）、図書館に頼っていた、と思います。

わたしは、○○のことは○○大学のA先生、××の分野は××建築事務所のB氏と、ほとんど人脈に頼っていました。人脈の中には「建築の生き字引」ともいわれる方がおられましたから「何でもご存知なのだなァー」と、精密機械のような先方様の頭脳の明晰さに驚いていた次第です。そんな方のところには「すべての情報が集まってくるんだなァ。人徳のしからしむべきところ」と尊敬もしていました。

しかし、情報源の方が長期出張や不在のときには、こちらがお手上げです。自分の欲しい情報を求めて各種図書館に出向き、あらゆる分野の本の中から情報らしきものを見つけ出していました。その労力と時間が、驚くほどかかるのです。弱りました。

こんなとき、「他に適切な方法はないものか」とアクセク考えていました。その矢先、出版されたのが「建築・都市・住宅・土木情報アクセスブック」です。

ほんとうに嬉しかったです。「今までなぜこんな本が出版されなかったのだろうか」と思ってみましたが、とてつもない時間と労力の集積を知り、「誰にでも出せる本ではない」と分かりました。

2
赤と白の本を手にとって

表紙のデザインが、とても新鮮です。いざ鎌倉（情報を探す）のときに駆けつけてくれる消防自動車を思い出しました。電話帳を連想しました。そうです。電話帳のように緊急のときは「まずこの本を見なければ……」という思いが表紙にこめられています。紅白マンジュウの柔らかさも秘めています。

ここまで簡潔・鮮明に表現された菊岡倶也氏のご苦労に対して敬意を表します。まったくの創作本だけに、著述作業は大変だったろうと思います。

「本書の目的」を見て、今は情報リテラシ（literacy）の時代、ということが分かりました。さすれば、学校で情報探索学という科目を設ける必要がある、とも考えます。活字ばなれした学生にとっても大切なことです。某専門学校で当本を教科書にして授業されていることを知り、現代流の教科採用の英断と熱意には大賛成しました。さらに、当本の教科書展開になる姉妹編の出版を待ちこがれています。

自分の求める情報の入手法が、当書の活用で手にとるように理解できます。一番うしろの項目索引が、それに手を貸してくれます。

当書は字引と同じ存在です。常時手元におき必要なときにめくると、新しい発想が湧き出てくるような気がします。

3
古書店のガイドブック項を試す

建築設計界の長老の東畑謙三先生が、西洋の古建築書・地誌・古地図のコレクターとして著名、とお聞きして驚きました。金沢工業大学ライブラリーセンターの稀覯本のコレクションも有名とのこと。知らぬことばかりでした。

これでは、日本に数ある大学の図書館の蔵書も、菊岡先生のもとに登録しておかなければなるまい、とも思いました。

南洋堂書店は、オーム社に行くときに二、三度立ち寄ったことがあります。が、神保町地区の泰川堂書店・明倫館書店の名前は、初めて知りました。丹念に時間をかけて調べられたことが分かります。

ここを読んでいると、地下鉄神保町駅界隈の風景が手にとるように目に浮かびました。わたしにとっては、東京に行ったときの楽しみが一つふえたことになります。

4
章を一覧にすると

最後になりましたが、章だてを記します。「……を活用する」「……を捜す」と動詞で終わる章句も動きがあって、リズムと柔らかさを感じます。

第1章　人を捜す
第2章　機関・組織を活用する
第3章　図書・雑誌・新聞を活用する
第4章　図書・雑誌・報告書がどこにあるかを捜す
第5章　灰色文献を捜す
第6章　図書館・資料室・情報サービス・データベース機関・書店を捜す
第7章　書店・古書店を利用する
第8章　建築作品・土木施設を捜す
第9章　企業・資材製品情報を捜す
第10章　研究展望と文献目録を活用する
第11章　辞典・用語集・百科事典を活用する
第12章　国際・海外情報を捜す
第13章　イベント情報を捜す
第14章　統計を捜す
第15章　地域情報や土地データを調べる
第16章　過去の文献・事項を捜す
第17章　その他の情報を捜す・調べる
第18章　画像情報を捜す
第19章　データベースを活用する
第20章　さらに情報を捜すための文献紹介

以上20章370節からなり、索引件数は4700に及びます。あなたの求める情報の履歴を早く入手できるノウハウが満載されている労作であり力作の書、と感じました。

出版委員会副委員長●**山田　修**（修　建築事務所）

日本建築協会

月間の動き

【平成6年5月分】

理事会

第2回定例理事会
25日・4時～5時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか27名
議　事　(1)平成5年度事業報告承認の件
(2)平成5年度決算報告承認の件
(3)平成6年度第1回定時評議員会開催の件
(4)平成6年度第1回通常総会開催の件
(5)後援・協賛名義使用承認の件
(6)入退会者承認の件
(7)報告事項その他

編集委員会

第2回会員企画小委員会
10日・6時半～8時15分・於本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか3名
オブザーバー　吉田　晋氏（京大）
植南草一郎氏（京大院生）
議　事　(1)シリーズものの報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第2回作品作風小委員会（新・旧合同）
11日・6時半～8時45分・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか7名
議　事　(1)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」掲載報告・予定
(4)「SKETCH BOOK 欄」の掲載予定
第2回計画系一インテリア・住宅一分科会
11日・7時～11時半・於竹中工務店インテス会議室
出席者　福田幹事ほか4名
議　事　平成6年7月号特集企画の検討
第2回編集委員会
12日・6時～9時・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか6名
議　事　(1)5月号「明日に向かって一会員作品」特集経過報告
(2)6月号「いま、医療施設は」特集経過報告
(3)7月号「住空間における居どころへの視点」特集経過報告
(4)8月号「まちなかの看板」特集経過報告
(5)10月号「CGによるシミュレーション」特集経過報告
第2回広告企画小委員会
12日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　勝副委員長ほか5名
議　事　収支状況報告
第2回計画分科会一建築系一
13日・7時～10時・於本会会議室
出席者　石山幹事ほか9名
議　事　平成6年9月号「水と建築」（仮称）特集内容の検討
第2回構造分科会
18日・6時～9時15分・於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか6名、吉村委員
議　事　(1)「構造の頁」の企画
(2)「構造美」特集の企画
第2回設備分科会
19日・6時～9時15分・於本会会議室
出席者　村上幹事ほか7名
議　事　(1)編集委員会の報告と検討
(2)委員の引き継ぎ
(3)「設備の頁」の企画
(4)10月号「建築設備計画におけるCGシミュレーション」特集の企画
平成6年10月号予定「村野、森建築事務所」特集第1回編集会議
24日・3時～6時・於村野、森建築事務所
出席者　村野　漾氏、柳　眞也氏、岡林成明氏
議　事　「村野、森建築事務所」特集内容検討
第2回会員企画小委員会打合会
31日・6時～8時・於本会会議室
出席者　塚口委員ほか13名
議　事　仮称「大阪建築学生の会」発足に向けて

事業委員会

第1回近代建築見学分科会
9日・1時半～3時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか4名
議　事　近代建築見学会について検討
第2回若い会員の集い小委員会
10日・7時～8時半・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか6名
オブザーバー芦田秩佐氏（井関企画室）
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)今後の予定について
(3)委員の時間
第2回広報小委員会
11日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　川村、酒井、下村各幹事ほか3名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第1、第2分科会からの報告と検討
第2回見学会小委員会
12日・6時～8時・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか9名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定及び候補について
第2回事業委員会
18日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか3名
議　事　各小委員会からの報告と検討

教育委員会

第1回講習会小委員会
16日・6時～7時半・於本会会議室
出席者　ゲスト吉田　豊講師（竹中工務店）
佐藤副委員長ほか6名
議　事　本年度の事業計画について

出版委員会

第2回出版委員会
19日・5時～6時・於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか10名
議　事　(1)＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズについて

建材委員会

第2回建材委員会
19日・3時～4時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか9名
材料説明：アシュフォード　フォーミュラ（浸透性コンクリート表面強化剤）のその後
議　事　(1)今後の検討建材
(2)今後の「新建材紹介コーナー」掲載予定
(3)委員交代

見学会

武庫川学院上甲子園キャンパス「甲子園会館」＋松山大学「温山記念会館」
20日・1時～4時半・参加者51名

30'sEYE21世紀へのエスキス

堤　展子「建築とARTの出会い」
27日・6時半～8時40分・参加者18名

5月の入会者（敬称略）

〔団体会員2社〕
㈱豊田自動織機製作所　　㈱母倉工務店

〔個人会員45名〕

緒方　伸夫（錢高組）	大野　皓将（錢高組）	岡　忠生（錢高組）
紙野　英三（錢高組）	北川　裕康（錢高組）	暮部　義住（錢高組）
近藤豊太郎（錢高組）	田岡　正和（錢高組）	玉井　憲雄（錢高組）
津田　晴史（錢高組）	蔦谷　政寛（錢高組）	靍　政治（錢高組）
古野　嘉郎（錢高組）	宮本　茂弘（錢高組）	村松　弘（錢高組）
山口　勝久（錢高組）	山田　光憲（錢高組）	山名田英雄（錢高組）
山森　洋（錢高組）	上羽　一輝（東畑建築事務所）	大友　靖史（東畑建築事務所）
巣山絵津子（東畑建築事務所）	中西富仁広（東畑建築事務所）	西田　裕亮（東畑建築事務所）
西尾　悟（東畑建築事務所）	野口　拓也（東畑建築事務所）	藤田　寛（東畑建築事務所）
廻　はるよ（東畑建築事務所）	山本　森二（東畑建築事務所）	浅輪　誠（鹿島建設）
五十嵐久也（鹿島建設）	小幡　義明（鹿島建設）	岡本　富男（鹿島建設）
古閑日出見（鹿島建設）	山本　乾次（鹿島建設）	宇野　武（松村組京都支店）
河裾　行人（優光産業）	北村　武司（熊谷組）	駒井　晃子（東京ガス）
白澤　立身（近畿日本コンサルタント）	田中　宏和（田中建設建築設計事務所）	中村かおり（栗林建築デザイン研究所）
並河　秀憲（ワークス）	宮田　勝巳（アートファクトリー玄）	渡辺　源（ソネック神戸支店）

〔准会員2名〕

久保佐代子（修成建設専門学校）	稲葉　陽子（修成建設専門学校）

暑中お見舞申し上げます

平成６年盛夏

(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒542 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071～3
〒591 自宅・堺市新金岡町3丁1―23―102 電話0722(51)1902

歌俊美

株式会社 歌建築設計事務所 代表取締役
〒649-64 和歌山県那賀郡打田町打田315 電話0736(77)2711
〒649-64 自宅・和歌山県那賀郡打田町打田315
電話0736(77)2711

名誉正会員
浅井泰

〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

今村祐三郎

社団法人 大阪建設業協会 専務理事
〒540 大阪市中央区北浜東1番30号 電話 06(941)4821
〒630 自宅・奈良市南永井町344－8 電話0742(62)0784

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長
〒540 大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー11階
電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26－712号
電話0797(81)1174

岩橋重文

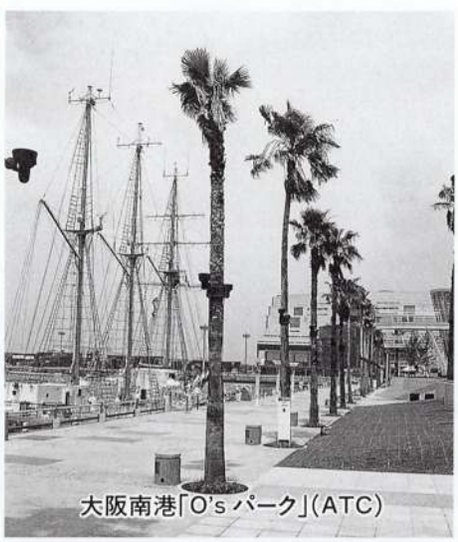
株式会社 岩橋設計 代表取締役
〒640 和歌山市中之島1672 電話0734(31)7859
〒640 自宅・和歌山市中之島1661 電話0734(28)2389

尾原重信

株式会社 コアプラン設計 代表取締役
〒550 大阪市西区新町2丁目3番8号米澤ビル8F
電話06(531)4488
〒532 自宅・大阪市淀川区十三東3-14-13 電話06(302)1051

飯田精三

共同設計株式会社
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号 電話06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町2丁目2番24号 電話06(848)0775


大阪南港「O's パーク」(ATC)

多井幸男（オオイ）

多井建築研究所 所長
〒541 大阪市中央区今橋1丁目1番地 1番館ビル
電話06(226)0008
〒657 自宅・神戸市灘区曽和町3丁目1―11
電話078(821)6133

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号 電話06(543)2281

岡澤勇

岡澤建築設計事務所 所長
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4丁目4番12号
近藤ビル6F 電話06(362)6082代表
FAX06(362)6084
〒567 茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)5230・8953

会長
市川宏

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市中央区伏見町4－4－10 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4―32
電話078(811)0216

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島3－2―18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12―14 電話0797(22)5949

岡野節壽

日本電設工業株式会社 大阪支店 常務取締役 支店長
〒531 大阪市北区豊崎3丁目17－15 電話06(372)3533
〒560 自宅・豊中市蛍池東町2－6－11 電話06(841)3832

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(792)4425代
〒547 大阪市平野区平野北2丁目9番15号
電話06(796)1839

植野知雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長
〒542 大阪市中央区東心斎橋1丁目16-29つるのすビル
電話06(244)1561代
〒588 自宅・堺市大美野5－9 電話0722(37)1162

副会長
岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35―7 電話0797(31)3201

暑中お見舞申し上げます

平成6年盛夏

(50音順)

名誉正会員

沖田誠一

財団法人　建設工学研究会　事務局長
音響・風・構造・コンサルタント

〒105 東京都港区虎ノ門二丁目6番7号 和孝第十ビル内
電話03(3502)8017
FAX03(3502)8019
〒195 自宅・東京都町田市鶴川5−1−14−104
電話0427(35)8297

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長
〒565 吹田市山田東1−12−12　電話06(876)2334
〒565 自宅・吹田市山田東1−12−12　電話06(877)1406

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205〜0207
〒654-01 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39−13
電話078(792)5862

亀井晃治

株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市中央区谷町7丁目3番4−203
新谷町第3ビル2F 電話06(768)1771代
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2−14−35
電話0743(73)6137
〒542 アリックスタイムスクエア・大阪市中央区谷町7-3-4-105
新谷町第3ビル・1F 電話06(764)1089
〒631 自宅・奈良市藤ノ木台3丁目33番5号 電話0742(43)1226

学校法人　修成学園
修成建設専門学校
理事長 **鎌谷秀男**

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30　電話06（474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8−23　電話0797(72)1380

河合芳市

第一工業株式会社大阪支店　常務取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661

河裾和夫

螢光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市北区本庄西3丁目9番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

小西弘治

日本住宅パネル工業協同組合　理事長
〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
六義園ビルディング 電話03(3945)2311代表

取締役会長 **小西岬**
取締役副会長 **橋本正章**
取締役社長 **小西照男**

株式会社　小西設計
〒550 大阪市西区立売堀1丁目12−16　電話06(532)4051

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長
〒540 大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569



斉藤國義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

須賀好富

社団法人　日本建築積算協会関西支部　支部長
〒540 大阪市中央区農人橋2-1-10　大阪建築会館5階
電話06(947)5222
近畿大学理工学部建築学科　教授
〒577 東大阪市小若江3−4−1　電話06(721)2332
内線4519
〒631 自宅・奈良市鶴舞西町2−10−E501
電話0742(41)0623

関口典良

一級建築士事務所
株式会社　関口建設　専務取締役
〒582 大阪府柏原市大県1−10−13　電話0729(71)2281
〒582 自宅・大阪府柏原市上市3-12-16　電話0729(72)1308

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長
〒540 大阪市中央区玉造2丁目25番20号 電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区天神橋2丁目5番25号 若杉グランドビル10F
電話06(354)2781
〒112 東京都文京区大塚5丁目17番1号富士見坂ビル
電話03(5976)2781
〒536 大阪市城東区成育4丁目20番2号　電話06(931)8857

田村真二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長
〒541 大阪市中央区本町4丁目1−13　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市浜甲子園2丁目5−19　電話0798(41)4300

取締役会長 **高橋慶夫**
取締役社長 **上田宏二**
株式会社　高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1−13−16 瀬戸松ビル
電話06(533)0972
〒550 大阪事務所・大阪市西区新町1−4−21 大幸ビル
電話06(533)0971
〒113 東京事務所・東京都文京区本郷3-5-4 朝日中山ビル
電話03(3818)5173
〒612 京都事務所・京都市伏見区深草西浦町6-65-1-619
電話075(647)1151代

立野一郎

株式会社　ユニオン　会長
〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731代

暑中お見舞申し上げます

平成６年盛夏

(50音順)

谷　進

浦安工業株式会社　常務取締役支店長

〒530 大阪市北区天満２丁目３－５　電話06(351)7502
FAX06(353)2160
〒530 自宅・大阪市北区天神橋3丁目10-30-507
電話06(358)6900

名誉正会員
知見義夫

元・本会理事

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

津村芳範

オリエンタルメタル株式会社　代表取締役社長

〒335 埼玉県蕨市塚越５丁目６番32号　電話048(442)3115
〒660 尼崎市昭和南通り３丁目26番地　電話06(412)5131代
FAX06(413)0300

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06(651)0566

名誉会長・名誉正会員
東畑謙三

株式会社　東畑建築事務所　取締役会長

〒541 大阪市中央区伏見町４－４－10　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35　電話078(851)5043

徳岡昌克

株式会社徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11－205号　電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋３丁目６番60号　電話06(499)0701
〒810 福岡市中央区大名1丁目8番33-703号　電話092(716)5110
〒520-06 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地　電話0775(96)1149
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号　電話06(391)1438

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所 代表取締役会長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794(62)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話0794(62)4668

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530 大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKHビル
電話06(881)1778

長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合　理事　大阪支所長

〒553 大阪市福島区大開２丁目３番１号　電話06(462)1600
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52　電話0724(63)1260

西田一好

株式会社 教育施設研究所　大阪事務所所長

〒530 大阪市北区東天満1丁目6番6号オーセンビル４階
電話06(354)3960
FAX06(354)3963
〒591 大阪府堺市新金岡町2丁5番14-213号
電話0722(52)6227



蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

林唯夫

株式会社　昭和設計　代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台３丁目41－11　電話06(872)3608

伴昭秀

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市北区中津６丁目８番４号　電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋３－11－14　電話0727(61)8652

平田勝久

株式会社　平田タイル　取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座１丁目１番10号 電話06(532)1231代
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手５丁目17－21
電話078(841)4725

福谷剛

株式会社　ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒542 大阪市中央区東平1丁目4－17　電話 06(763)2541
〒666-01 川西市緑台１丁目８－７　電話0727(93)0409

堀亀久治

三機工業株式会社　常勤顧問

〒541 大阪市中央区北浜二丁目２番21号　電話06(202)3071
〒664 自宅・伊丹市北本町１丁目110番１号
伊丹パークホームズ２－406　電話0727(75)3095

牧英二

日建設計　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長

〒530 大阪市北区東天満２丁目３－10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁目8－7　電話06(701)4571

松原満佐子

有限会社　柳々堂　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀１－12－３　電話06(443)0167～8
FAX06(443)1826
営業所：鴻池ビル１階 電話・FAX 06(251)8233

暑中お見舞申し上げます

平成6年盛夏

(50音順)

松本　弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(543)2553

八木重喜

YAGISO BRICKS

八木惣株式会社　常務取締役

〒593 堺市津久野町3丁28－10　電話0722(62)3838

〒593 自宅・堺市津久野町3丁28－10　電話0722(62)0722

感謝・創立30周年

横尾義貫

財団法人 日本建築総合試験所　理事長

〒565 本所・吹田市藤白台5－8－1　電話06(872) 0391

〒531 大淀分室・大阪市北区長柄西2－1－18　電話06(351)7217

〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西2－1－34　電話0722(44)3912

〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24－2　電話075(622)0713

〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3　電話0794(35)5811

三谷忠義

株式会社 三谷設計　代表取締役社長

〒694 島根県大田市久手町波根西777の1　電話08548(2)8121代

〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225-2　電話08548(5)8320

矢野卓生

中央電気工業株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区太融寺町3番24号　電話06(312)8881代表

和田眞一

株式会社 東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051

〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

薬袋公明

日建設計　取締役会長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　取締役 大阪支所長

〒542 大阪支所・大阪市中央区島之内1-20-19 白水ビル　電話06(251)7507

〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161

札幌・名古屋・九州・東北・横浜・PORTLAND

和中勝

株式会社 和中商店　取締役会長

〒531 大阪市北区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731～5

〒150 東京都渋谷区桜丘町11－5　電話03(3464)9723

〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地　電話052(481)7338

〒662 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798(67)0386

村石全

浪速合板株式会社
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671

〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

山地英雄

株式会社 オオバ大阪支店　常任顧問

〒540 大阪市中央区釣鐘町2丁3番11号　電話06(943)5161(代表)

〒565 自宅・豊中市新千里北町3－16－1　電話06(872)3746

渡部慶一

株式会社 松田平田 大阪事務所常務取締役所長

〒530 大阪市北区曽根崎新地2-5-3堂島TSSビル　電話06(344)7821

〒659 自宅・兵庫県芦屋市大桝町1－10　電話0797(38)7938

森淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代

〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号　電話0724(22)7710

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代　朝日ビルディング内

〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号　電話06(871)0851

事務局一同

社団法人 日本建築協会

暑中お見舞申し上げます

平成6年盛夏

設計事務所有志

株式会社
A.R.I 建築事務所
代表取締役所長　亀井晃治

本社事務所　大阪市中央区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
FAX（06）768-1406
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL(0743)73—6137
アリックスタイムスクエア　大阪市中央区谷町7-3-4-105　新谷町第3ビル・1F　TEL（06）764—1089

株式会社 伊東建築設計事務所
代表取締役　岡本清彦

〒556 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161㈹

株式会社 伊藤建築設計事務所
代表取締役社長　鋤納忠治

名古屋市中区錦二丁目2番13号(名古屋センタービル)　電話<052>222-8611
東京　東京都千代田区神田美土代町五番地二(第2日成ビル)　電話<03>3294-6061

株式会社石本建築事務所
代表取締役社長　古畠誠一
取締役大阪支所長　山内恒男

本　社　〒102 東京都千代田区九段南4－6－12　電話03(3262)7161
大阪支所　〒542 大阪市中央区島之内1-20-19(白水ビル)　電話06(251)7507代
支　所　札幌・名古屋・九州　事務所　東北・横浜・PORTLAND

株式会社 泉沢建築設計事務所
代表取締役　泉沢哲史

〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号　TEL(06)543-2281㈹

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530　電話 06(341)1680
岡山事務所　岡山市磨屋町10-12・交通オアシスビル〒700　電話 086(233)6010

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社　〒550 大阪市西区新町1－5－7　四ッ橋ビル　Phone 06－532－3421

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役　瀬戸本淳

〒650 神戸市中央区北野町2丁目7－1－120　TEL 078-222-1665(代)

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKHビル〒530　TEL.(06)881-1778代表

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田周

大阪市西区京町堀1丁目13番20号 大建設計大阪ビル　電話06－449－6800㈹
東京・横浜・名古屋・京都・福岡・長野・北九州・札幌・仙台・広島

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役会長　三輪泰司
代表取締役社長　金井萬造

本社・京都事務所・〒600 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132㈹　FAX.075-256-1764
東京事務所・〒160 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130㈹　FAX.03-3226-9560
大阪事務所・〒540 大阪市中央区城見1丁目4番70号 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-942-5732㈹　FAX.06-941-7478
名古屋事務所・〒460 名古屋市中区丸の内3-18-30 ツボウチビル2F
PHONE.052-962-1224　FAX.052-962-1225
九州事務所・〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号 日之出ビル6F
PHONE.092-731-7671　FAX.092-731-7673

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄2丁目6番1号(白川ビル別館)　〒460 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区築地4丁目7番4号(築地ファーストビル)　〒104 TEL03-3248-0474(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　山口幸治

本　社　〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目7番6号　電話 06-202-3626㈹
支　社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-3663-1765㈹
(住友銀行浅草橋ビル4階)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社(大阪事務所)　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話(052)223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話(092)472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

取締役会長　薬袋公明
取締役社長　牧英二

大阪	541	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話 (06) 203-2361
東京	112	東京都文京区後楽1丁目4－27	電話 (03) 3813-3361
名古屋	460	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話 (052) 261-6131
支所・その他		東北・横浜・北陸・神戸・広島・九州・シンガポール・ニューヨーク・ロサンゼルス	

株式会社 日積サーベイ

代表取締役会長　生島道春
取締役社長　加藤哲也

本社	〒540	大阪市中央区谷町3－1－9(MG大手前ビル) TEL(06) 944—2755代表
SSDセンター	〒554	大阪市此花区島屋4－2－7(島屋ビジネス・インキュベータ) TEL(06) 466—7736代表
東京支所	〒110	東京都台東区台東4－14－8(シモジン・パークビル) TEL(03)3836—1271代表
日積設計監理㈱	〒550	大阪市西区京町堀1－10－8(福岡ビル) TEL(06) 444—2706
㈱京都日積	〒602	京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地(第2高橋ビル) TEL(075)441—5690

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　椚座正信

本　社　大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話 06(943)1371(大代)

暑中お見舞申し上げます

平成6年盛夏

建設業有志

株式会社 **あめりか屋**

取締役会長 前野慶太郎

〒530 大阪市北区中之島四丁目3番25号 電話 (06) 444－1501

株式会社 **淺沼組**

人・都市・自然のシンフォニー

Asanuma

取締役社長 淺沼禎夫

本社・大阪本店 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話 06(768)5222
東京本店 東京都新宿区荒木町5番地 電話03(5269)3111
名古屋支店 名古屋市中村区名駅南三丁目3番44号 電話052(571)5571
支店 北海道・東北・横浜・広島・九州

空間に新しいエナジー

ANDO **安藤建設**

取締役社長 長澤光一 取締役支店長 飛岡宏佳

本社 東京都港区芝浦3丁目12－8 電話(03)3457－0111㈹
大阪支店 大阪市福島区福島6丁目3－21 電話 (06)453－2190㈹

IMANISHI

株式会社 **今西組**

取締役社長 今西壽雄

本社 大阪市天王寺区上本町6丁目6番23-309号 電話06 (779) 3361
支店 東京都新宿区内藤町1番地 電話03(3354) 0581
営業所 京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大之木建設株式会社

取締役社長 大之木晴樹
支社長 大之木雄次郎

本社 呉市中央3丁目12番4号 電話 0823(26)1511番
支社 広島市中区本川町3丁目1番5号 電話 082(231)5244番
支店 東京都港区麻布台2丁目2番12号 三貴ビル4F 電話 03(3585)3655番
〃 福岡市城南区神松寺2丁目13番24号 電話 092(863)7171番



株式会社 大林組

取締役会長　大林芳郎
取締役社長　津室隆夫

東京本社　東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 03 (3292)1111番
本　店　大阪市中央区北浜東4番33号　電話 06 (946) 4578番
支　店　札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州



株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06) 621-1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)3404-8111(大代表)
支　社　東京・関西
支　店　札幌・仙台・北関東・横浜・東関東・新潟・名古屋・神戸・広島・四国・九州・福岡

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　宮崎明
専務取締役 大阪支店長　小島雄

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06 (536)3311(大代)



海原建設株式会社

代表取締役　海原壹一

〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2－300号(大阪駅前第2ビル3F)　電話06(346)1900番



株式会社 柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(415) 2 8 0 0 (大代)
支　店　大阪・神戸　営業所　西宮・三田・高砂・西播磨



共立建設株式会社 大阪支店

専務取締役支店長　加藤毅夫

支　店　大阪市中央区内本町2－2－5　TEL 06－942－2491（代表）
本　社　東京都渋谷区道玄坂1－16－10　TEL 03－3461－6141（代表）

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　熊谷　太一郎
専務取締役 大阪支店長　磯俣　敏行

本　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06 (352)1151番(大代表)

コーナン建設株式会社

代表取締役　原　眞一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308−1551大代表
東京都中央区京橋3丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話 (03)3564−5711代表
神戸市中央区磯上通6丁目1番9号(KOBE MKビル)　電話 (078)221−6293代表

公成建設

代表取締役社長　絹川　治

本　社　〒600 京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-341-0501
大阪支店　〒531 大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎ 06-375-1121
東京営業所　〒141 東京都品川区上大崎3−3−9−215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453 名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06 (779) 7731㈹
FAX 大阪06 (779) 7133
関東支店　〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492 (87) 0301
FAX 埼玉0492 (87) 0300

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本　社　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　電話 06(301)6636
支　店　東京都荒川区東日暮里4丁目10番10号　電話03(3891)8871
支　店　京都市右京区西院高田町31番地1　電話075(311)8897

清水建設株式会社

SHMZ

専務取締役 関西総支配人　田邊　剛

大阪支店 近畿営業本部　大阪市中央区本町3−5−7　電話 06 (263) 2800

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　奥井　功

本　　社　〒531 大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06（440）3111
東京支社　〒160 東京都新宿区西新宿1丁目6番1号（新宿エルタワー）　☎03(3346)6500

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長 錢高一善

本　　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号 大阪(06)531−6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地 東京(03)3265−4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉 横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国 九州

TAISEI

大成建設株式会社

取締役社長　山本兵藏
常務取締役大阪支店長　市川正美

本　　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL03(3348)1111大代表
大阪支店　大阪市中央区南船場1丁目14番10号　TEL06(268)8500
支　　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国・千葉・関東・神戸

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役大阪支店長　牧野　保

大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話 06（341）5211
東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35番地　電話 03（3268)5511

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541 大阪市中央区本町4丁目1−13　電話 大阪（252）1201番(大代表)

信用と技術の

TEKKEN

鉄建

常務取締役大阪支店長　東田敏男

大阪支店　〒541 大阪市中央区瓦町3−3−7　電話 06（201)1881(代表)
本　　社　〒101 東京都千代田区三崎町2−5−3　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
常務取締役　西川秀信
大阪支店長

本　社　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL東京03(3562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL大阪06（531)6095
支　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

東海興業株式会社 大阪支店

TOKAI

専務取締役支店長　服部信哉

本　社　東京都中央区八重洲1-1-6　電話 東京(5200)5111
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)5611
支　店　東京・名古屋・東北・札幌・九州・横浜・広島

南海建設

取締役社長　芝谷昭

本　社　大阪市浪速区難波中3丁目5番19号　電話 06（644)7823番
東京支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5(新須田町ビル)　電話 03(3251)8431番
岸和田支店・和歌山支店・神戸支店　営業所　堺・泉佐野・橋本・枚方・京都南・西宮

西松建設

代表取締役社長　柴田平
取締役関西支店長　宗澤修郎

本　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(3502)0232
関西支店　大阪市中央区釣鐘町2－4－7　電話06（942)1131

株式会社 日興

NIKKO
CORPORATION NIKKO

取締役会長　平本俊秋
取締役社長　平本俊友

本　社　広島市中区国泰寺町1丁目8番4号　電話（082）244－2111番

日本建設株式会社

NIHON
KENSETSU

取締役社長　積山吉興

大阪本社　大阪市中央区備後町1丁目6番15号　TEL（06）226-0630(代表)
東京本社　東京都文京区小石川2丁目6番22号　TEL（03)3818-6081(代表)
支　店　東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

野村建設工業株式会社

取締役社長　石川芳夫

本　社　大阪市中央区高麗橋2丁目1番2号 電話（226）9502代表
東京本部　東京都中央区日本橋堀留町2丁目1番3号 電話（3249）1413代表

長谷工コーポレーション

HASEKO

取締役副社長　中村俊雄

大阪市中央区平野町1丁目5番7号　電話　06(203)1500

株式会社フジタ大阪支店

FUJITA

常務取締役
支店長　西東茂之

大阪支店　大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話06(348) 4510
本　社　東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目6番15号　電話03(3402)1911

不動建設株式会社

取締役社長　式村健

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話 06（201）9203番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話 03（3837）6009番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

株式会社藤木工務店

FUJIKI

取締役社長　藤木鐵三

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1-3-9　☎ 06-944-1468代　本支店　大阪・東京・倉敷・京都・四国・福岡
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23－4　☎ 03-3357-1600代　営業所　北関東・埼玉・中央・多摩・横浜・静岡・名古屋・宇治・泉南・神戸・岡山・広島・徳島・新居浜・松山・長崎・南九州

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530 大阪市北区天満橋2丁目3番1号　☎06(353)1001代
支　店　東京・東北　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡



株式会社 松村組

MATSUMURA-GUMI CORPORATION

代表取締役　福　田　耕　作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1丁目10番20号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都



三井建設 株式会社 大阪支店

支店長　山　崎　一　郎

大阪支店　大阪市中央区本町4－4－25(本町三井ビル)　TEL　06－243－3411
本　店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL 03－3864－3456



株式会社 道田工務店

代表取締役　道　田　泰　平

本　社・兵庫県川西市中央町18番21号　電話0727(57)9777番

海と陸の明日を拓く技術のムラズミ



村角建設株式会社

代表取締役社長　土山喜代士

本社　大阪市住之江区浜口西2丁目12-9　TEL 06－675－8101
支店　北海道・東京・横浜・大阪・京都・神戸・四国



望月建設株式会社

代表取締役社長　望　月　小　太　郎

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　電話 大阪 (375) 2345(代表)



株式会社 森組

取締役社長　森　幸　彦

本　社　大阪市中央区道修町4丁目5番17号　電話201－2761(代)
支　店　東京・東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　滋賀・京都・和歌山・紀泉・西宮・松山・熊本

保存と
開発に
取り組む…

総合建設業
株式会社 安井杢工務店
代表取締役 安井洋太郎

本　社 〒617 京都府向日市上植野町御塔道42
TEL (075)933－0012㈹ FAX (075)933－4931

東京事務所 東京都練馬区東大泉3-22-11-401
TEL・FAX (03)3925－0798

株式會社 米田工務店
代表取締役会長 米田良男
代表取締役社長 米田高明

本　社 〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676代表

YSC
寄神建設株式会社
取締役社長 寄神茂之

本　社	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3121
東京支店	〒103 東京都中央区日本橋茅場町1—6—12	☎03—3668—1871
横浜支店	〒231 横浜市中区翁町1—6—4（新翁ビル）	☎045—681—5085
名古屋支店	〒456 名古屋市熱田区森後町8—27	☎052—681—8661
大阪支店	〒553 大阪市福島区福島7—6—7(山陽ビル8F・9F)	☎ 06—451—9111
神戸支店	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3123
姫路支店	〒672 姫路市飾磨区須賀294(姫路ポートセンタービル)	☎0792—35—7748
広島支店	〒773 広島市西区観音本町1—1—20（辻ビル202）	☎082—233—3458
九州支店	〒812 福岡市博多駅前1-15-20(日本団体生命ビル9F)	☎092—482—4300
営業所	岡山・四国・淡路・横須賀・北九州・熊本	



暑中お見舞申し上げます

平成6年盛夏

団体・報道・建材・設備工事有志



財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540 大阪市中央区農人橋2－1－10(大阪建築会館5F)　電話 06(943)7253



社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　井手正己

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877



社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　平本俊秋

〒730 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111



社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　森口雅文

〒460 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階)　電話052(261)1451



社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　小池康雄

〒640 和歌山市ト半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人

日本建築材料協会

会長　大森正男

〒550　大阪市西区京町堀1丁目8番3号　電話06(443)0345

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業39年

日報

株式会社 建設日報社

代表取締役社主　重村登龍

本　社　〒550 大阪市西区江之子島1-7-3　TEL06(444)2405-9
別　館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2　TEL06(444)6431-4

株式会社 日刊建設通信新聞社関西支社

取締役副社長　兼平賢司
関西支社長　霜崎等

〒540 大阪市中央区内本町1－3－5　内本町山森・住友生命ビル　電話 06(944) 9191代表　FAX 06(944) 9197
本　社・〒105 東京都港区西新橋2－11－4　電話 03(3502)8581代表

大阪府耳順会

（大阪府OB建設技術研究会）

会長　山地英雄(オオバ)　副会長　牧田顯治(安井建築設計事務所)　名手宏彦(ミサワホーム)
幹事　上野勇(栗本建設)　恒吉正樹(西田工業)　豊田忠男(大末建設)　野村昌史(松村組)　林貞夫(鉄建建設)
広畑哲(不動建設)　兵本宣弘(東急建設)　八木常美(大都工業)　両国寛(鴻池組)
会計幹事　辻田幸治(矢崎総業)　石橋輝雄(大鉄工業)　監事　辻信(青木建設)　森岡瀞(日本コムシス)
会合場所　㈳日本建築協会　☎06－348－0635

会員の親睦と講演――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一
事務局　日本建築協会
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第3ビル21階
電話 (06) 348－0635　FAX (06) 348－0634

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351—5428㈹
FAX(06)351—5299

UMEHIKO

株式会社　梅　彦

代表取締役　二野為之助

本　社　大阪市北区中崎西３丁目１番２号　電話 06（377）３５００大代
FAX06（377）３５０１大代
工　場　茨木市豊川３丁目１番６号　電話0726（43）５１８５代

耐酸被覆鋼板

オリエンタルメタル株式会社

代表取締役会長　津村芳仁
代表取締役社長　津村芳範

本社及び東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5-12-2　TEL(048)442-3115(代)
西日本支社　〒660 尼崎市昭和南通3-26松本ビル　TEL(06)412-5131(代)
東京支店・東北支店・名古屋支店・大阪支店・広島支店・九州支店

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役　木村雅秀

〒540 大阪市中央区内平野町3丁目2番11号　電話 06(941) ４１８１(代)

消火設備のパイオニア

株式会社コーアツ

代表取締役社長　野副泰正

本社/大阪支社　伊丹市北本町１丁目３１０番地　電話0727(82)8562
東京支社　東京都千代田区九段南４丁目７番13号(大島ビル)　電話03(3265)7651
豊田営業所　豊田市大林町12丁目５番地14　電話0565(26)1521

結露防止に卓効のある　湿度を調節する断熱建材

KFK

防火 防音 **モクセン板** 防腐 防虫

〝コンクリート建物の水準向上に〟

神戸不燃板工業株式会社

〒673-05 兵庫県三木市志染町三津田　TEL (0794)87—3121(代)

人と文化のふれあいをつくる

三精輸送機株式会社

代表取締役　太田昭比古

本　　社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564　☎ 06（385）5621（代）
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷５の29の11　☎ 03（3356）5651（代）
福知山工場：福知山市長田野町２丁目45番地　☎ 0773（27）1211（代）
営　業　所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄



クリーンルーム
実験動物室空調
設計施工

よりよき環境へ技術で挑む————

株式会社 精 研

代表取締役社長　大 川 一 善

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号　電話06—768—5031(大代)
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル)　電話03—5689—2351㈹
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜264　電話0886—85—0924㈹



東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘 林 彦 四 郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電 話 (075) 681－7221㈹
FAX (075) 681－7224

TAJIMA

株式会社 タジマ

東京営業本部　〒110 東京都台東区北上野1-6-11 ノルドビル　電話(03)3866-6101　FAX(03)3861-3615
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－10－5　電話(06) 441-5951　FAX(06) 444-2596



田島ルーフィング株式会社
東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町3－11－14　電話 (03)5821—7711
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀1－10－5　電話 (06) 443－0431

TOYOShutter

東洋シヤッター株式会社

取締役社長　岡 田　　敏

本　　社　〒540 大阪市中央区南新町1-2-10(ＴＳビル) 電話(06) 943－6571㈹
東京本社　〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル)電話(03)3497－2911㈹

---

naigai

コピーの綜合コンサルタント

株式会社 ナイガイ

代表取締役　木 下 二三子

本　　社　大阪市中央区道修町4-5-5　TEL(06) 231-1270㈹
京町堀営業所　大阪市西区京町堀1-17-16(スミトービル)　TEL(06) 443-2800
インテス営業所　大阪市西区西本町2-3-10(インテスビル)　TEL(06) 538-0377
御堂営業所　大阪市中央区本町4-1-13(御堂ビル)　TEL(06) 252-3906
横堀営業所　大阪市中央区道修町4-5-5　TEL(06) 231-4644
泉南営業所　大阪府泉佐野市松原1丁目5—3　TEL(0724)64-8158
本町営業所　大阪市中央区本町3-5-7(御堂筋本町ビル)　TEL(06) 263-2734

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　昭秀

本　社　大阪市北区中津6丁目8番4号　電話 大阪(06)458—3628
支店·営業所　福岡・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

本　社　〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3·4F TEL 06-352-7502㈹
印刷工場　〒530 大阪市北区天満1丁目10番8号 TEL 06-357-1908

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長代理　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）3191　大代表

合理的な
三好式ガラス防煙垂壁『M式ツリコ』

製造発売元 株式会社ミヨシ

本社／〒730 広島市中区紙屋町2丁目2-38　☎082-248-0344　FAX082-247-3479
関西／〒646 奈良県磯城郡田原本町新町　☎07443-3-4431　FAX077476－4907

三協アルミニウム工業株式会社代理店 日立化成工業株式会社代理店
立山アルミニウム工業株式会社代理店 新明和工業株式会社代理店
豊和工業株式会社代理店 近畿車輌株式会社 代理店
倉敷ユニット株式会社代理店 住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島・北九州　工　場：大津・竹原

建設環境金属製品の
UNION

株式会社ユニオン

代表取締役　立　野　純　三

本　　社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550 電話 06(532)3731(代)
東京支店　東京都江東区白河2－9－5　〒135 電話03(3630)2811(代)
名古屋営業所　名古屋市中川区舟戸町3-20　〒454 電話052(363)5221(代)



空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3 電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03－3344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・神戸・広島・福岡
営 業 所　札幌・京都・松江
出 張 所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・山梨・川崎・富山・福井
和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768－1651　代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
郵便番号112　電話（03）5689－2351代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352-3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738㈹

Carrier　冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

夢×技=∞（無限大）

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木

K栗原工業㈱

本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101　創業1919

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山本貴士

本　社　大阪市北区中之島3－2－4　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(3574)0665　福岡出張所　TEL 福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長 馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
- 電気設備
  - 受変電・幹線
  - 動力・制御装置
  - 電話、放送、インターホン
  - 防犯、防災
  - 中央監視制御
  - システム計装
- 空調・給排水・衛生設備
  - 空気調和
  - 工場配管
  - 水処理
  - コージェネレーション
  - クリーンルーム
- プラント
  - プラント計装
  - システムエンジニアリング
- 情報通信設備
  - 情報通信ネットワーク
  - 情報処理
  - 通信システム
  - 放送システム
- 電力流通設備
  - 受変電
  - 架空送配電
  - 地中送配電

きれと魅力にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

SANPO

取締役社長 嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

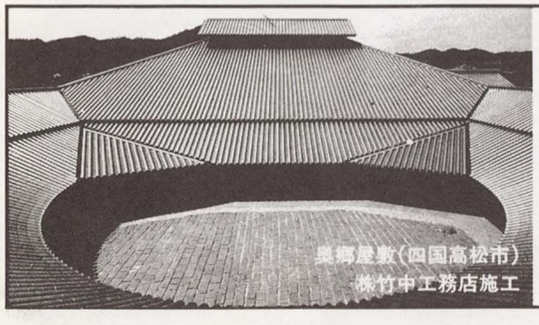
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL 06(792)5858　FAX 06(792)2810



墨郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

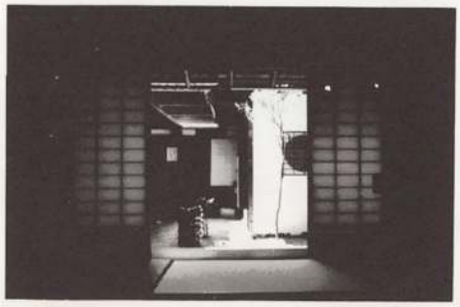
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

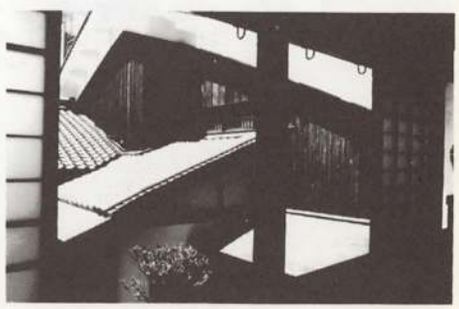
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







Space design school 8月

大阪ガスインテリアデザインスクールの8月開講ゼミの講師は、大阪大学助教授加藤晃規氏。「都市と川」と題して、川の魅力を最大限に活用する都市開発のあり方、都市景観について考える。

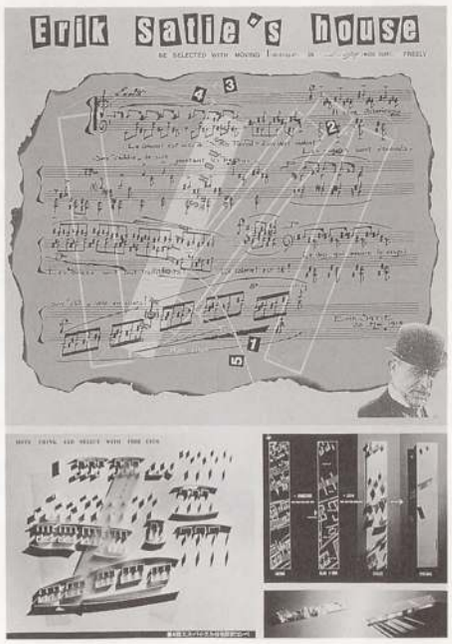
募集定員　30名（定員になり次第締め切り）
受講費用　35,000円（再受講は30,000円）
テーマ　①8月19日㈮　18:30〜20:50
「埋め立て都市から水網都市へ」
②9月3日㈯　14：00〜16：20
「水都大阪の発掘」
③9月16日㈮　18：30〜20：50
「世界のリバーフロント」
④9月30日㈮　18：30〜20：50
「80年代のウォーターフロント開発」
⑤10月7日㈮　18：30〜20：50
「大阪のリバーフロント未来像」
会　場　大阪ガスインテリアデザインスクール
（大阪市中央区備後町3-6-14　備後町オークビル6F　TEL06-262-4089）

第4回エス・バイ・エル住宅設計コンペの入賞決まる

〈エリック・サティの家〉をテーマにした第4回コンペでは5月の審査（審査委員長：出江寛氏）の結果、応募作品703点の中から大賞1点、審査員賞6点、佳作12点を選んだ。これらの入賞作品は、7月1日〜17日には東京のエス・バイ・エルスマイリングプラザで展示されたあと、大阪のエス・バイ・エルスマイリングプラザ（大阪市北区梅田、大阪駅前第3ビル20階）で7月23日㈯〜8月7日㈰10時〜18時（水曜日休館）に展示中である。入場無料。

●

大賞に選ばれた王案と、近藤案が最後の審査で3対3で大きくもめたが、表現の面白さで王氏に決まった。この案がサティの音楽的思想（美学）に必ずしもかなっているとは思えないが、楽譜のもつ図形を建築化することで近藤案よりも表現において面白く花があって決まった―審査講評より抜粋―



第4回エス・バイ・エル住宅設計コンペ〈エリック・サティの家〉
大賞　王　昀（東京大学生産技術研究所　31歳）

OM
テトカッパー防水層
カッパー防水帯――コーパータイト／オクロン防水帯
資料をご請求下さい。
奥山化工業株式会社
本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所 TEL06(391)1081〜2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660
横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)4341
埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。
TOYO Shutter
東洋シヤッター株式会社
本　社　〒540 大阪市中央区南新町1−2−10（TSビル）
TEL（06）943−6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市



空　間　無　限

太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

三和シャッター

都市アート計画。



ビルの表情を個性ゆたかに彩る、三和のステンレス建材です。

どこまで個性を主張できるか。どれだけ都市に美しく調和できるか。それが、これからの建築に求められる大きなテーマです。三和のステンレス建材なら、建物のイメージにあわせてデザインは自由自在。その高級感あふれる質感と、耐蝕性にすぐれた特性を活かし、ビルのフロントはもちろん、インテリアからエクステリアまでを個性ゆたかに彩ります。ビルに、都市に、アート感覚をプラスする、先進のマテリアルです。

STAINLESS
CONSTRUCTION MATERIAL

三和シャッター工業株式会社
本社 〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル44階 ☎03(3346)3011
関西ビル建材事業部 〒532 大阪市淀川区宮原4-4-50 真和ビル ☎06(396)6811

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634
振替口座 大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価1,200円(本体1,165円 消費税35円 送料共)
雑誌 03379-7